香川高等専門学校自己点検評価実施要項

平成２７年７月３０日制定

（趣旨）

第１条　この要項は，香川高等専門学校点検評価委員会規程第２条の規定に基づき，自己点検評価（以下「点検評価」という。）の実施及び評価基準について必要な事項を定める。

（実施）

第２条　点検評価は，香川高等専門学校が行う活動に対する基本的な方針及び活動を通じて達成しようとする成果等を確認した上で，３～４年ごとに実施する。

２　点検評価は，評価基準ごとに，現状把握，現状分析及び評価を行い，評価結果に基づく改善策を策定する。

３　点検評価は，その手法，評価結果の妥当性等についての検証も併せて行う。

４　点検評価の結果は，公表する。

（評価基準等）

第３条　点検評価は，別表第１に掲げる評価項目及び評価基準に基づき実施する。

（評価方法）

第４条　点検評価は，各評価基準に対する達成度に応じて，別表第２に掲げる５段階の水準による評価を行う。

（意見聴取）

第５条　点検評価の実施に際しては、評価基準によって学生等の意見を聴取することができる。

（雑則）

第６条　この要項に定めるもののほか，点検評価の実施に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

１　この要項は，平成２７年７月３０日から施行する。

２　香川高等専門学校点検評価規程（平成２１年１０月１日制定）は、廃止する。

附　則

１　この要項は，令和４年１１月２２日から施行する。

別表第１（第３条関係）　評価項目及び評価基準

評価項目	評価基準
教育の内部質保証システム関する事項	○教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第 109 条第 1 項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。
	○準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。
	○学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。
教育組織及び教員・教育支援者等に関する事項	○学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。
	○教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。
	○全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。
	○教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。
学習環境及び学生支援等に関する事項	○学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。 また、ＩＣＴ環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。
	○教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。 また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。
財務基盤及び管理運営に関する事項	○学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。 また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。
	○学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。
	○学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。

準学士課程の教育課程・教育方法に関する事項	○準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。
	○準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。
	○準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム･ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。
準学士課程の学生の受入れに関する事項	○入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。
準学士課程の学習・教育の成果	○卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。
専攻科課程の教育活動の状況	○専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。
	○専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。
	○修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。
正規課程の学生以外に対する教育サービスに関する事項	○高等専門学校の目的に照らして，正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ，成果を上げていること。 （一般市民を対象とした公開講座） （地域小中高生への STEAM 教育） （学外行事・催物への支援を通した地域社会への貢献）
国際交流に関する事項	○国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され，機能していること。
	○国際交流活動を適切に実施し，成果が上げられていること。

別表第２（第４条関係）

段　　階	評価水準
5	特に優れている
4	優れている
3	水準に達している
2	改善の余地がある
1	改善を要する

香川高等専門学校点検評価委員会規程

平成 21 年 10 月 1 日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，香川高等専門学校内部組織規則第 22 条第２項の規定に基づき，香川高等専門学校点検評価委員会（以下「委員会」という。）について定めるものとする。

２　委員会は，香川高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究水準の向上を図り，本校の目標及び社会的使命を達成するため，本校における教育研究活動等の状況について自ら点検評価（以下「点検評価」いう。）を行うことに関し必要な事項について審議するものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項について審議するものとする。

一　点検評価の項目に関すること。

二　点検評価の実施に関すること。

三　点検評価の報告書の作成及び公表に関すること。

四　点検評価の結果の活用に関すること。

五　その他点検評価に関すること。

（組織及び任期）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

一　校長

二　副校長

三　教務主事

四　専攻科長及び各専攻長

五　一般教育科長及び各学科長

六　事務部長

（運営）

第４条　委員会に委員長及び副委員長を置く。

２　委員長は，校長をもつて充てる。

３　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

４　副委員長は，校長が指名する前条第二号の委員をもつて充てる。

５　委員長に事故あるときは，副委員長がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第５条　委員長は，必要に応じ，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。

（事務）

第６条　委員会の事務は，総務課において処理する。

（その他）

第７条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員長が定める。

附　則

この規程は，平成 21 年 10 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は，平成 22 年８月 1 日から施行する。

附　則

この規程は，平成 28 年５月 26 日から施行する。

香川高等専門学校企画評価室規程

平成 27 年 3 月 3 日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，香川高等専門学校内部組織規則第 21 条の２第２項の規定に基づき，企画評価室の組織等について定めるものとする。

（目的）

第２条　企画評価室は，本校における年度計画の策定並びに教育研究活動等の状況についての自己点検評価の実施，第三者評価への対応及びそれらの評価結果の活用について，機動的かつ効果的に推進することを目的とする。

（業務）

第３条　企画評価室は，次の各号に掲げる業務を行う。

一　年度計画の策定及び実績報告書の取りまとめに関すること。

二　認証評価に係る自己評価書の取りまとめに関すること。

三　自己点検評価の実施及び評価結果の活用に関すること。

四　計画・評価に係る情報の収集，調査，分析に関すること。

（組織）

第４条　企画評価室は，次に掲げる室員をもって組織する。

一　副校長

二　教務主事

三　専攻長

四　校長が必要と認めた教員

（室長）

第５条　室長は，副校長の中から校長が指名する。

２　室長は，企画評価室の業務を掌理する。

（室員の任期）

第６条　第４条第四号の室員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（事務）

第７条　室の事務は，総務課において処理する。

（その他）

第８条　この規程に定めるもののほか，企画評価室の運営に関し必要な事項は，別

に定める。

附　則

この規程は，平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

資料名　自己点検評価実施依頼文書

令和４年１１月２９日

関係各位

企画評価室長

令和４年度香川高等専門学校自己点検評価の実施について（依頼）

このことについて、下記により提出くださるよう、よろしくお願いいたします。

記

１．提出書類及び作成方法

(1) 自己評価書１（評価項目１～８）

機関別認証評価提出用に作成していただいている書類です。
令和５年１月末を提出期限にしている「機関別認証評価の自己評価書(Excel ファイル)」を、中間報告という形（令和５年１月６日時点）で作成してください。根拠資料は、機関別認証評価提出分を併用します。

自己評価書２（評価項目９、１０）

添付ファイル「評価項目９」(社会連携)、「評価項目１０」(国際交流)
年度計画における昨年度(R3)実績と今年度(R4)の進捗を基に作成し、
根拠資料と併せて提出してください。

(2) 分析結果　別紙１（作成分担表）により提出する。

香川高専自己点検評価実施要項別表第２に掲げる５段階について、「３」を基準に、分析結果の欄に入力してください。前回の評価表を添付します。

※提出ファイル名は、お手数ですが、担当者、担当係等が分かるように【○○】(例：【高松 CP 教務主事】) を先頭につけてください。

２．作成分担表　別紙１のとおり

３．提出先　　サイボウズーファイル管理－自己点検評価－Ｒ４－評価項目
自己評価書は、評価項目ごとのフォルダを作成していますので、該当するフォルダにアップしてください。

４．提出日　　令和５年１月６日（金）

５．参　考　　(1) 前回の自己点検評価表
(2) 香川高等専門学校自己点検評価実施要項

■本件に関する問い合わせ先

高松キャンパス：総務課　[redacted] 内線 3864)／詫間キャンパス：総務課　[redacted] 内線 594))

資料1-1-②-2

別表第1（第3条関係） 評価項目及び評価基準

令和4年度自己点検評価担当部門等一覧表

評価項目	評価基準	観　　点	担当部門等	担当委員会
1　教育の内部質保証システム	1－1　教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第１項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。	1－1－①　教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。	副校長	企画評価室委員会 自己点検評価委員会
		1－1－②　内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	副校長	
		1－1－③　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	副校長	
		1－1－④　自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。	副校長	
	1－2　準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。	1－2－①　準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	教務主事	教務委員会
		1－2－②　準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	教務主事	
		1－2－③　準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	教務主事	
		1－2－④　専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	専攻長	専攻科委員会
		1－2－⑤　専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	専攻長	
		1－2－⑥　専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	専攻長	
	1－3　学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	1－3－①　学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	教務主事	教務委員会
2　教育組織及び教員・教育支援者等	2－1　学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。	2－1－①　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	教務主事	教務委員会
		2－1－②　専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	専攻長	専攻科委員会
		2－1－③　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。	教務主事	教務委員会
	2－2　教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	2－2－①　学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	教務主事	教務委員会
		2－2－②　学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。	専攻長	専攻科委員会
		2－2－③　学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。	教務主事	教務委員会
	2－3　全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。	2－3－①　全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。	副校長	
		2－3－②　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。	副校長	人事委員会
	2－4　教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	2－4－①　授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。	副校長	ＦＤ委員会
		2－4－②　学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	副校長、総務課	副校長
		2－4－③　教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	副校長、総務課	副校長
3　学習環境及び学生支援等	3－1　学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。 また、ＩＣＴ環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。	3－1－①　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	管理課、学務課、学生課、総務課	安全衛生委員会 施設・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ委員会 学生委員会
		3－1－②　教育内容、方法や学生のニーズに対応したＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	情報基盤センター長 総務課	情報基盤ｾﾝﾀｰ委員会
		3－1－③　図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	図書館	図書館委員会
	3－2　教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	3－2－①　履修等に関するガイダンスを実施しているか。	教務主事	教務委員会
		3－2－②　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	教務主事	
		3－2－③　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。	教務主事	
		3－2－④　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	学生相談室	学生相談室
		3－2－⑤　就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。	キャリアサポートセンター長 教務主事	ｷｬﾘｱｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ委員会
		3－2－⑥　学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	学生主事	学生委員会
		3－2－⑦　学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	寮務主事	寮務委員会
4　財務基盤及び管理運営	4－1　学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	4－1－①　学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	管理課	
		4－1－②　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。		企画運営会議
		4－1－③　学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。		企画運営会議
		4－1－④　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。		
	4－2　学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	4－2－①　管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	総務課	企画運営会議
		4－2－②　危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	総務課、管理課	リスク管理室
		4－2－③　外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	総務課、管理課	地域人材開発本部会議 みらい技術共同教育ｾﾝﾀｰ委員会 地域ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ委員会
		4－2－④　外部の教育資源を積極的に活用しているか。	総務課	
		4－2－⑤　管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。	総務課	
	4－3　学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	4－3－①　学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第172条の２に規定される事項を含む。）が公表されているか。	総務課	企画評価室委員会

５　準学士課程の教育課程・教育方法	５－１　準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	５－１－①　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。 ５－１－②　教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。 ５－１－③　創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	教務主事	教務委員会
	５－２　準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	５－２－①　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。 ５－２－②　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	教務主事	教務委員会
	５－３　準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム･ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	５－３－①　成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。 ５－３－②　卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	教務主事	教務委員会
６　準学士課程の学生の受入れ	６－１　入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。	６－１－①　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。 ６－１－②　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 ６－１－③　実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	教務主事	入学試験委員会
７　準学士課程の学習・教育の成果	７－１　卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。	７－１－①　成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。 ７－１－②　達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。 ７－１－③　就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	教務委員会
８　専攻科課程の教育活動の状況	８－１　専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	８－１－①　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。 ８－１－②　準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。 ８－１－③　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。 ８－１－④　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。 ８－１－⑤　成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。 ８－１－⑥　修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	専攻長	専攻科委員会
	８－２　専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。	８－２－①　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。 ８－２－②　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 ８－２－③　実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	専攻長	専攻科委員会
	８－３　修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。	８－３－①　成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。 ８－３－②　達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。 ８－３－③　就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。 ８－３－④　修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	専攻長	専攻科委員会
９　正規課程の学生以外に対する教育サービスに関する事項	９－１　高等専門学校の目的に照らして，正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ，成果を上げていること。 （一般市民を対象とした公開講座） （地域小中高生へのSTEAM教育） （学外行事・催物への支援を通した地域社会への貢献）	９－１－①　本校が主体的に行う教育サービスとして、専門技術講座、一般教養講座などの公開講座の開講を通して、地域住民に生涯学習も含めて学習の機会を提供しているか。 ９－１－②　小中高校への出前授業や地域の行事・催物における科学技術体験教室を通して、科学技術の本質や科学の発展に従事する研究者・技術者の姿に触れる機会を与え、我が国の時代を担う次世代の育成を図っているか。 ９－１－③　地域産業界等、学外からの依頼に応じ、行事・催物に参加し、理工系分野の啓蒙活動を図るとともに地域社会への貢献を果たしているか。	地域人材開発本部 みらい技術共同教育センター長 地域イノベーションセンター長 AI社会実装教育研究センター長 社会基盤ﾒﾝﾃﾅﾝｽ教育センター長	地域人材開発本部会議 みらい技術共同教育ｾﾝﾀｰ委員会 地域ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ委員会 AI社会実装教育研究 本部委員会 社会基盤ﾒﾝﾃﾅﾝｽ教育ｾﾝﾀｰ委員会
１０　国際交流に関する事項	１０－１　国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され，機能していること。	１０－１－①　国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され、機能しているか。	国際交流室長	国際交流委員会 国際交流室会議
	１０－２　国際交流活動を適切に実施し，成果が上げられていること。	１０－２－①　国際交流活動を適切に実施し、成果が上げられているか。	国際交流室長	国際交流委員会 国際交流室会議

今回の自己点検評価の提出について

令和5年1月末を提出期限にしている「機関別認証評価の自己評価書（Excelファイル）」を、中間報告という形で令和5年1月6日（金）に提出してください。

分析結果を入力してください：5 特に優れている　4 優れている　3 水準に達している　2 改善の余地がある　1 改善を要する

JABEE・認証評価・自己評価

教育点検改善ループ

PDCAサイクル

JABEE

詫間キャンパスJABEEページ

機関別認証評価

香川高等専門学校　機関別認証評価ページ
旧高松工業高等専門学校　機関別認証評価ページ
旧詫間電波工業高等専門学校　機関別認証評価ページ

自己評価

自己点検評価（令和４年度：0.4MB）
自己点検評価（平成２７年度：0.2MB）

外部評価

外部評価委員会（令和４年度報告書：4MB）
外部評価委員会（令和３年度報告書：3.15MB）
外部評価委員会（平成３０年度報告書：6.76MB）
外部評価委員会（平成２９年度報告書：7.22MB）
外部評価委員会（平成２７年度報告書：1.03MB）
外部評価委員会（平成２４年度報告書：1.82MB）
外部評価委員会（平成２３年度報告書：8.8MB）
外部評価委員会（平成２２年度報告書：5MB）
※平成２８・２６・２５年度は未開催

学内向け情報

アクセスマップ
学校広報誌

入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

クラ
高等
学生
いじ
ハラ
学生
女子
障が
免除
学生
高専
意見
新型
【高
高専
プロ
デザ
高専
高専

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

出典　香川高専HP JABEE・認証評価・自己評価

資料名　学生による授業評価アンケート実施要領　　**資料1-1-③-2**

令和４年度前期授業アンケート

実施日

本科生　　８月５日（金）～８月１０日（水）試験返却期間中（別紙１）クラス単位

専攻科生　　８月１日（月）～８月１０日（水）学生が随時行う

学生への周知

さくら連絡網にて別紙２～３を下記日程で配信する

本科生　　８月４日（木）　１４時２０分

専攻科生　　８月１日（月）　８時４０分

アンケート対象

通年、及び前期授業実施科目（芸術、体育等の実技科目を除く）

アンケート内容

別紙４（サンプル）のとおり

アンケート結果

各教員にメールにて通知される。学生によるアンケート回答終了後、学務係で csv データをまとめる。コメントを除いたデータを学校ホームページ「学生による授業評価」にて公開する。

アンケート作成者（今年度担当）

詫間キャンパス技術教育支援員　[redacted]氏

別紙4

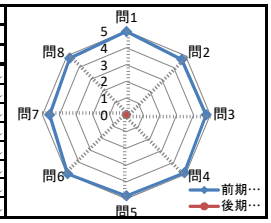
授業評価アンケート　設問項目

設　　問	5	4	3	2	1
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	されている		どちらともいえない		されていない
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	わかりやすい		どちらともいえない		わかりにくい
3. 授業の説明はわかりやすいか。	わかりやすい		どちらともいえない		わかりにくい
4. 授業の進み具合は適切ですか。	適切である		どちらともいえない		適切でない
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	適切である		どちらともいえない		適切でない
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	良い		どちらともいえない		悪い
7. 授業の内容は理解できましたか。	理解できた		どちらともいえない		理解できない
8. この授業にしっかり取り組みましたか。（授業態度、予習、復習、試験勉強等）	取り組んだ		どちらともいえない		取り組んでいない
自由記述欄： 今後の授業改善に役立てることができるように、授業の現状に対する建設的な記述をお願いします。					

国語Ⅰ

設問	実施期間 5	4	3	2	1	総回答 無回答	36 平均
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	35	1	0	0	0	0	4.97
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	29	2	5	0	0	0	4.67
3. 授業の説明はわかりやすいか。	31	1	4	0	0	0	4.75
4. 授業の進み具合は適切ですか。	33	2	1	0	0	0	4.89
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	33	0	3	0	0	0	4.83
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	35	1	0	0	0	0	4.97
7. 授業の内容は理解できましたか。	27	3	6	0	0	0	4.58
8. この授業にしっかり取り組みましたか。	32	1	2	1	0	0	4.78

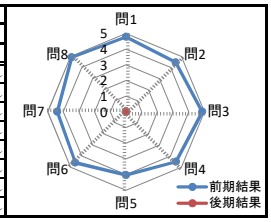
実施期間	5	4	3	2	1	総回答 無回答	0 平均
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし



社会Ⅰ

設問	実施期間 5	4	3	2	1	総回答 無回答	36 平均
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	31	2	3	0	0	0	4.78
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	26	1	9	0	0	0	4.47
3. 授業の説明はわかりやすいか。	33	1	2	0	0	0	4.86
4. 授業の進み具合は適切ですか。	27	3	4	1	1	0	4.50
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	22	0	10	1	3	0	4.03
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	27	3	6	0	0	0	4.58
7. 授業の内容は理解できましたか。	26	3	4	1	2	0	4.39
8. この授業にしっかり取り組みましたか。	34	1	1	0	0	0	4.92

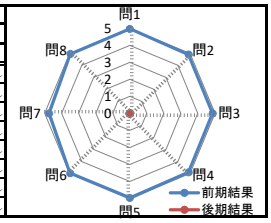
実施期間	5	4	3	2	1	総回答 無回答	0 平均
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし



数学ⅠA

設問	実施期間 5	4	3	2	1	総回答 無回答	36 平均
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	35	1	0	0	0	0	4.97
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	32	4	0	0	0	0	4.89
3. 授業の説明はわかりやすいか。	32	3	1	0	0	0	4.86
4. 授業の進み具合は適切ですか。	33	2	1	0	0	0	4.89
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	35	1	0	0	0	0	4.97
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	35	1	0	0	0	0	4.97
7. 授業の内容は理解できましたか。	31	1	4	0	0	0	4.75
8. この授業にしっかり取り組みましたか。	34	2	0	0	0	0	4.94

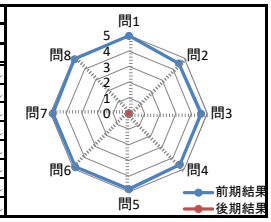
実施期間	5	4	3	2	1	総回答 無回答	0 平均
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし



数学ⅠB

設問	実施期間 5	4	3	2	1	総回答 無回答	36 平均
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	35	1	0	0	0	0	4.97
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	26	3	7	0	0	0	4.53
3. 授業の説明はわかりやすいか。	27	4	5	0	0	0	4.61
4. 授業の進み具合は適切ですか。	29	2	4	0	1	0	4.61
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	32	2	2	0	0	0	4.83
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	33	0	3	0	0	0	4.83
7. 授業の内容は理解できましたか。	33	1	2	0	0	0	4.86
8. この授業にしっかり取り組みましたか。	34	1	1	0	0	0	4.92

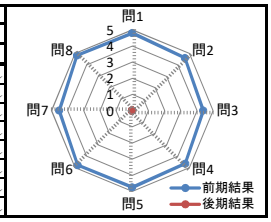
実施期間	5	4	3	2	1	総回答 無回答	0 平均
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし



化学Ⅰ

設問	実施期間 5	4	3	2	1	総回答 無回答	36 平均
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	32	1	3	0	0	0	4.81
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	28	2	6	0	0	0	4.61
3. 授業の説明はわかりやすいか。	24	3	8	1	0	0	4.39
4. 授業の進み具合は適切ですか。	29	1	6	0	0	0	4.64
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	30	3	3	0	0	0	4.75
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	31	2	3	0	0	0	4.78
7. 授業の内容は理解できましたか。	27	1	8	0	0	0	4.53
8. この授業にしっかり取り組みましたか。	32	2	2	0	0	0	4.83

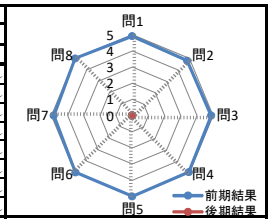
実施期間	5	4	3	2	1	総回答 無回答	0 平均
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし



英語ⅠA

設問	実施期間 5	4	3	2	1	総回答 無回答	36 平均
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	34	1	1	0	0	0	4.92
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	32	1	3	0	0	0	4.81
3. 授業の説明はわかりやすいか。	34	0	2	0	0	0	4.89
4. 授業の進み具合は適切ですか。	35	0	1	0	0	0	4.94
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	36	0	0	0	0	0	5.00
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	35	1	0	0	0	0	4.97
7. 授業の内容は理解できましたか。	33	1	2	0	0	0	4.86
8. この授業にしっかり取り組みましたか。	36	0	0	0	0	0	5.00

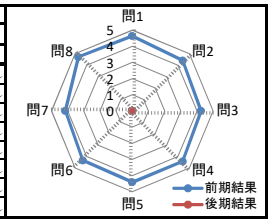
実施期間	5	4	3	2	1	総回答 無回答	0 平均
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし



英語ⅠB

設問	実施期間 5	4	3	2	1	総回答 無回答	36 平均
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	29	3	3	0	1	0	4.64
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	26	1	8	0	1	0	4.42
3. 授業の説明はわかりやすいか。	23	2	9	1	1	0	4.25
4. 授業の進み具合は適切ですか。	26	2	6	1	1	0	4.42
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	25	3	7	0	1	0	4.42
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	25	1	8	1	1	0	4.33
7. 授業の内容は理解できましたか。	22	3	8	0	3	0	4.14
8. この授業にしっかり取り組みましたか。	32	1	1	1	1	0	4.72

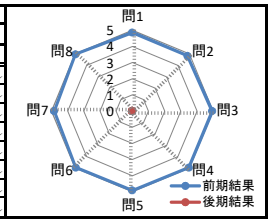
実施期間	5	4	3	2	1	総回答 無回答	0 平均
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし



表現コミュニケーションⅠ

設問	実施期間 5	4	3	2	1	総回答 無回答	36 平均
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	33	1	2	0	0	0	4.86
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	33	0	3	0	0	0	4.83
3. 授業の説明はわかりやすいか。	34	2	0	0	0	0	4.94
4. 授業の進み具合は適切ですか。	35	0	1	0	0	0	4.94
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	34	1	1	0	0	0	4.92
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	34	2	0	0	0	0	4.94
7. 授業の内容は理解できましたか。	32	2	2	0	0	0	4.83
8. この授業にしっかり取り組みましたか。	35	1	0	0	0	0	4.97

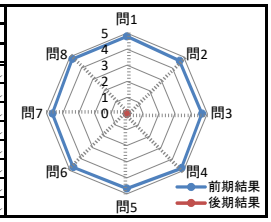
実施期間	5	4	3	2	1	総回答 無回答	0 平均
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし



工学リテラシー

設問	実施期間 5	4	3	2	1	総回答 無回答	36 平均
1. シラバスに沿って授業が実施されていますか。	32	1	3	0	0	0	4.81
2. 黒板やプロジェクタ原稿の書き方，文字はわかりやすいですか。	29	3	3	0	1	0	4.64
3. 授業の説明はわかりやすいか。	29	2	5	0	0	0	4.67
4. 授業の進み具合は適切ですか。	32	1	3	0	0	0	4.81
5. 評価方法レポート・試験問題等は適切ですか。	29	2	5	0	0	0	4.67
6. 総合的に判断してよい授業だと思いますか。	30	2	4	0	0	0	4.72
7. 授業の内容は理解できましたか。	29	2	4	1	0	0	4.64
8. この授業にしっかり取り組みましたか。	32	1	3	0	0	0	4.81

実施期間	5	4	3	2	1	総回答 無回答	0 平均
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし
1-1 後期	0	0	0	0	0	0	実施なし



39香川高専

各校配付版-P1

令和3年度卒業生・修了生アンケート

アンケート項目

【高専満足度－１】

高専生活を振り返って，下記項目ごとの高専の満足度を５段階で評価してください。ただし，専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

・一般科目の授業
・専門科目の授業
・実験実習等
・卒業研究や特別研究等での研究指導
・就職・進学に関する指導や支援

【高専満足度－２】

高専生活を振り返って，下記項目ごとの高専の満足度を５段階で評価してください。ただし，専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

・授業外の学習支援
・クラブ活動や課外での活動
・学生生活の指導や支援
・寮での指導や支援

【自分自身の達成感】

高専生活を振り返って，下記項目ごとの自分自身の達成感を５段階で評価してください。ただし，専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

・授業等の学習
・卒業研究や特別研究等の研究活動
・進学・就職に向けた取り組み

【自分自身の成長実感】

高専生活を通して，下記項目について入学時点に比べ自分自身が成長した（身につけた）と感じているかを５段階で評価してください。本科は５年間での成長を，専攻科は専攻科２年間での成長について評価してください。

・実践的技術者に必要な基礎知識や技術
・修得した専門知識や技術を社会に還元できる力
・コミュニケーション力と人間力（社会人基礎力）
・自ら学ぶ力
・物事を論理的に思考・表現することができる力

【総合満足度】

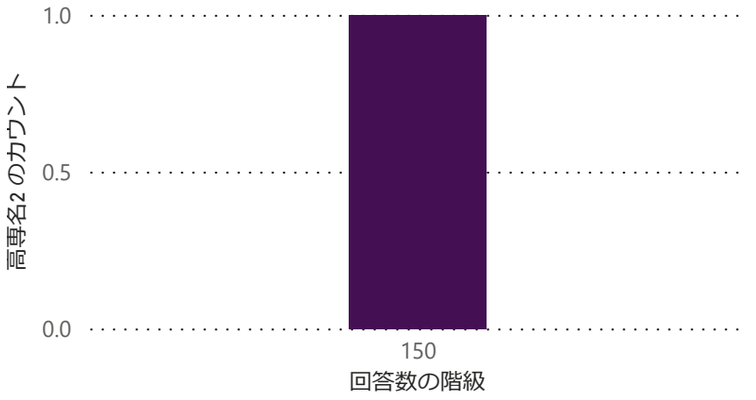
高専生活全体を振り返って，総合的な満足度を自分のキャリア形成（卒業後の自分の考え方・生き方）に役立だったか、これからも役立ちそうかどうかを５段階で評価してください。ただし，専攻科の場合は専攻科課程について評価してください

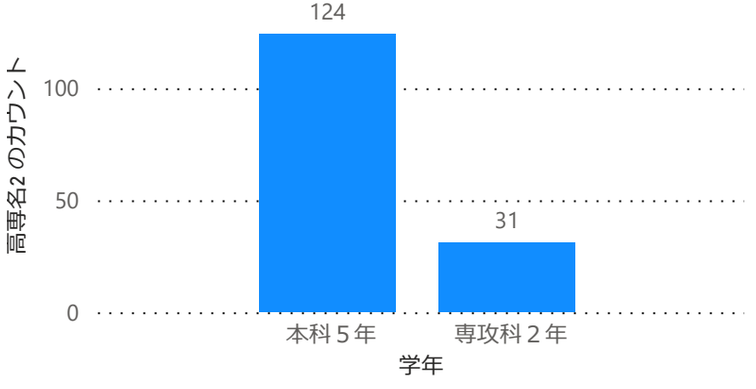
・思い描いていた卒業後の将来像実現のために、高専生活は役立ちましたか？
・高専生活は、これからのキャリア形成に役立ちそうですか？

回答数：　155

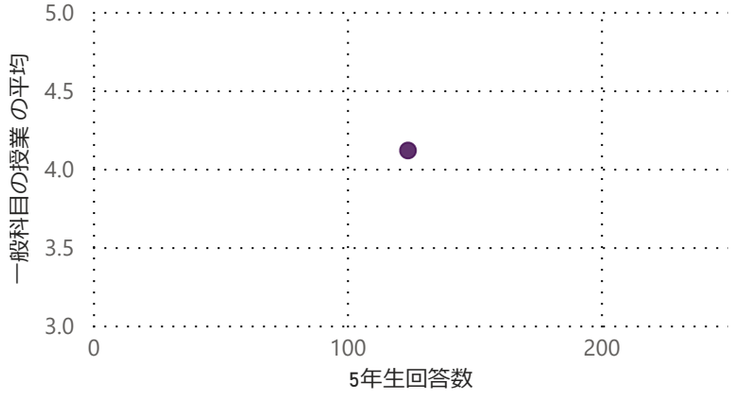
５年生：　124

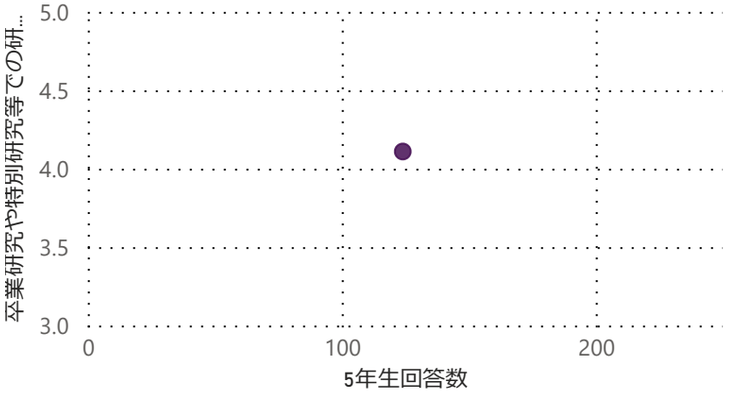
専攻科２年生：　31

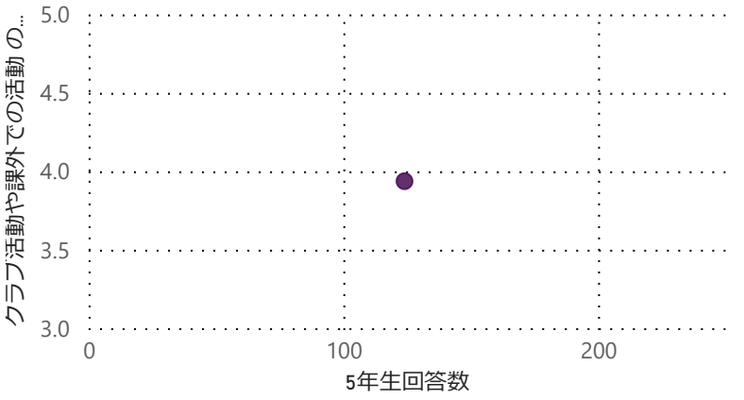


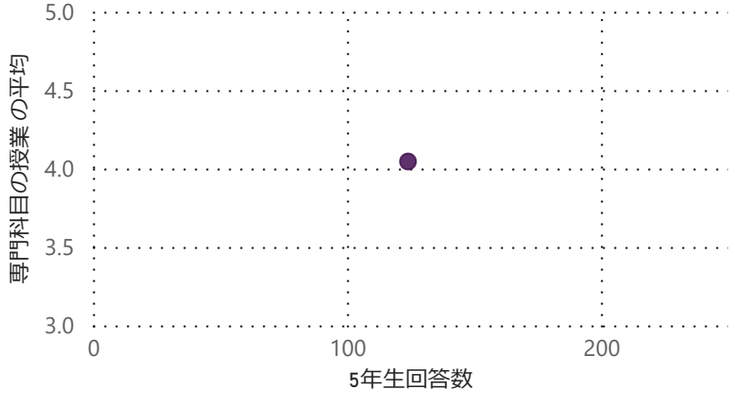


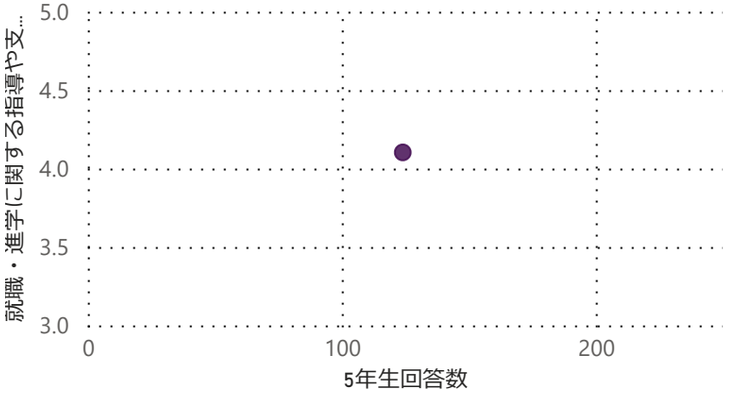
X軸は5年生の回答率
Y軸は各校の各項目の平均値

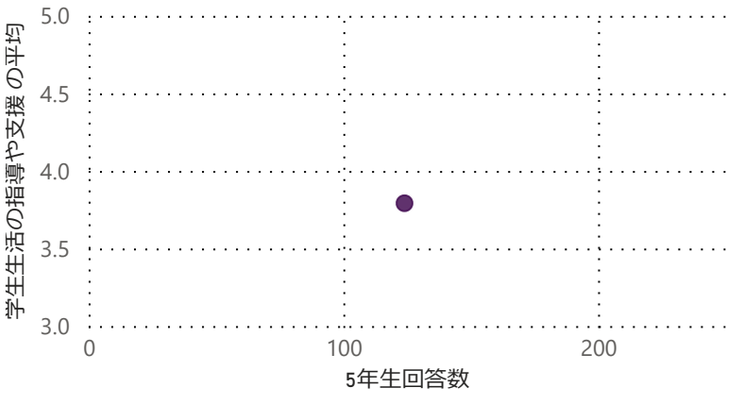


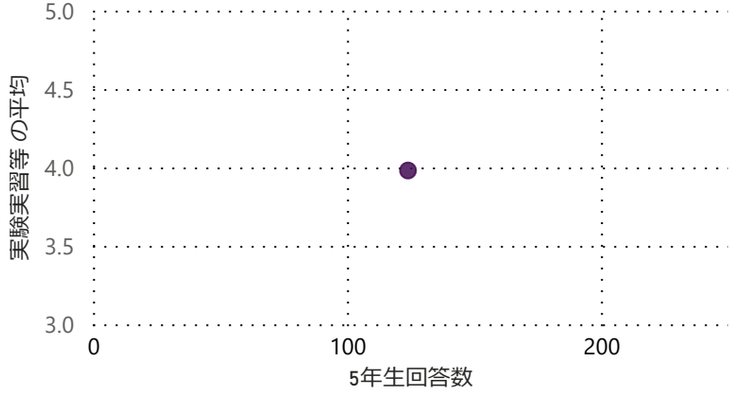


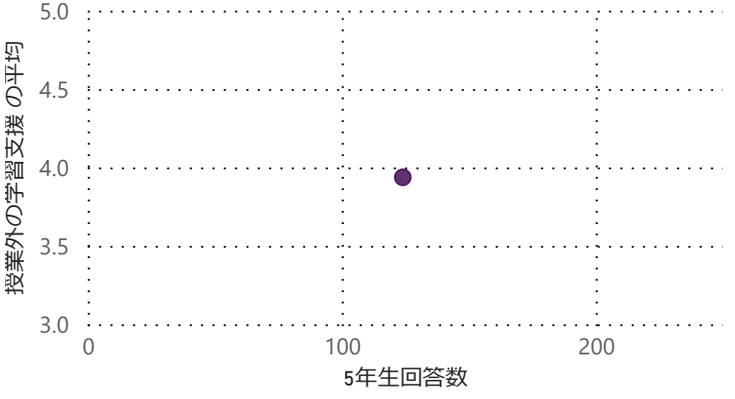


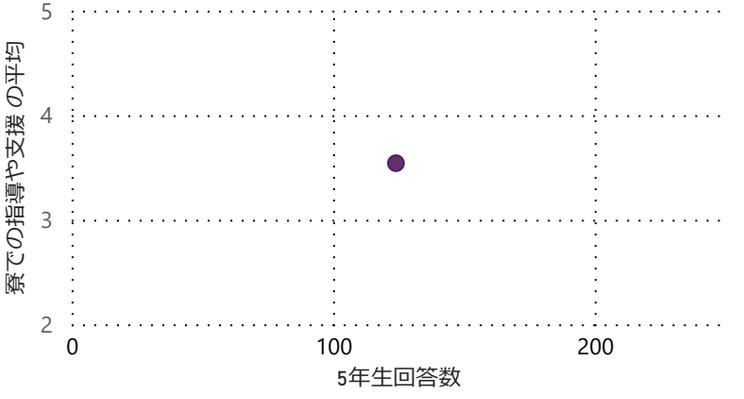




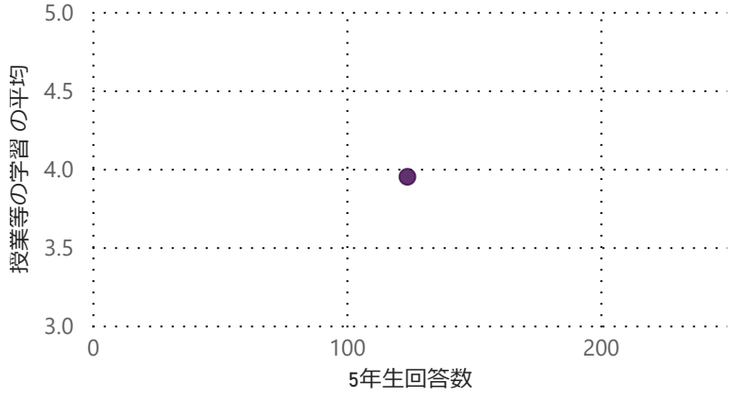


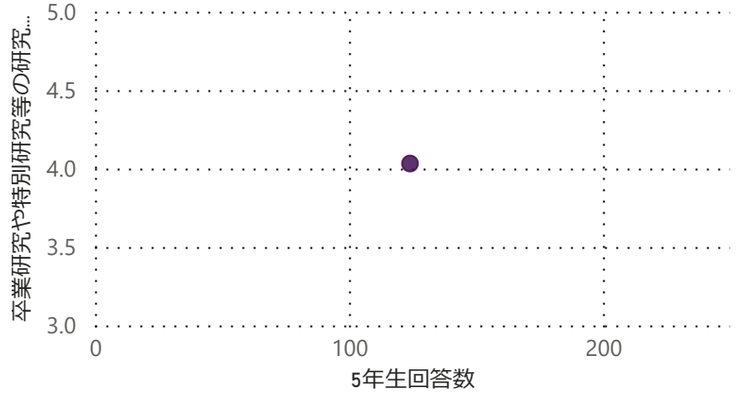


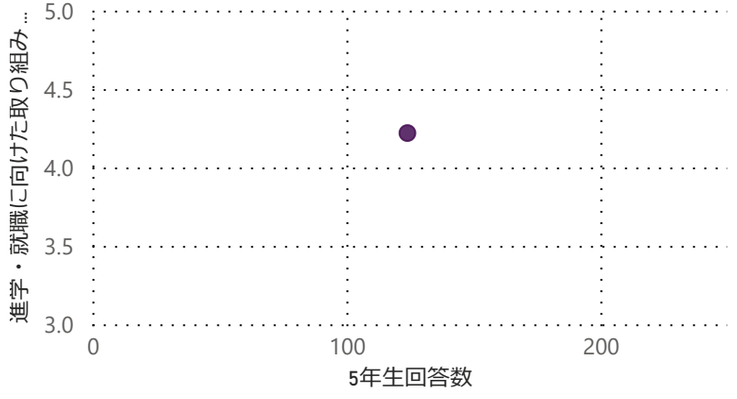




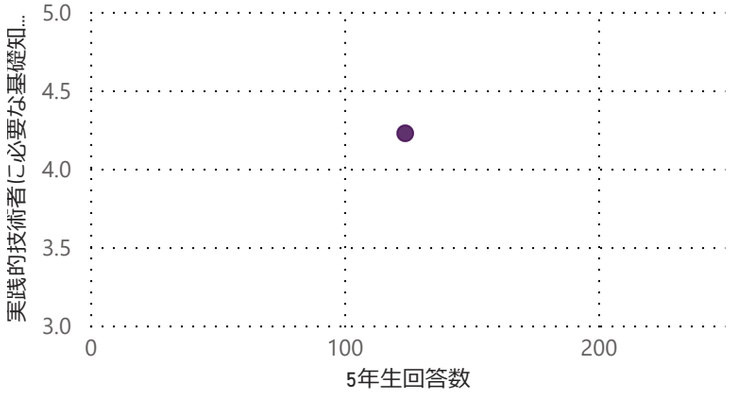
【自分自身の達成感】

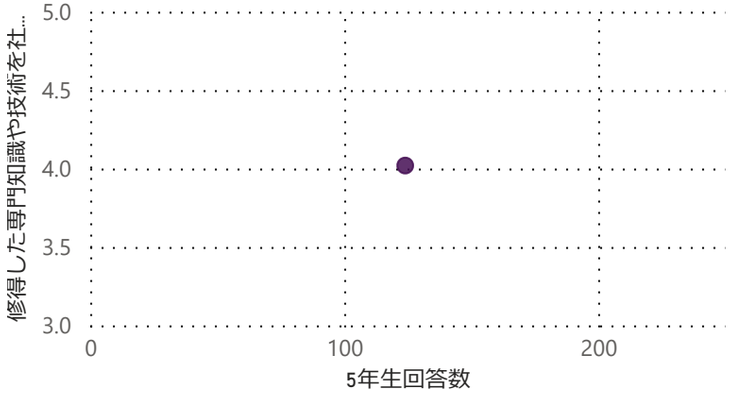


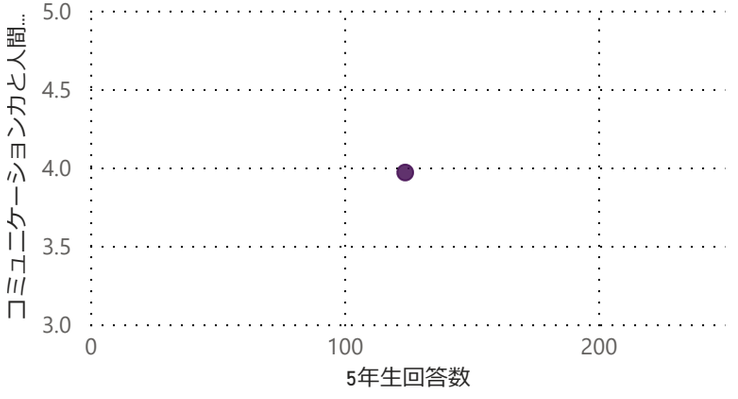




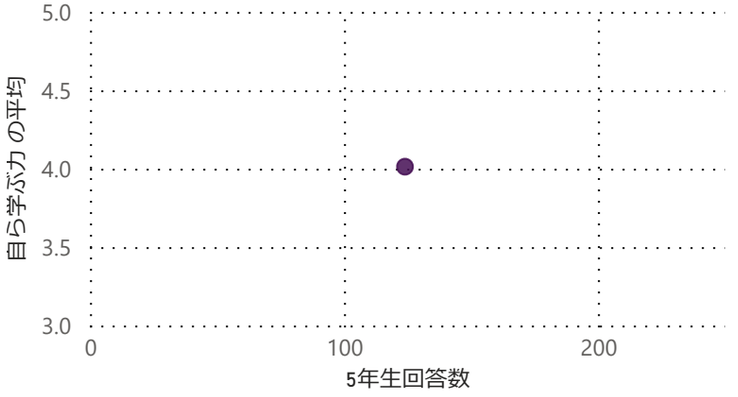
【自分自身の成長実感】

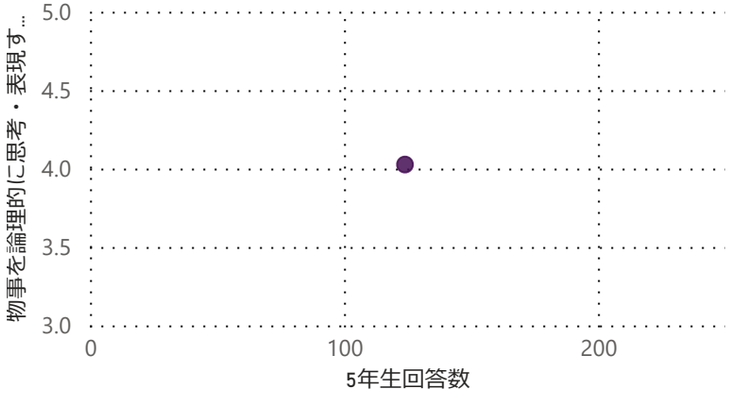






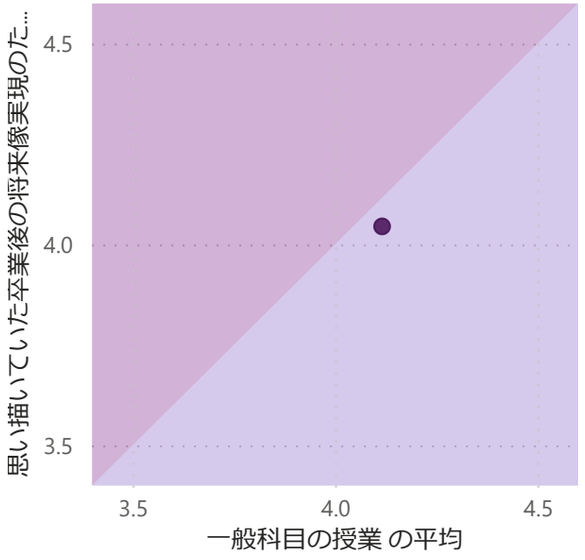
【総合満足度】

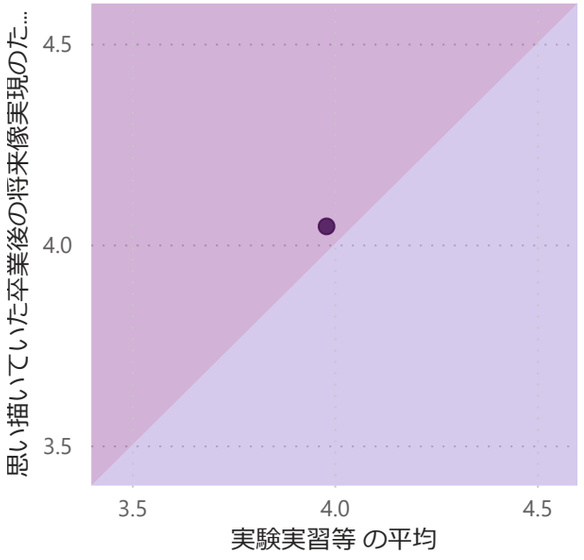


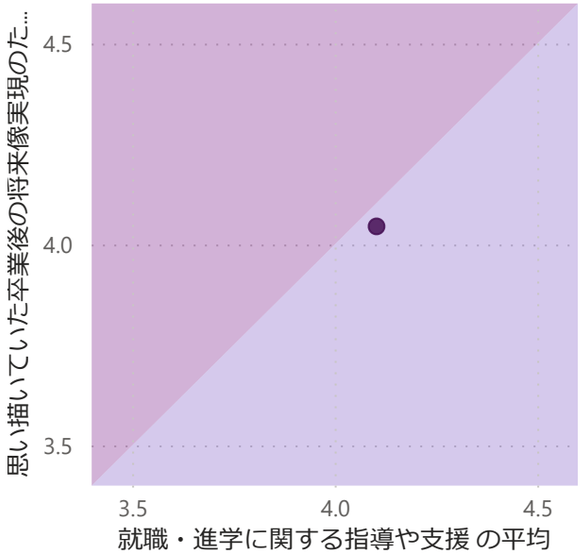


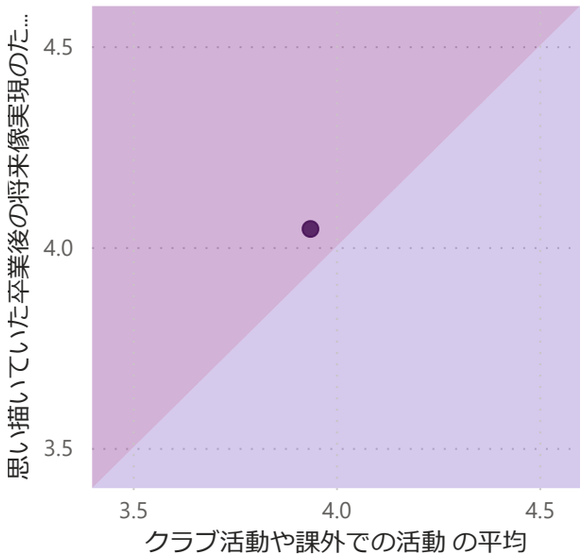
X軸は5年生の回答率
Y軸は各校の各項目の平均値

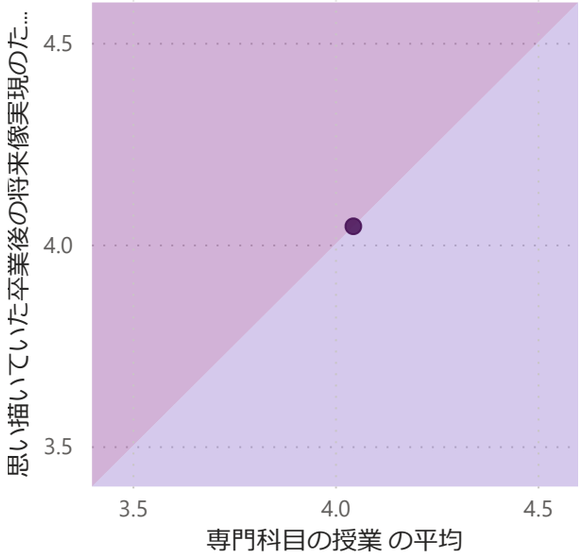
【総合満足度】「思い描いていた卒業後の将来像実現のために、高専生活は役立ちましたか？」に対する　各【高専満足度】の影響

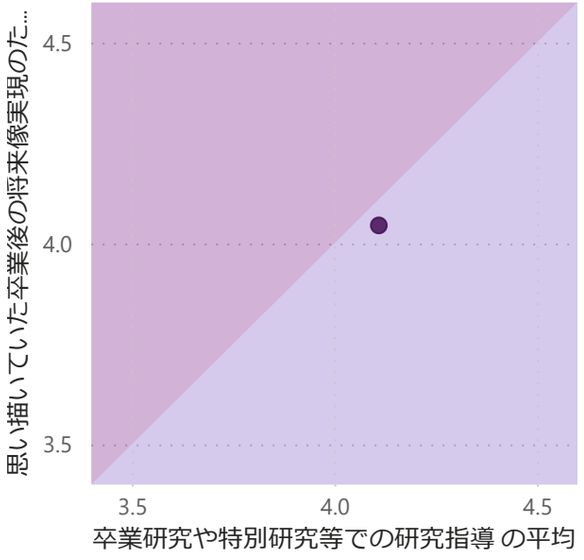


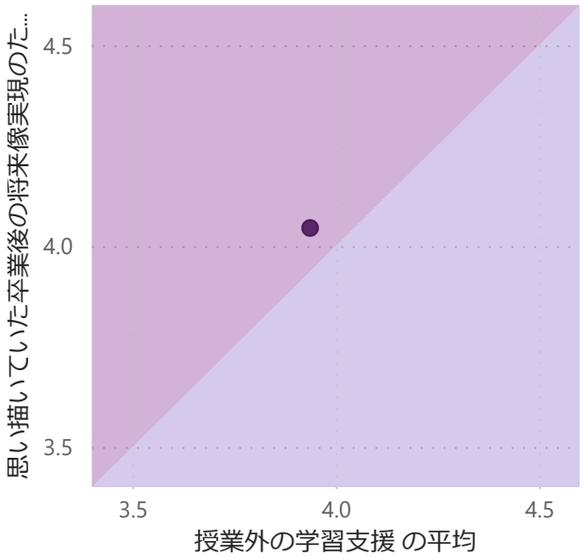


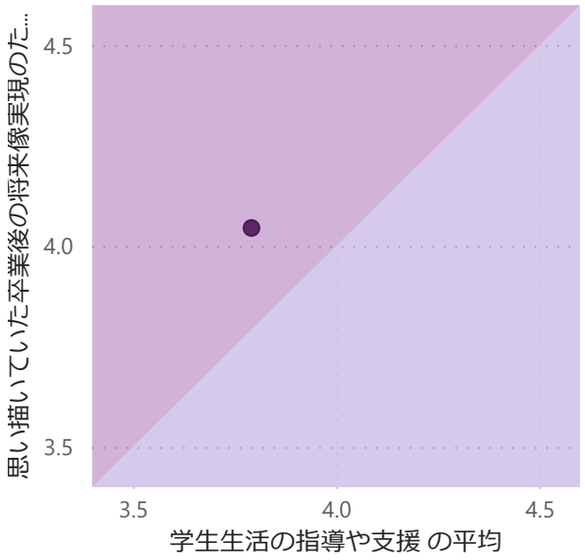




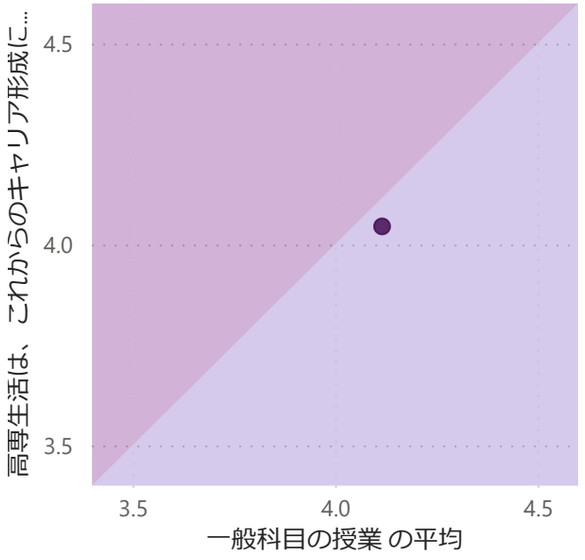


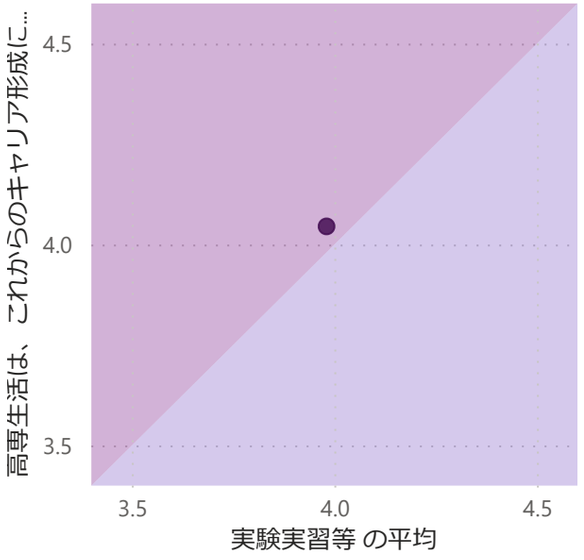


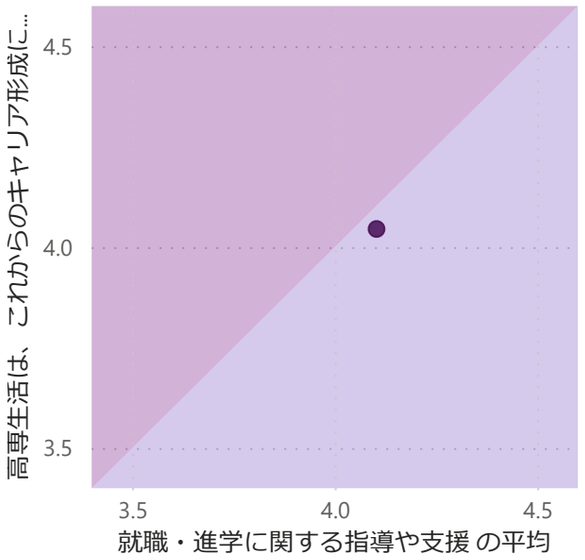


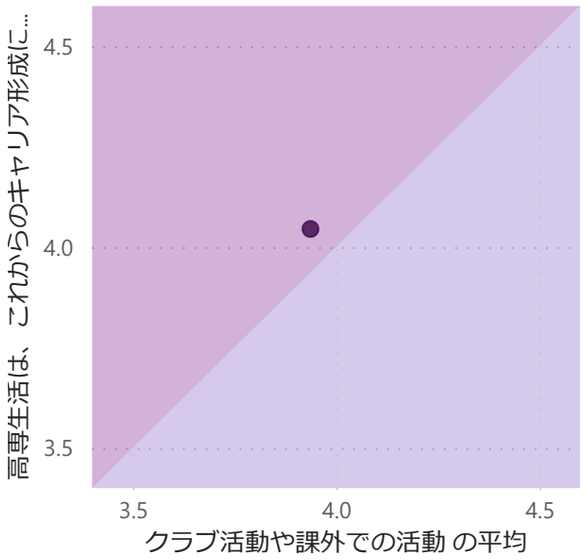


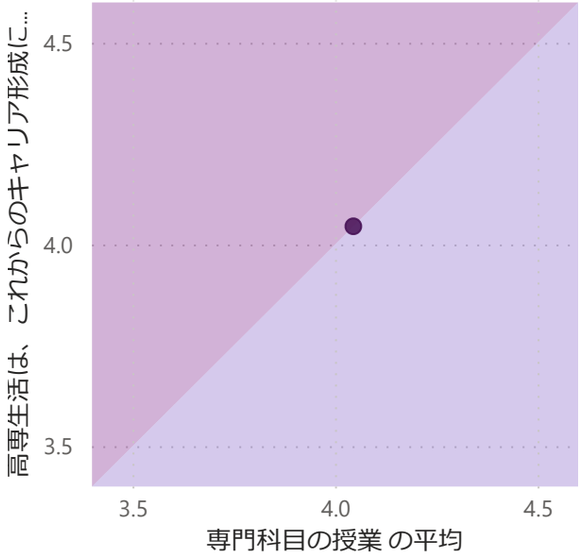
【総合満足度】「高専教育は、これからのキャリア形成に役立ちそうですか？」に対する　各【高専満足度】の影響

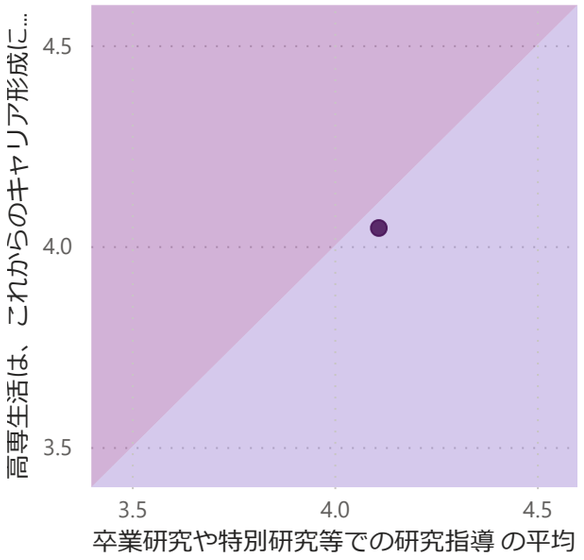


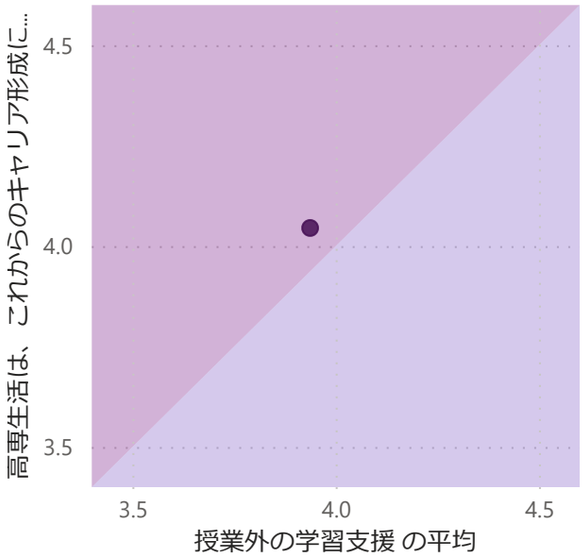


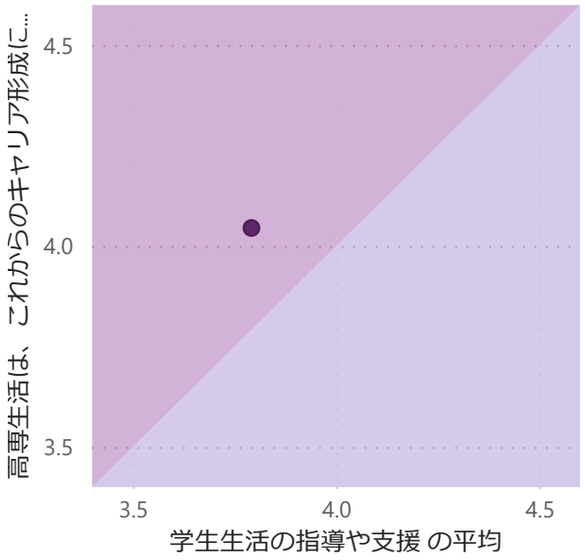




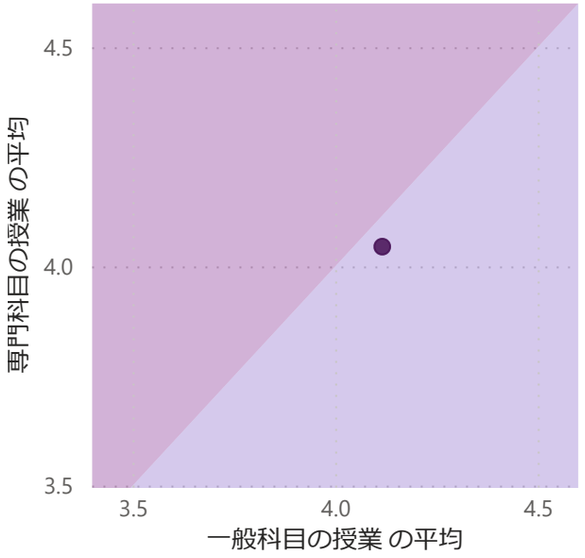


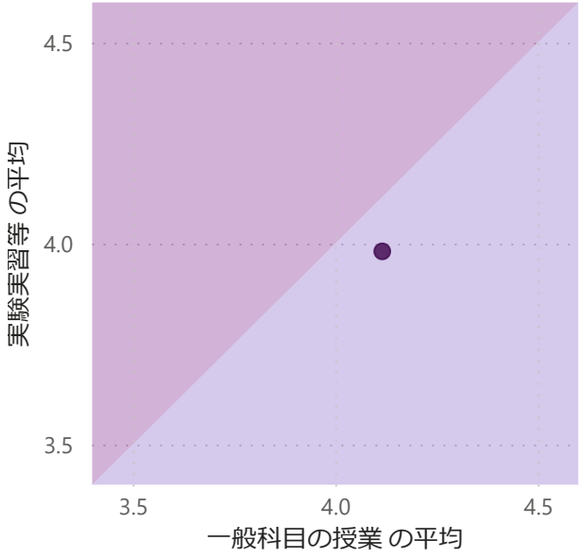




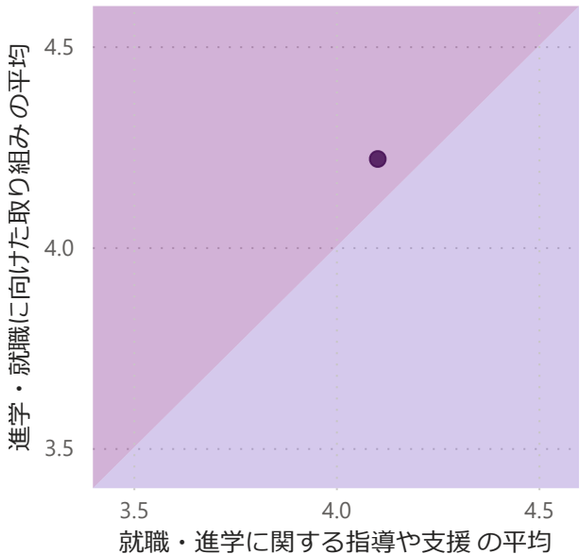


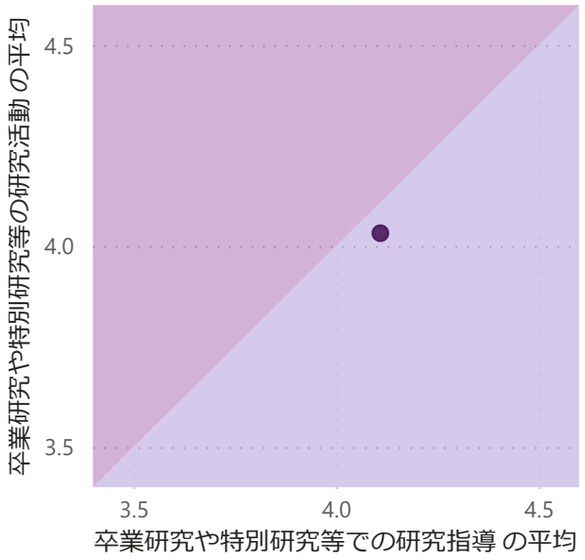
上：一般科目の授業の満足度と専門科目の授業の満足度の比
下：一般科目の授業の満足度と実験実習の授業の満足度の比





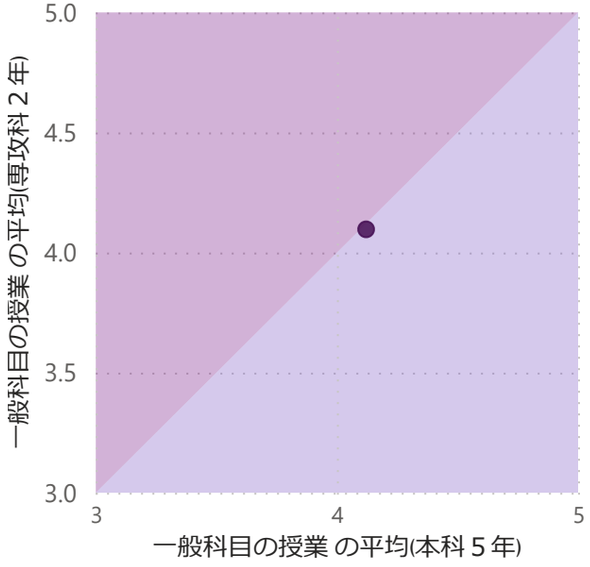
上：就職 ・ 進学に関する指導や支援と進学・就職に向けた取り組み　の関係
下：卒業研究や特別研究等での研究指導と卒業研究や特別研究等の研究活動　の関係

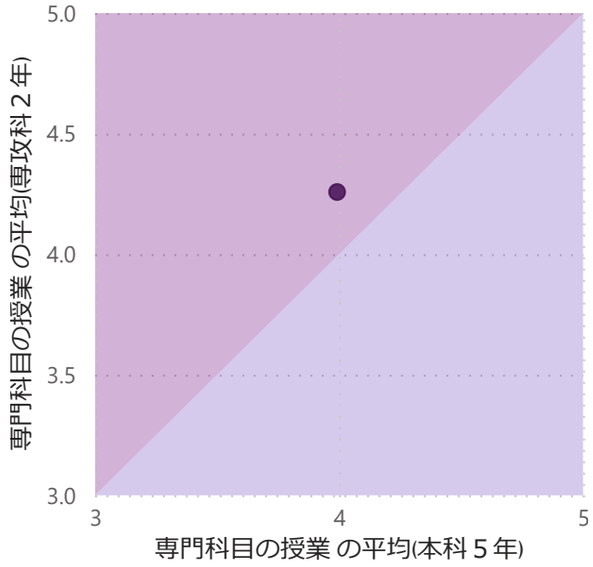


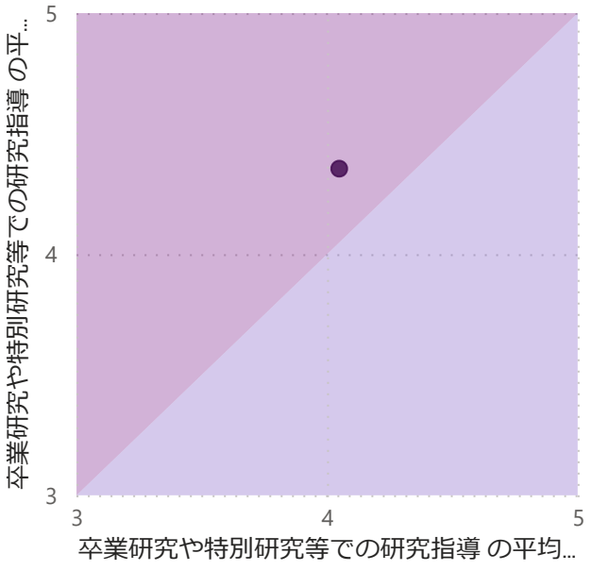


5年生と専攻科2年生の結果の比
（X軸：５年生、Y軸：専攻科２年生）

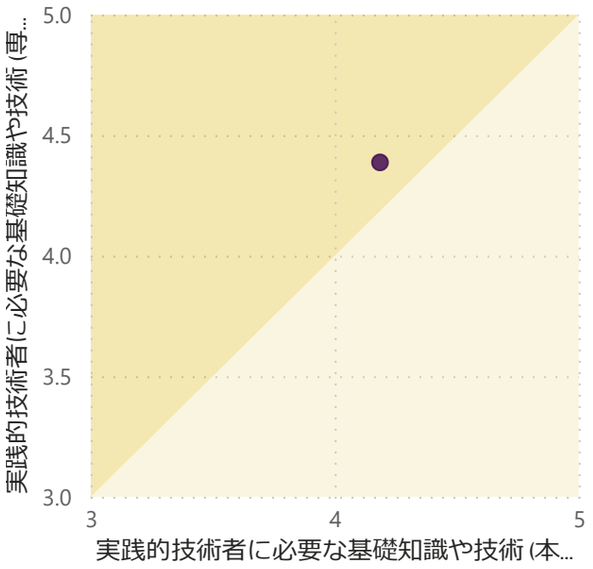
高専満足度

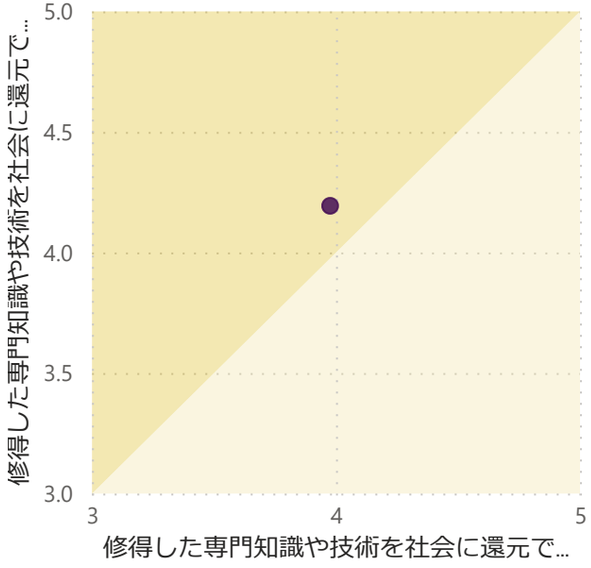


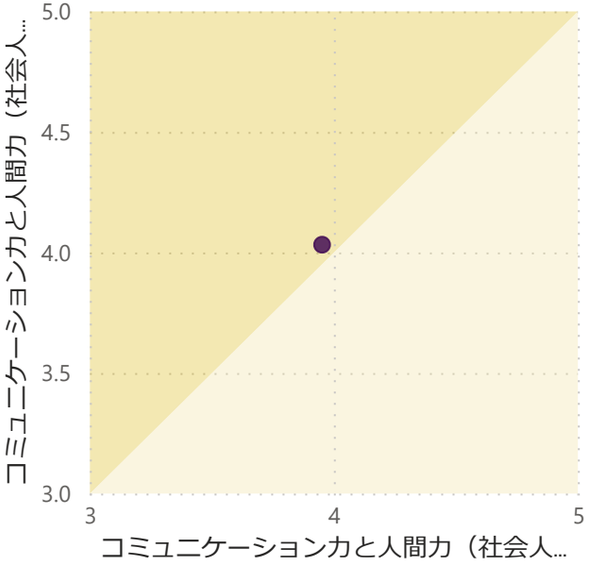


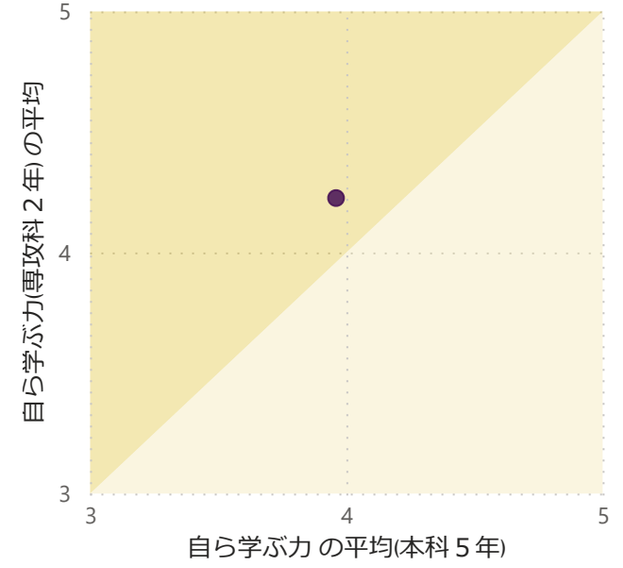


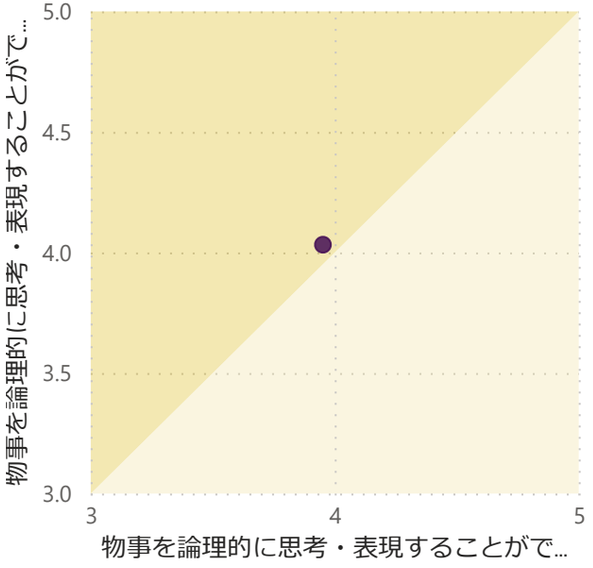
自分自身の成長実感





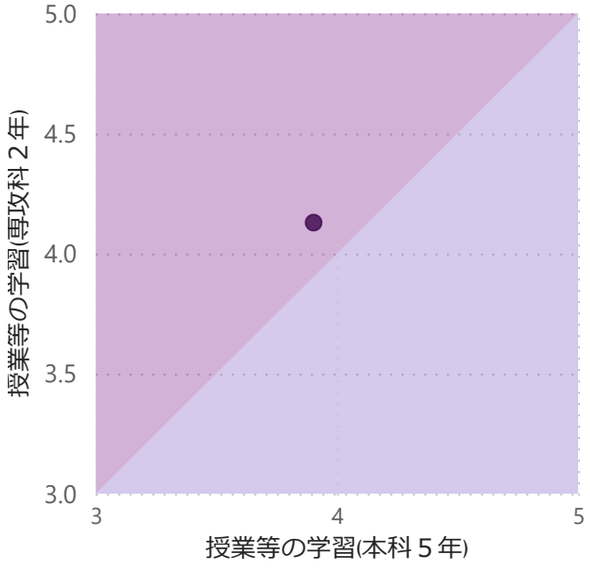


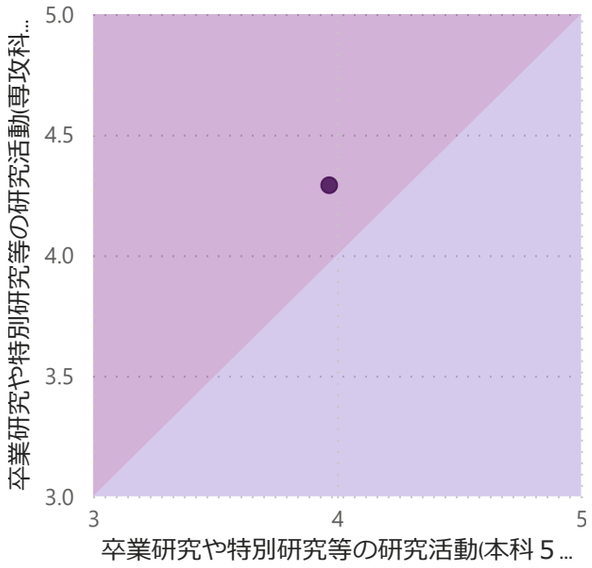


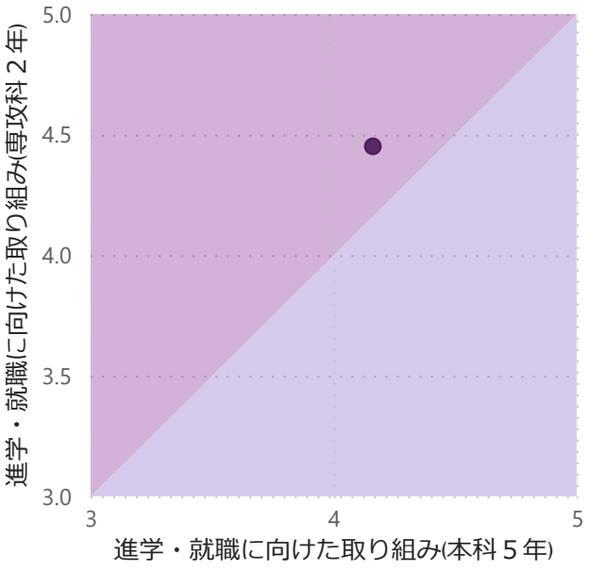


5年生と専攻科2年生の結果の比
（X軸：５年生、Y軸：専攻科２年生）

【自分自身の達成感】

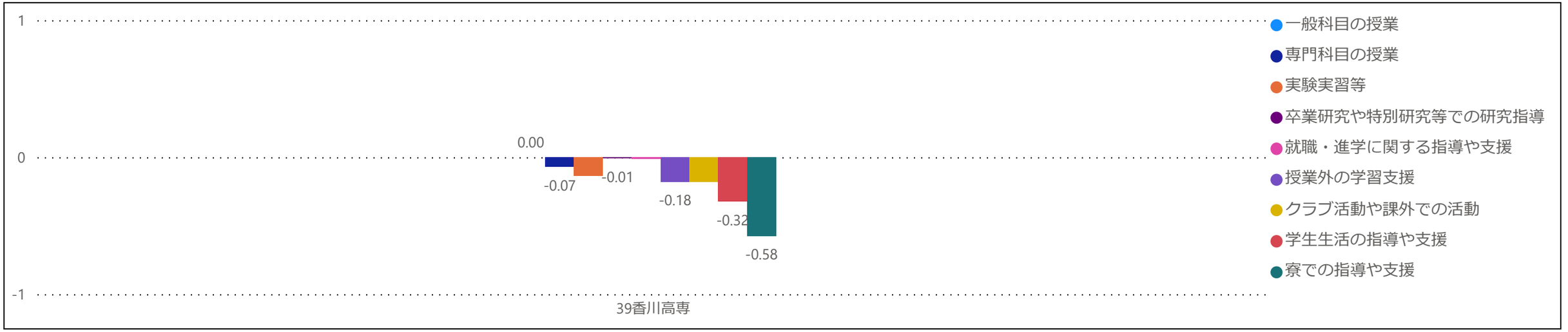




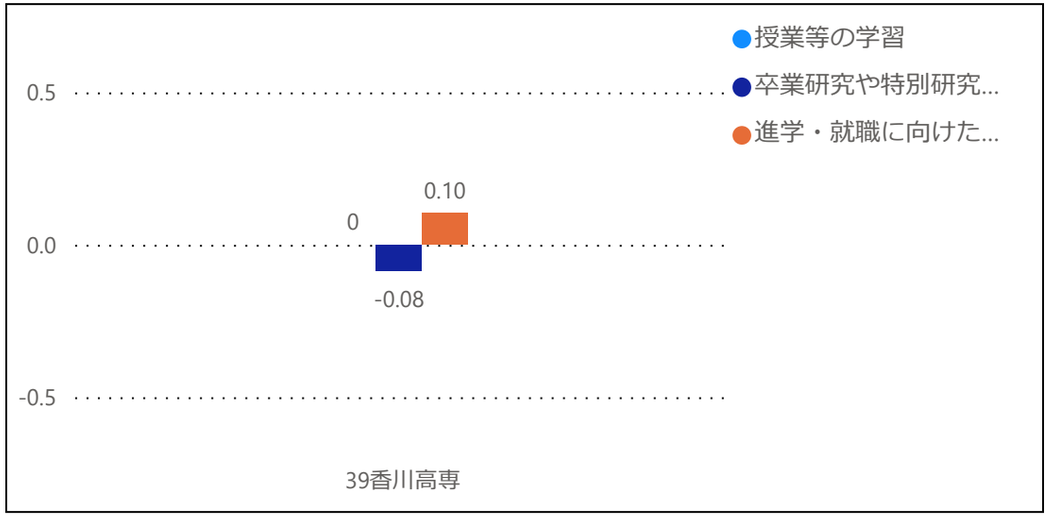


39香川高専

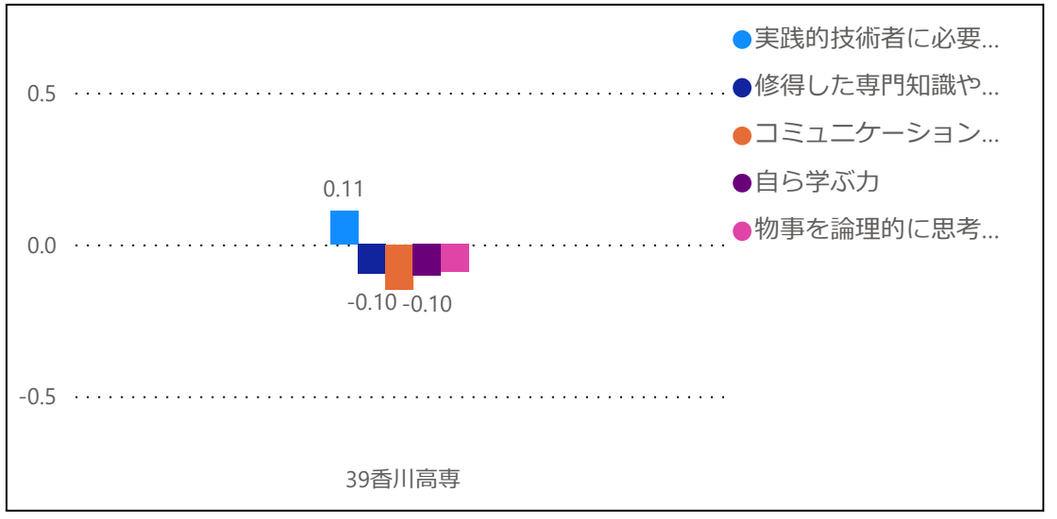
一般科目の授業の満足度を基準としたときの各項目の満足度との差



授業等の学習の達成感を基準としたときの各項目の達成感との差

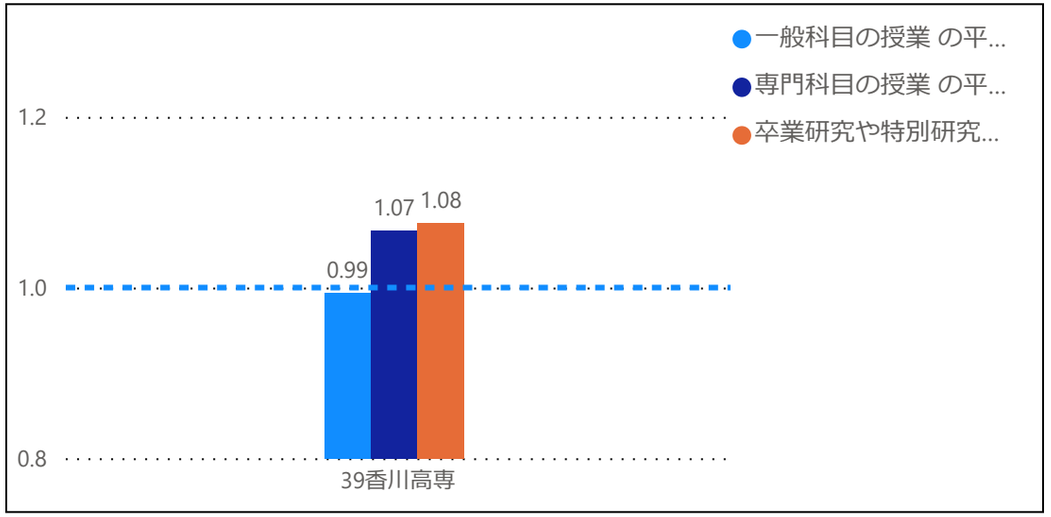


実践的技術者に必要な基礎知識や技術を基準としたときの各項目の成長感との差

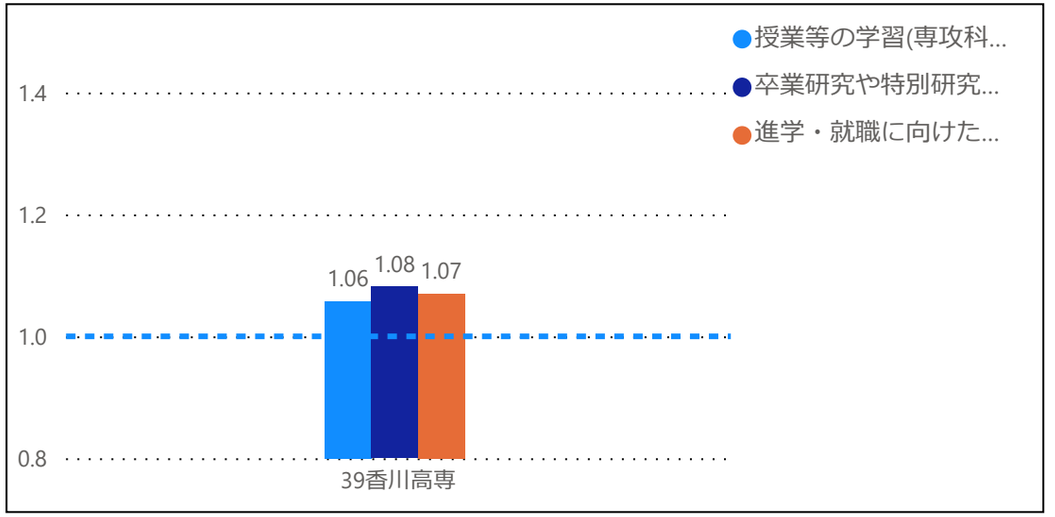


39香川高専

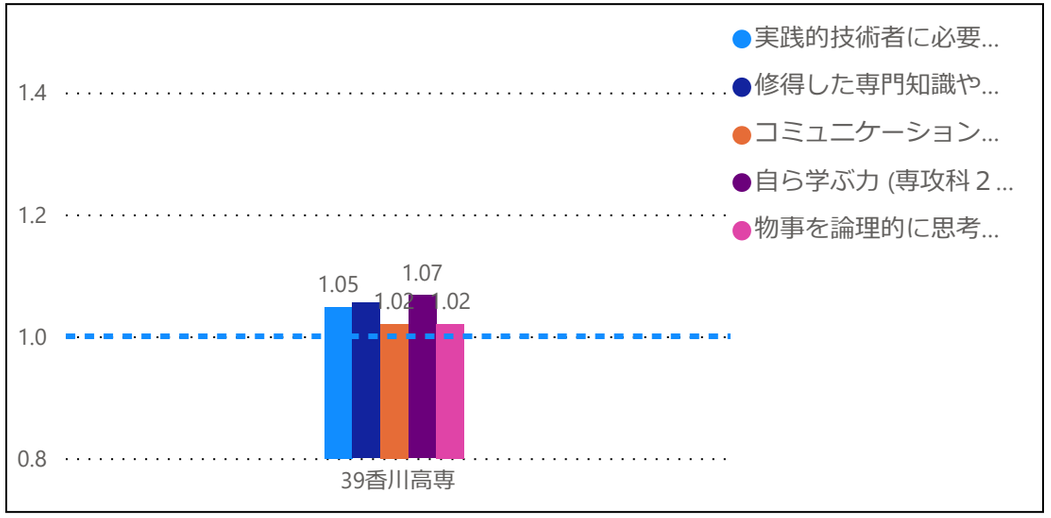
５年生を１としたときの専攻科２年生の満足度



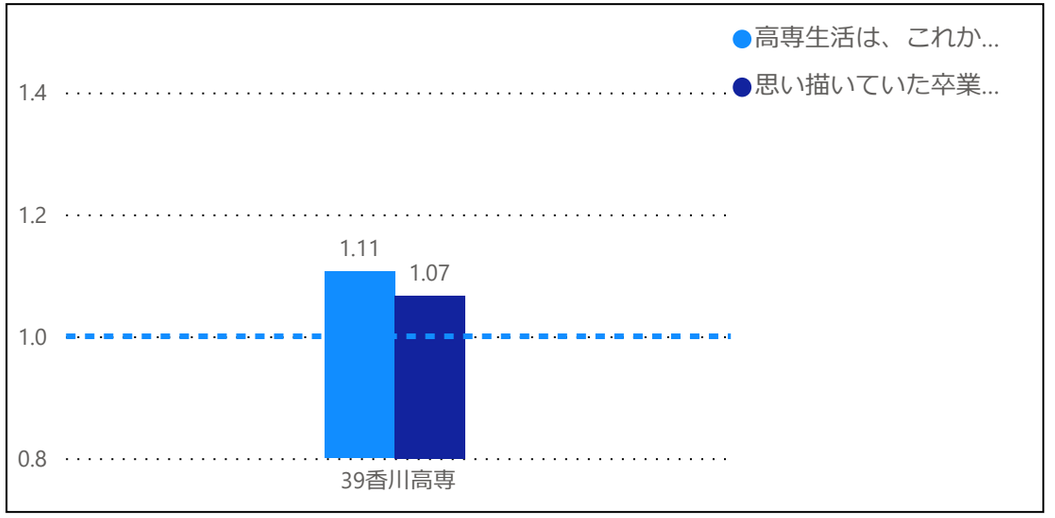
５年生を１としたときの専攻科２年生の達成感



５年生を１としたときの専攻科２年生の成長実感



５年生を１としたときの専攻科２年生の総合満足度



令和４年度第１回香川高等専門学校高松キャンパス後援会 役員会 次第

日時　　令和４年８月３日（水）１８時３０分～
場所　　香川高等専門学校　第一会議室

１．　開会のことば

２．　会長あいさつ

３．　学校長あいさつ

４．　役員の紹介

５．　学校側の紹介

６．　議　　事

（１）後援会アンケートへの回答について（資料１）

（２）令和４年度後援会の運営について（資料２）

（３）その他

７．　報　　告
（１）学校の現況について

８．閉会のことば

（参考資料１）　令和４年度高松キャンパス後援会役員名簿
（参考資料２）　香川高等専門学校高松キャンパス後援会会則

R4.8.3(水)後援会役員会
資料１

後援会アンケートへの回答について

[ご要望 1]省エネ、SDGs も良いですが、学生の体調維持の為に冷暖房の弾力的な使用を学校に働きかけてください（例えば日中の最高気温が 28 度以上の予想となったときは冷房期間前でもスポット的に使用できるようにする等)。必要ならお金なら出すのに躊躇しません。体調が悪くなって勉強出来ずに将来をふいにしたり、病院にかかって不要な時間･お金がかかるよりずっとましです。ちなみに高松工芸高校では空調費を集金しています。｢寮｣についても同じくお願いします。

[回　答]最高気温が高い月が続いたため、今年は６月 17 日(金)より寮やＨＲのエアコンの試運転を始めています。また、情報基盤センターなど特別教室では冷暖房期間前よりエアコンを使用しています。現在、国の基準である室温 28℃を超える場合にエアコンの運転をしておりますが、本校は国の機関であるため、家庭以上に節電に取り組む必要があり、基準に準じてエアコンを使用していますことにご理解ください。

寮につきましては、6 月 29 日にさくら連絡網にて、寮保護者宛に別途通知しております。

また、熱中症予防対策として、厚生労働省の熱中症予防対策で把握が推奨されている熱中症指数（暑さ指数ＷＢＧＴ）を表示できる屋内用温湿度計を、７月に各ホームルームに設置しました。

今後は、この指数が「危険」又は「厳重警戒」となれば、各ルームごとで空調機を稼働させることとしています。

[ご要望 2]いつもお世話になっております。

いつもさくら連絡網で、お便りやお知らせを見られるのがとてもわかりやすく、見返しもできるので助かっています。保護者への郵送もそれで代用できるものはそうしていただけると、お手間をおかけしなくていいのかなと思います。

また、中学校の時に修学旅行に行けていないので、もしも可能ならですが、そのような経験をさせていただけたら大変ありがたいです。県外の企業見学などでもいいのですが…。無理を申してすみません。

[回　答]連絡方法について、ご連絡いただきありがとうございます。郵送につきましては、検討させていただきます。

なお、企業見学等につきましては、３，４年生になりますと工場見学の機会があります。

[ご要望 3]もっと Web 上で学校の様子をオープンにしてくださると安心します。

[回　答]本校ＨＰにてお知らせ・トピックスを掲載しています。また、高専だよりも年２回掲載しておりますので、ご覧ください。

資料名　保護者後援会に関する資料（詫間）

令　和　４　年　度

第２回　詫間キャンパス後援会役員会

期　　日　　令和５年２月１９日（日）

香川高等専門学校詫間キャンパス後援会

日　　程

１３：００～１３：３０　　受付（ログイン）

１３：３０～１５：３０　　会　　議

目　　次

詫間キャンパス後援会役員名簿 ---------- 1

議　題

（1）令和４年度 詫間キャンパス後援会決算見込額報告書（案）について ---------- 2

（2）令和５年度 詫間キャンパス後援会予算書（案）について ---------- 2

（3）令和５年度 詫間キャンパス後援会役員（案）について ---------- 2

（4）令和５年度 詫間キャンパス後援会通常総会及び第２回役員会の
開催期日について ---------- 2

報告事項

（1） 令和４年度 詫間キャンパス後援会支部総会について ---------- 3

（2） 詫間キャンパスの近況について ---------- 3

（3）令和４年度 進路状況について ---------- 3

（4）令和５年度 入学者志願状況について ---------- 3

資　料

資料１　令和４年度 詫間キャンパス後援会決算見込額報告書（案）---------- 4

資料２　令和５年度 詫間キャンパス後援会予算書（案） ---------- 5

資料３　令和５年度 詫間キャンパス後援会役員（案） ---------- 6

資料４　令和５年度 詫間キャンパス後援会通常総会・役員会開催期日（案）--- 7

資料５－１ 後援会支部総会実施状況 ---------- 8

資料５－２ 後援会支部総会アンケート結果 ---------- 9

資料５－３ 保護者からの意見に対する回答 ---------- １１

資料６　詫間キャンパスの近況について ----------２６

資料７　令和４年度 進路状況について ----------３１

資料８　令和５年度 入学者志願状況 ----------３５

資料９　香川高等専門学校詫間キャンパス後援会会則 ----------３７

資料 10　香川高等専門学校詫間キャンパス後援会支部細則 ---------- ４１

詫間キャンパス後援会役員名簿

令和５年１月現在

役　職　名	氏　　名	役　員　任　期
会　　長	■■■■	令和２年　５月～
副　会　長	■■■■	平成２８年　５月～
〃	■　■■	令和元年　５月～
〃	■　■■	令和４年　５月～
監　　事	■■■■	令和元年　５月～
〃	■■■■	令和２年　５月～
理　事（第１支部長）	■■■■	〃
〃　（第１副支部長）	■■■■	令和４年　５月～
〃　（第２支部長）	■■■■	令和３年　５月～
〃　（第２副支部長）	■■■■	令和４年　５月～
〃　（第３支部長）	■■■■	令和３年　５月～
〃　（第３副支部長）	■■■■	令和４年　５月～
〃　（第４支部長）	■■■■	令和３年　５月～
〃　（第４副支部長）	■■■■	令和４年　５月～
〃　（第５支部長）	■■■■	令和３年　５月～
〃　（第５副支部長）	■■■■	令和４年　５月～
〃　（第６支部長）	■■■■	〃
〃　（第６副支部長）	■■■■	〃

議　題

（１）令和４年度 詫間キャンパス後援会決算見込額報告書（案）について

（２）令和５年度 詫間キャンパス後援会予算書（案）について

（３）令和５年度 詫間キャンパス後援会役員（案）について

（４）令和５年度 詫間キャンパス後援会通常総会及び第２回役員会の開催期日について

報告事項

（１）令和４年度 詫間キャンパス後援会支部総会について

（２）詫間キャンパスの近況について

（３）令和４年度 進路状況について

（４）令和５年度 入学者志願状況について

令和４年度 詫間キャンパス後援会決算見込額報告書（案）

令和4年12月31日現在

収入の部

科目＼項目	令和４年度予算額（A）	収入額 収入済額	収入額 収入見込額	収入額 計（B）	差引額（B）－（A）	備考
	円	円	円	円	円	
前年度繰越金	15,273,159	15,273,159	0	15,273,159	0	
内訳 全国大会等予備費	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000	0	
内訳 全国大会等予備費を除く繰越金	10,273,159	10,273,159	0	10,273,159	0	
入会金	968,000	960,000	8,000	968,000	0	本科生 8,000円×121人
	0	0	0	0	0	専攻科生 8,000円×0人
会費	11,381,000	11,238,500	142,500	11,381,000	0	本科生 19,000円×599人
	444,000	414,000	18,000	432,000	△ 12,000	専攻科生 12,000円×37人→36人
計	28,066,159	27,885,659	168,500	28,054,159	△ 12,000	

支出の部

科目＼項目	令和４年度予算額（A）	支出額 支出済額	支出額 支出見込額	支出額 計（B）	差引額（B）－（A）	備考
	円	円	円	円	円	
後援会活動費	1,340,000	662,344	349,000	1,011,344	△ 328,656	
1 会議費	340,000	2,741	9,000	11,741	△ 328,259	総会、支部総会の開催方法変更による減
2 事務費・活動費	1,000,000	659,603	340,000	999,603	△ 397	
学生厚生補助費	13,060,000	7,889,666	2,010,000	9,899,666	△ 3,160,334	
3 学生厚生補導運営費	4,000,000	1,439,117	1,600,000	3,039,117	△ 960,883	地域交流活動費、課外活動費及び体験入学費等の減
4 体育文化等活動費	8,760,000	6,426,520	160,000	6,586,520	△ 2,173,480	四国地区高専体育大会費、高専ロボコン全国大会費等の減
5 進路指導費	300,000	24,029	250,000	274,029	△ 25,971	
学校教育補助費	3,020,000	2,042,810	889,600	2,932,410	△ 87,590	
6 学生の教育活動助成	2,500,000	1,650,400	849,600	2,500,000	0	
7 学生の教育研究活動助成	350,000	350,000	0	350,000	0	
8 課外活動指導費	170,000	42,410	40,000	82,410	△ 87,590	合宿指導手当等の減
全国大会等予備費	5,000,000	0	0	0	△ 5,000,000	未執行による減
予備費	5,646,159	0	0	0	△ 5,646,159	未執行による減
計	28,066,159	10,594,820	3,248,600	13,843,420	△ 14,222,739	

翌年度繰越見込額	28,054,159(収入額計)－13,843,420(支出額計)＝ 14,210,739

令和５年度 詫間キャンパス後援会予算書（案）

収入の部

科目＼項目	令和４年度予算額（A）	（参考）令和４年度決算見込額	令和５年度予算額（B）	差引額（B）－（A）	備考
	円	円	円	円	
前年度繰越金	15,273,159	15,273,159	14,210,739	△ 1,062,420	
入会金	968,000	968,000	968,000	0	本科生　8,000円×121人
	0	0	0	0	専攻科生　8,000円×0人
会費	11,381,000	11,381,000	11,381,000	0	本科生　19,000円×599人
	444,000	432,000	432,000	△ 12,000	専攻科生　12,000円×36人
計	28,066,159	28,054,159	26,991,739	△ 1,074,420	

支出の部

科目＼項目	令和４年度予算額（A）	（参考）令和４年度決算見込額	令和５年度予算額（B）	差引額（B）－（A）	備考
	円	円	円	円	
後援会活動費	1,340,000	1,011,344	1,340,000	0	
1　会議費	340,000	11,741	340,000	0	
2　事務費・活動費	1,000,000	999,603	1,000,000	0	
学生厚生補助費	13,060,000	9,899,666	11,900,000	△ 1,160,000	
3　学生厚生補導運営費	4,000,000	3,039,117	4,400,000	400,000	TOEIC受験料、体験入学費等の増
4　体育文化等活動費	8,760,000	6,586,520	7,200,000	△ 1,560,000	全国高専体育大会費等の減
5　進路指導費	300,000	274,029	300,000	0	
学校教育補助費	3,020,000	2,932,410	3,370,000	350,000	
6　学生の教育活動助成	2,500,000	2,500,000	2,500,000	0	
7　学生の教育研究活動助成	350,000	350,000	700,000	350,000	学生の教育研究活動及び国際交流活動に係る補助の増
8　課外活動指導費	170,000	82,410	170,000	0	
全国大会等予備費	5,000,000	0	5,000,000	0	
予備費	5,646,159	0	5,381,739	△ 264,420	
次年度繰越金		14,210,739			
計	28,066,159	28,054,159	26,991,739	△ 1,074,420	

令和５年度詫間キャンパス後援会役員（案）

	役 職 名	氏　　名	役員任期
	会　　長	[redacted]	令和　２年５月～
新	副　会　長	[redacted]	令和　３年５月～
新	〃	[redacted]	〃
	〃	[redacted]	令和　４年５月～
	監　　事	[redacted]	令和　２年５月～
新	〃	[redacted]	〃
	理　事　（第１支部長）	[redacted]	令和　４年５月～
新	〃　（第１副支部長）	[redacted]	令和　５年５月～
	〃　（第２支部長）	[redacted]	令和　４年５月～
新	〃　（第２副支部長）	[redacted]	令和　５年５月～
	〃　（第３支部長）	[redacted]	令和　４年５月～
新	〃　（第３副支部長）	[redacted]	令和　５年５月～
	〃　（第４支部長）	[redacted]	令和　４年５月～
新	〃　（第４副支部長）	[redacted]	令和　５年５月～
	〃　（第５支部長）	[redacted]	令和　４年５月～
新	〃　（第５副支部長）	[redacted]	令和　５年５月～
	〃　（第６支部長）	[redacted]	令和　４年５月～
新	〃　（第６副支部長）	[redacted]	令和　５年５月～

令和5年度 詫間キャンパス後援会通常総会・役員会開催期日（案）

後援会通常総会・第1回役員会			第2回役員会		
30年	5月13日	（日）	31年	1月27日	（日）
元年	5月12日	（日）	2年	2月9日	（日）
2年	5月10日	（日）	3年	2月14日	（日）
3年	5月9日	（日）	4年	2月20日	（日）
4年	5月15日	（日）	5年	2月19日	（日）
（案） 5年	5月13日	（土）	（案） 6年	2月18日	（日）

令和5年 5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
			憲法記念日	みどりの日	こどもの日	
7	8	9	10	11	12	(13)
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

令和6年 2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
	建国記念の日					
(18)	19	20	21	22	23	24
					天皇誕生日	
25	26	27	28	29		

令和４年度 詫間キャンパス後援会支部総会実施状況

１．開催状況

第１～６支部合同開催（オンライン)、開催日：令和４年１１月１９日

会員出席者：第１支部　１２名、第２支部　３名、第３支部　５名、第４支部　６名、
第５支部　１６名、第６支部　５名

学校出席者：副校長、教務主事、寮務主事、総務課長補佐、庶務係長

２．支部総会の内容

①支部総会

・次年度支部役員選出

②学校からのお知らせ

１．香川高専詫間キャンパスにおける近況及び教務関係報告

1）近況報告

2）成績評価・進級

3）学年別の進級率の推移

4）前期中間成績（１～５学年）

5）入学志願者数の推移

２．学生生活について

1）学生指導

2）バイク通学許可の現状等

3）バイク・自転車通学者への注意事項

4）年間行事

３．寮の現状報告

1）寮生数

2）新型コロナウイルス感染症対策

3）寮生指導（朝の巡回、昼休み、放課後、夜間、盗難等）

4）寮の年間行事予定（新入寮生歓迎会、球技大会、寮生役員会等）

5）寮生の１日（ラジオ体操、登校、昼食、掃除、夜の点呼）

6）学生寮の整備

４．進路関係報告

1）進路状況（2022 年 3 月卒業者）等

2）過去 5 年（2018～2022 年）の主な就職先、進学先

3）2023 年新卒者の進路決定状況

4）2023 年度就職スケジュール

5）2024 年新卒者への進路支援（予定）

6）インターンシップ（校外実習）、低学年向けキャリアガイダンス

３．参加状況

会員数　６２８人、参加者　４７人、参加率　７％

令和４年度 後援会支部総会アンケート結果（第１～６支部）

１.支部総会の内容について

① 満足　　７人
② 普通　　７人
③ 不満　　０人

２.開催時間について

① 長い　　１人
② ちょうどよい　１３人
③ 短い　　０人

３.支部総会についての意見・要望等

①役員の皆様、いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
②子供の年齢が上がると、学校の情報が少なくなるので情報収集になって助かります。
③今回、初めて参加させて頂きましたが、支部別の会合が別にある事を始めて知りました。
　また、そういった案内も無かったと思います。
④学校生活、寮生活、進路状況を知る貴重な機会をいただきありがとうございます。

４.学校に対しての要望等

①学習について

1)学力面でついていけなくなりそうな子供のフォローをお願いしたいです。子供側からの行動を待つだけでなく、先生側からの積極的な関わり合いを期待します。

②学生生活・クラブ活動について

1)特定の部活動だけが活発であるイメージがあります。もっと盛んになって欲しいです。
2)頑張ってクラブ活動も取り組み、充実した生活を送れているようです。引き続きお願いします。
3)部活動として、少なくとも本人的には行っても何もすることがないと感じ、足が遠のいていたら除籍されるというのは本当にあることなのでしょうか。自分のやる気次第だとは思いますが、本人の意思の確認なく除籍というのが本当であれば改善すべきではと感じます。

③寮関係について

1)建物の改修計画があるようですが、開示可能な情報を教えていただきたいです。
2)前期はコロナによる閉寮で慌てる事態になりました。少し数が増えても、できるだけ閉寮しなくて済む方法を今以上ご検討いただけると幸いです。
3)Ｗｉ－Ｆｉ環境が快適とのご説明でしたが、息子の話によると部屋内では全然使えないとのことです。部屋の位置による偏りがあるのではないでしょうか。
4)寮の清掃に関しては、もう少しきれいにできないかと常々思います。

④就職・進学について

1)コロナのせいで先輩と話をする機会も減っていると思います。低学年と高学年が交流する機会を設けていただいて、就職・進学に対する意識を低学年から持つことができるようにしてほしいです。
2)引き続き、手厚いサポートをよろしくお願いします。

3)まだ今後のことにはなりますが、就職と進学の狭間で本人も迷っているようです。先輩や先生方のご意見、ご指導が参考になると思いますので、よろしくお願いします。保護者も一緒に勉強しなければと思うことが多いです。

4)進学について、更に詳しい説明を聞きたかったです。高学年になりましたら、別途保護者説明会があるのでしょうか。

5.その他

①卒業していく学生達が何年経過しても母校に胸を張れるように、少子化の中ではありますが優秀な人材の確保と育成をよろしくお願いします。

②就職や、成績の事が良く分かり、参加してとても良かったです。ありがとうございました。

③一定数コロナの数が増えても、一斉に休校にしないで下さい。通学してもいいし、オンライン参加してもいいよ、という形で学校を継続してほしいです。

④初めてのＺＯＯＭ参加だったので、直前に機器の音声出力や背景ぼかしなどのテスト(調整)ができる場があっても良いかもと思いました。

⑤今回の総会に参加して、支部別の会合が別にある事を始めて知りました。また、そういった案内も無かったと思います。こちらの案内は如何言った方法で周知されているのでしょうか。

⑥日々充実した学校生活を送れているようで感謝しています。本人が選択し、考えて行動できる自立した人材になれるよう、引き続きよろしくお願いします。

⑦息子自身も夜間にイノシシに何度か遭遇しているようで、学校内で事故が起こらないか心配です。引き続き対策の程よろしくお願いいたします。

⑧こちらのネット環境が悪く、途中からの参加になってしまい、申し訳ありませんでした。学校のことを知ることのできる数少ない機会ですので、ありがたいと思っております。

⑨お忙しい中、役員の方や先生方がこのような会を開いていただき、どうもありがとうございます。丁寧な説明やわかりやすい資料だったため理解しやすかったです。

教務関係
（ご意見・ご要望に対する回答）

教務主事

[redacted]

令和5年2月19日　後援会役員会

学習について

・学力面でついていけなくなりそうな子供のフォローをお願いしたいです。子供側からの行動を待つだけでなく、先生側からの積極的な関わり合いを期待します。

・TA学習会（上級生・専攻科生による学習会）を定期的に開催しています。
　昨年度や前期は多くの学生が集まり学習していましたが、後期中間では数名程度しか集まりませんでした。

　また、専門学科でも同様に学習会を開催したようですが、集まりは良くありませんでした。

　今後はさらに呼びかけをして、特に成績不振者には積極的に勉強に取り組む体制を作りたいと思っております。

・各教員はオフィスアワー（質問等を受け付ける時間帯）を提示していますので、遠慮なくご相談ください。
（なお、それ以外の時間帯でも問題はありません。）

　香川高専HPー＞キャンパスライフー＞オフィスアワー
にて公開しています。

学生生活支援

オフィスアワー

オフィスアワーは，学業や学校生活に関する個人的な質問・相談等を広く受け付けるために設定された時間です。有効に活用して下さい。オフィスアワー以外でも，教員在室時には質問・相談等を受け付けています。

なお，オフィスアワーオフィスアワーに設定している時間であっても，会議や出張等で不在の場合があります。予めご承知おきください。

一般教育科

詫間キャンパス

職名　（科目）	氏名	月	火	水	木	金	場所
教授　（国語）	[redacted]				16:00～17:00		学生主事室
助教　（国語）		16:00～17:00					マルチメディア棟 4F
准教授　（社会）						放課後	マルチメディア棟 4F
教授　（数学）			放課後				マルチメディア棟 3F
教授　（数学）		放課後					マルチメディア棟 3F
准教授　（数学）		放課後～17:00					マルチメディア棟 3F
助教　（数学）				放課後			マルチメディア棟 3F
助教　（物理）					放課後～17:00		マルチメディア棟 3F
講師　（化学）			放課後				マルチメディア棟 3F
教授　（体育）		放課後					マルチメディア棟 3F
准教授　（体育）		放課後					マルチメディア棟 3F
講師　（英語）		放課後					マルチメディア棟 4F
教授　（英語）			放課後				マルチメディア棟 4F
准教授　（英語）		16:00～17:00					マルチメディア棟 4F

通信ネットワーク工学科（詫間キャンパス）

職名	氏名	月	火	水	木	金	場所
教授	[redacted]	放課後～17:00					第一学科棟 2F
教授				放課後～17:00			第一学科棟 2F
教授		放課後～17:00					第三学科棟 4F
准教授		16:00～17:00					第一学科棟 2F
准教授		16:00～17:00					第三学科棟 4F
准教授		放課後～17:00					第一学科棟 2F
准教授					16:00～17:00		第一学科棟 2F
准教授		放課後～17:00					第一学科棟 3F
准教授		放課後～17:00					第三学科棟 3F
准教授		放課後～17:00					第一学科棟 3F

電子システム工学科（詫間キャンパス）

職名	氏名	月	火	水	木	金	場所
教授	[redacted]	15:15～16:00				15:15～16:00	第一学科棟 3F
教授		放課後～17:00					第一学科棟 4F
教授		16:00～17:00					第一学科棟 4F
准教授			放課後～17:00				第一学科棟 4F
准教授						16:00～17:00	第一学科棟 2F
准教授		15:15～16:00			15:15～16:00		第一学科棟 3F
准教授		放課後					第一学科棟 4F
講師			16:15～17:00				第三学科棟 4F
講師		16:00～17:00					第一学科棟 4F
助教		16:00～17:00					第一学科棟 4F
助教	[redacted]				16:00～17:00		第一学科棟 4F

情報工学科（詫間キャンパス）

職名	氏名	月	火	水	木	金	場所
教授	[redacted]	放課後～17:00					専攻科棟 2F
教授		放課後～17:00					第三学科棟 4F
教授						放課後～17:00	専攻科棟 3F
准教授		放課後～17:00					専攻科棟 2F
准教授		放課後～17:00					第三学科棟 3F
准教授		放課後					第三学科棟 4F
准教授		放課後～17:00					専攻科棟 2F
准教授					7,8限		第三学科棟 1F
講師						16:00～17:00	第三学科棟 3F
助教		放課後～17:00					第三学科棟 4F

学生生活・クラブ活動等について
（ご意見・ご要望に対する回答）

学生主事 [redacted]

○学生生活・クラブ活動について

▲特定の部活動だけが活発であるイメージがあります。もっと盛んになって欲しいです。

▲頑張ってクラブ活動も取り組み、充実した生活を送れているようです。引き続きお願いします。

・クラブ部員調べの結果から見ると、以下のようになります。

運動系クラブ・同好会・愛好会　290人
文化系クラブ・同好会・愛好会　188人
ロボコン・プロコン・イベントチーム　88人

重複する学生もいますので、正確ではありませんが、
およそ8割近い学生が、課外活動をしていることになります。
ただし、熱心に活動しているのは6～7割程度と考えます。
部員数減など、どのクラブでも困っているのが実情です。

○学生生活・クラブ活動について

▲部活動として、少なくとも本人的には行っても何もすることがないと感じ、足が遠のいていたら除籍されるというのは本当にあることなのでしょうか。自分のやる気次第だとは思いますが、本人の意思の確認なく除籍というのが本当であれば改善すべきではと感じます。

・詫間キャンパスでは、各クラブの入部や退部に関しての、学校として決まっている特別な手続き（入部届など）がありません。各クラブごとに、顧問の先生や部員間で、各々ルールを決めています。
日々の活動に参加することなく、それでも部員であると認められる状態は、通常ならば想定できませんが、
各クラブの事情もありますので、まずは顧問の教員にご相談ください。

令和4年度　寮の現状報告



撮影：令和3年 6月24日（寮内美化運動）

令和 5年　2月 19日

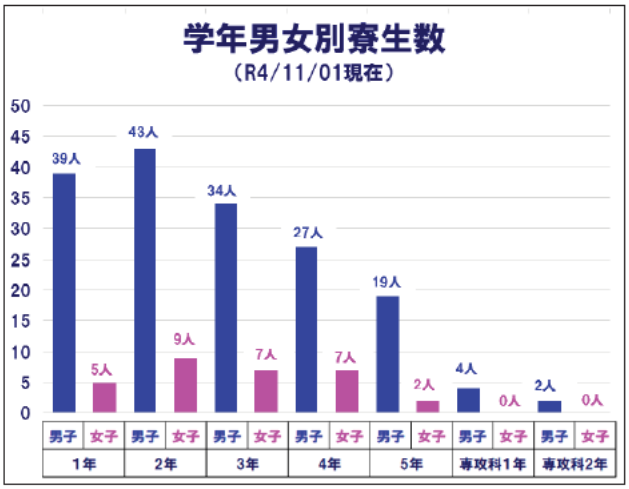
香川高等専門学校　詫間キャンパス　学生寮

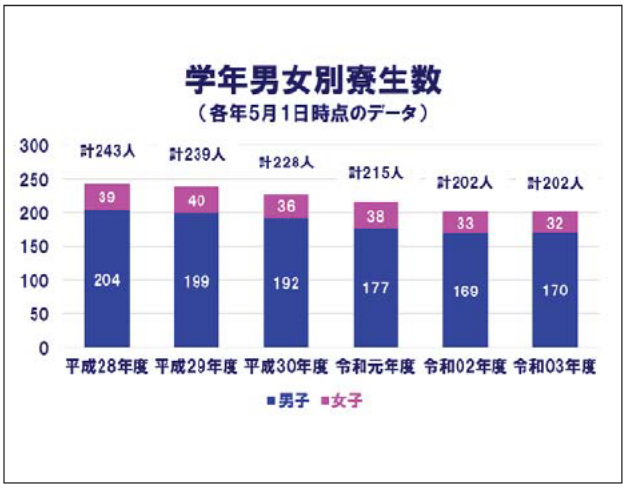
1. 寮生数について

現在の寮生数、および過去6年間の寮生数推移について以下にご報告します。

■寮生数：198名（R4/11/01現在）
＜内訳：男子168名・女子30名＞

■寮生数過去推移





2. 新型コロナウイルス感染症対策について　-1-

寮内感染防止のため様々な取り組みを行っております。一例を以下にご報告します。

■寮室内

- 二人部屋の寮室の場合は、中央に間仕切りビニールシートを設置し、飛沫感染の防止



3棟



4棟

2

2. 新型コロナウイルス感染症対策について　-2-

■寮食堂

- 入口付近にサーマルカメラを設置し検温後、手洗い・手指消毒を実施
- 座席を半数に間引きし、テーブルにはアクリル板を設置





アクリル板には「黙食せよ」と寮務主事からのメッセージ付



3

2. 新型コロナウイルス感染症対策について　-3-

■寮食堂

- 以前は箸入れの中にあるお箸を寮生各自で取るようにしていたが、
  寮生同士がお箸を触れないように、食堂スタッフにて事前にトレーとお箸をセット
- しゃもじを触れなくても良いように、シャリ弁ロボ（自動でご飯をよそう機械）を導入





4

3. 朝の巡回について

１限目の授業開始時間に寮務主事、寮務副主事、寮務主事補の計４人の教員にて、当番体制で寮内の巡回を実施しております。

■教員による朝巡回

＜目的＞

●寮生の登校確認

寝坊等で寮室にいる場合は登校を促したり、体調不良の寮生には健康状態を確認

●共用場所の清掃状況確認

廊下に個人持ち物が散乱していないか、補食室に食べ残しやゴミが散乱していないか等をチェックし指導

●火災発生等の危険な状況がないか確認

避難経路上に不要なものがないか、布団の上にヘアアイロンが置かれている等の危険な状況があった際には注意喚起

●寮室施錠有無確認

施錠されていない寮室があった場合は施錠を実施

5

4. 昼休みの食堂について

校長を含めた教職員の内１名が学生寮の食堂で食事を行い、献立どおりであるか、味付けや盛り付け等の確認を目的とした検食を実施しております。

■寮食堂での昼食

- 食事の際、学生の動向を合わせて確認
- その他に、年に2回程度食事内容について寮生からアンケートを取り、アンケート結果のフィードバックを目的とした給食業者との懇談会を教職員と寮生役員で実施





6. 夜間について

教員もしくは警備員１名が寮に泊まり、寮生の面倒をみて、夜の点呼を行います。

■自習時間

- 夕食が終わり20時から自習時間になり、各自宿題等を実施
- 日々の清掃に加え、共同で使用する場所については定期的に清掃を実施

  男子寮：日々の清掃と毎週水曜

  女子寮：日々の清掃と毎週日・水曜



日々の寮内清掃



寮内美化運動



寮内美化運動

8. 寮生としての自覚

学生寮は単なる宿泊施設ではなく、寮での共同生活を通して、人間的に一層成長することを願って設置された教育施設です。

共同生活を通じて規律正しい集団生活を営み、自主性と社会性を育むことを目的として、寮を運営しています。

学生間の横と縦のつながりは、一生におけるかけがえのない財産になると確信しています。

“社会人としてのコミュニケーション能力・協調性・礼儀作法の涵養”





9. 行事等について　-1-

（ここ数年は新型コロナウイルス感染症対策に伴い
休止しているイベントもあります）

■4月：入寮式および新入寮生歓迎会

- 今年度はお菓子の配布のみ
- 在寮生が閲覧できるように、
寮食堂に新入寮生自己紹介コーナを設置





9. 行事等について　-2-

■4月と10月の年2回：避難訓練

- 今年度は新型コロナウィルスの感染者増加により中止
  代わりに避難経路図を配布



■4月と11月の年2回程度：寮生球技大会

- 今年度の4月は新型コロナウィルス感染症対策に伴い中止、
  後期は1月11日に女子寮生のみ球技大会を実施。



撮影：令和4年 1月11日（女子寮生球技大会）

9. 行事等について　-3-

■月1回程度：寮生役員会

- 令和2年度はオンライン開催でしたが、令和3年度からは集合形式で実施



■月1回程度：寮生ミーティング

- 男子、女子とも寮生役員を筆頭に寮生の指導を実施

10. 寮生の1日　～朝の登校～





12

10. 寮生の1日　～寮食堂風景～









13

寮生活について（ご質問への回答）

◆ 建物の改修計画があるようですが、開示可能な情報を教えていただきたいです。

【回答】
・女子寮を改修し、留学生と日本人学生の混住型の部屋割りがおこなえる国際交流寄宿舎を計画しています。
・1Fは女子、2Fは男子の寮室となり、1Fと2Fには男女共用の共同自習室が設けられます。
・国際交流寄宿舎は全て個室化となります。
・男子と女子の寮室は区切られ、入退室管理のドアが設置されます。

寮生活について（ご質問への回答）

◆ 前期はコロナによる閉寮で慌てる事態になりました。少し数が増えても、できるだけ閉寮しなくて済む方法を今以上ご検討いただけると幸いです。

【回答】
ガイドラインに従って対応しています。感染症法上の位置づけで、5類に移行すると季節性インフルエンザと同様の対処になると予想されます。

寮生活について（ご質問への回答）

Wi-Fi環境が快適とのご説明でしたが、息子の話によると部屋内では全然使えないとのことです。部屋の位置による偏りがあるのではないでしょうか。

【回答】
　寮室の扉が無線LANの電波を通しづらい材質であるため、USB接続のアンテナをドア下部から出す方法が一番有効と思われます。
　ただし、寮内無線LANが繋がらない場合、まずは以下の３点をご確認ください。
1. 通信したい端末のMACアドレス申請を行っているか。
2. そのMACアドレスがランダム設定ではなく、固定となっているか。
3. 正しいネットワーク名（SSSID）に接続しているか。

16

寮生活について（ご質問への回答）

◆寮の清掃に関しては、もう少しきれいにできないかと常々思います。

【回答】
　七宝寮に関しては、ゴミの分別方法を見直し、以前よりは綺麗になりました。

17

12. さいごに

今後も、安心してお子さんをお預けいただけるよう、寮生の指導に尽力して参りますので、これからもご協力のほど、よろしくお願い申しあげます。

18

詫間キャンパスの近況について

副校長 [redacted]

令和5年2月19日　後援会役員会

はじめに

高専を取り巻く現状と改革　（高専制度60周年）

- 少子化
- 財政縮小

高専全体：

- 教育の質保証
  - モデルコアカリキュラム
  - 学生指導の充実
- 強み・特色の形成と伸張
  - 新しい産業を担う人材育成
  - 大学との連携教育プログラム
- 国際化・情報化
  - 海外展開
  - グローバル人材育成
  - 情報教育，情報セキュリティ人材育成

本校：

- 志願者の確保
- アクティブラーニングの導入
- 実践型PBL教育
- 数学教育の強化
- リベラルアーツの充実
- 学科横断型複合教育
- 資格取得の推進
- 国際交流活動
- 競争的資金の獲得
- AIサマースクール等

はじめに

- **専攻科　香川大学との連携教育プログラム**
  - ・専攻科と香川大学創造工学部双方に在籍，香川大学より学位授与
- **学生指導支援の充実**
  - ・学生の事件・事故を未然に防止，事案発生時の対応力強化
  - ・スクールカウンセラー（3名），スクールソーシャルワーカー（2名）
  - ・心療内科医（月1回）「こころの相談」
- **高専発！「Society5.0型未来技術人材」育成事業**
  - ・イノベーション創出に向けた人材輩出のため，更なる高度化
    - ①数理・AI・データサイエンスの基礎教育 ⇒ **教育プログラム認定制度 リテラシーレベル R4年8月認定**
    - ②各専門分野で基礎となる技術教育
    - ③AI×専門分野を学ぶ教育
- **スタートアップ教育環境整備事業** **令和4年度第2次補正予算額 高専に60億円**

高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業

香川高等専門学校　　大学改革推進等補助金（高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業）

AIとものづくりを通じたスタートアップ起業家育成

STEP1
技術力を生かしたビジネスチャンス、起業マインドの育成
- プレ研究・研究基礎
  - 低学年時から課題解決能力を涵養
- 起業マインドの育成：
  - ・様々な物事に好奇心を持つ
  - ・ITに負けない発想力を伸ばす
  - ・「生産力」「空間的把握能力」の育成
  - ・イメージや思考を言語化し表現・伝達
  - ・「論理的思考力」
- AI教育
  - ・AIサマースクール
  - ・国立成功大学（台湾）連携講義
  - ・ビジネス教育（R5年度～）
  - ・アントレプレナー教育（R6年度～）
- 特別講義
  - ・知財教育

単位化

参加したことで得た経験や課題をフィードバック

STEP2
起業を含めて色々なことにチャレンジしたい学生を支援
起業家工房
地域イノベーションセンター
みらい技術共同教育センター
講義、実験実習、プレ研究・研究基礎/卒研/特研の中で学生自身が閃いたものを、速やかに見える化できる環境を整備
- ・各種分析装置
- ・3Dプリンター・スキャナ
- ・映像音響装置　等

- ・ロボットコンテスト
- ・デザインコンペティション
- ・ビジネスアイデア系コンペ
- ・GCON
- ・校内発明コンテスト
- ・学生向けベンチャーコンテスト
- ・プログラミングコンテスト
- ・インフラテクコン
- ・DCON
- ・英語コンテスト
- ・全国パテントコンテスト

STEP3
地域社会/産業界と連携した学生のスタートアップを支援
- MAiZM（一般社団法人みとよAI社会推進機構）
  - AI人材育成から起業による地域活性化を目的
  - AI人材育成に係る講座等の企画開催
  - 課題解決のためのニーズシーズマッチング
  - 資金の獲得及び管理　AIに係る情報発信
  - 参画企業等との情報交換の実施　等・・・
- 東京大学　松尾研究室
  - 松尾研究室で起業した会社と連携
  - ・「シード」「アーリー」「ミドル」「レーター」の段階の起業家による講演・助言・情報交換
- 地域自治体・地域企業との連携
  - 高松市・三豊市・産業技術振興会・香川銀行・百十四銀行のスタッフによる助言・指導・評価

全国パテントコンテスト等の各行事への参加を支援
各種コンテストへの参加を積極的に推奨する

高専間の連携
高専AIプロジェクト(香川高専含む12高専参画)でAI(DL)ノウハウを共有し、連携して課題解決を目指す
長岡高専とアントレプレナーシップ教育教材を共有し講義を予定

国際的な連携
台湾国立成功大学と連携し、AI・ロボット制御に関する講義・実習を令和3年度より実施

香川高専支援基金の活用
本事業を継続していくために多方面から受け入れる寄附を有効活用できるように「スタートアップ支援事業」を立ち上げる事と併せて、文科省寄附ポータルサイト等で広く募る

- ・産業技術振興会
- ・後援会
- ・同窓会

弁理士による技術的個別指導・助言
特許・意匠登録に向けた技術指導や講習会を年2回以上開催
特許申請を1件／年，意匠登録申請を1件／年

学生活動

- 四国地区高専体育大会
  - ソフトテニス：2位
  - バドミントン女子：2位
- 全国高専体育大会
  - 個人戦でも出場
- プロコン　課題部門で優秀賞
- ロボコン　四国大会で準優勝(A)と技術賞(B),
  - 全国大会で特別賞（田中貴金属グループ）
- 四国地区総合文化祭



高専ロボコン2022の様子

学生活動（みらい技術共同教育センター関係）

- 各種公開講座
- 簡単ロボット教室
- 科学実験教室
- 出前ものづくり講座
- みとよロボコン2022
- みとよ商工まつり
- 三豊市少年少女発明クラブ
- 仁尾八朔人形まつり
- AIサマースクール



公開講座（「やってみようプログラミング」）



AIサマースクール

国際交流活動

- MOU締結校　13大学
- 協定校への学生派遣及び受け入れ
- 海外語学研修(オンライン)
- 学生による国際交流活動報告会
- 協定校との国際会議共催

●令和3年3月
国立成功大学（NCKU）MOU締結
AIに関する連携協定
●令和4年12月に対面交流実施

●AIによる連携教育・・・R4に単位化
令和4年10月から令和5年1月
画像認識AIとロボティクスに
関する初心者向けのオンライン
授業（成功大学・香川高専）
受講人数　香川高専　学生5名
成功大学　学生25名

（下の写真は3年前のものです。今後再開準備中。）



ラジャマンガラ工科大学でのアクティビィティ研修



マレーシアUiTMでの英語研修

大学及び自治体との連携活動

✓ 大学・地域共創プラットフォーム香川

- 高大連携による県内高校からの進学推進
- 県内大学等在学生の地域理解・定着意欲換気
- 卒業者の地域就職推進に向けたキャリア支援
- 地域活性化に係る事業策定のための提案収集
- 情報共有及び外部への情報発信のためのデジタル環境の整備

✓ 高松市との連携事業

- 高松市と香川高専と(株)ミトラとの連携協力

✓ 三豊市との連携事業，みとよAI社会推進機構（MAiZM）

- 三豊市と東京大学大学院松尾研究室と香川高専との人工知能(AI)技術による地域活性化のための連携協力

活動状況　その他概要

✓教育への取り組み

- 学生による授業評価を全科目に実施，教員へフィードバック
- FD･SD研修会，教育実践事例報告会の実施

✓専攻科

- 学位授与のための特例適用認定
- 本校専攻科が審査を行い，大学改革支援･学位授与機構から学位授与
- 香川大学との連携教育プログラム（令和3年度2名入学，R4年度卒業予定）

✓香川高等専門学校産業技術振興会との連携事業

- 会員企業との共同研究に関する研究費の補助
- シーズ発表会の開催

✓香川銀行との連携

- KNBCニュース(月刊)に教員研究シーズを掲載
- インターンシップの受入及び受入企業紹介

最後に

- 朝のショートホームルームの実施（1～3学年）
- 7限目に専門科目の補習（2学年：週1回）
- バス通学：バス定員超過時のタクシー代補助4月のみ
- 地域と連携したPBL（課題解決型学習）低学年教育
- アクティブラーニング等の新たな教育手法の導入
- 新カリキュラム（1年生から4年生まで）
  ･数学教育の強化，リベラルアーツの充実，学修単位増
- 専攻科と香川大学の連携教育プログラム（R3年度専攻科入学生）
- 教職員の働き方改革推進
- 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業申請
- R5年度に機関別認証評価受審

令和4年度進路状況について
（ご意見･ご要望に対する回答）

詫間キャンパス
キャリアサポートセンター長
[redacted]

進路の決定状況

令和4年度　進路状況（2月10日 現在）

決定者/希望者	通信(CN)	電子(ES)	情報(IT)	本科 計	専攻科	全体 計
就職	22 / 23	22 / 22	17 / 18	61 / 63	12 / 13	73 / 76
進学	10 / 10	10 / 10	19 / 20	39 / 40	2 / 2	41 / 42
起業	0	0	0	0	2	2
その他	1	1	2	4	1	5
計	33 / 34	33 / 33	38 / 40	104 / 107	17 / 18	121 / 125

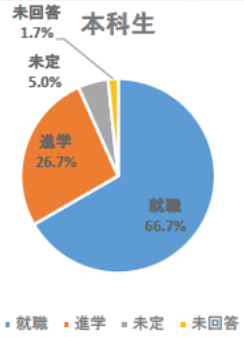
- 採用選考期間は　4，5月がピーク，コロナ感染症の影響で選考期間が延びた学生もいました。
- 推薦応募の不合格は31件と昨年度より増加しました。
- 通信業界は技術者不足，電力会社からの求人が増の傾向にあります。
- 進学での推薦出願の不合格は8件と昨年度より増加しました。

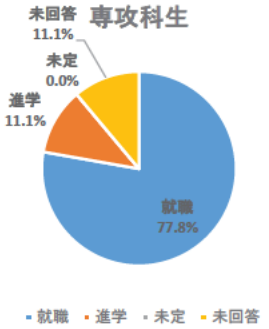
1

進路の希望状況

2024年新卒者　進路希望状況（1/30 調査）

	通信（CN）	電子（ES）	情報（IT）	専攻科	計
就　職	34	24	22	14	87
進　学	6	8	18	2	36
未　定	3	2	1	0	10
未回答	0	1	1	2	5
計	43	35	42	18	138





2

4年生向け進路支援計画

2022.07.13	第1回進路ガイダンス・インターンシップ周知会
2022.10.24	第1回進路希望調査　締切
2022.10.31	第2回進路ガイダンス・キャリア支援講座
2022.12.08	適性検査「全国一斉模擬テスト」受検会
2022.12.12	第2回進路希望調査　締切
2022.12.15	第3回進路ガイダンス・キャリア支援講座
2023.1/9	（学外）学研主催「業界研究セミナー(大阪会場)」
2023.1/14,15	（学外）メディア総研主催「仕事研究セミナー」（神戸，福山）
2023.1/16	履歴書作成講座
2023.1/21	合同大学説明会
2023.1/30	第3回進路調査　締切
2023.2/04	保護者向け進路ガイダンス
2023.2/20	第4回進路ガイダンス
2023.2/20	面接実技研修事前ガイダンス
2023.2/28	合同企業説明会
2023.3/02	第4回進路調査　締切
2023.3/6-8	進路面談（5年 新担任）
2023.3/17	第5回進路調査 締切（最終，求職票として提出）
2023.3/28,29	面接実技研修

個別の会社説明会を
放課後に随時開催

3

（ご意見・ご要望に対する回答）

- コロナのせいで先輩と話をする機会も減っていると思います。低学年と高学年が交流する機会を設けていただいて、就職・進学に対する意識を低学年から持つことができるようにしてほしいです。

（回答）

- 先輩との交流する機会は，クラブ活動等を積極的に参加していただきたいと思います。
- 低学年からの意識づけとしましては，今年度，企業に勤めている本キャンパスの卒業生を招いて低学年向けキャリアガイダンスを実施しました。

4

（ご意見・ご要望に対する回答）

- 引き続き手厚いサポートをよろしくお願いします。
- まだ今後のことにはなりますが、就職と進学の狭間で本人も迷っているようです。先輩や先生方のご意見、ご指導が参考になると思いますので、よろしくお願いします。保護者も一緒に勉強しなければと思うことが多いです。

（回答）

- 低学年は担任が主となり，特別活動の時間や保護者懇談会にて進路支援を行っております。
- １～３年生対象に，低学年向けキャリアガイダンスを実施しております。
- ４年生，専攻科１年生対象には，インターンシップ，進路ガイダンス，キャリア支援講座，合同大学説明会，合同企業説明会，履歴書作成講座，面接実技研修などを実施しサポートしております。
- 保護者様からもサポートをしていただければ幸いです。

5

（ご意見・ご要望に対する回答）

- 進学について更に詳しい説明を聞きたかったです。高学年になりましたら、別途保護者説明会があるのでしょうか。

（回答）

- 大学・高専の専攻科への進学の道があります。
- 大学等の情報は大学等のホームページで確認してください。学校に届いた資料は，図書館2階CSセンターにて自由に閲覧できます。
- 推薦選抜，学力選抜があり，推薦希望の提出は例年4月初日となっております。
- 願書の提出は4月中旬以降，試験は5月中旬以降にある場合が多いです。大学等により異なります。
- 各学年で実施する保護者懇談会にてご相談ください。
- 4年生後期には，保護者向けの進路ガイダンスを実施しております。
- 4年生3月に，進路面談を実施しております。

6

（ご意見・ご要望に対する回答）

- 何かありましたら，詫間キャリアサポートセンター（進路支援室）に相談してください。

詫間キャリアサポートセンターのサポート活動

- ➢１～３年生対象
  - ➢低学年向けキャリアガイダンス
- ➢４年生，専攻科１年対象
  - ➢インターンシップ（夏休み中）
  - ➢インターンシップ周知会
  - ➢進路ガイダンス（４回）
  - ➢キャリア支援講座
  - ➢合同大学説明会（７大学，本校専攻科）
  - ➢合同企業説明会（体育館にて，６０社以上）
  - ➢履歴書作成講座
  - ➢面接実技研修，事前ガイダンス
- ➢相談対応

7

令和5年度入学者 志願状況

教務主事

[redacted]

令和5年2月19日　後援会役員会

入学者選抜志願者数の学科別推移

入学志願者数（推薦＋学力）	機械工学科	電気情報工学科	機械電子工学科	建設環境工学科	通信ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科	電子ｼｽﾃﾑ工学科	情報工学科	計
R5	25	62	35	43	48	58	38	309
R4	42	68	32	42	30	39	68	321
R3	32	65	41	46	42	38	67	331
R2	41	76	49	75	44	65	89	439
H31	67	69	55	54	61	46	51	403

志願倍率	機械工学科	電気情報工学科	機械電子工学科	建設環境工学科	通信ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科	電子ｼｽﾃﾑ工学科	情報工学科	計
R5	0.63	1.55	0.88	1.08	1.20	1.45	0.95	1.10
R4	1.05	1.70	0.80	1.05	0.75	0.98	1.70	1.15
R3	0.80	1.63	1.03	1.15	1.05	0.95	1.68	1.18
R2	1.03	1.90	1.23	1.88	1.10	1.63	2.23	1.57
H31	1.68	1.73	1.38	1.35	1.53	1.15	1.28	1.44

入学者選抜の地域別志願者数推移

出身中学校所在地		高松キャンパス			詫間キャンパス			計		
		R5	R4	R3	R5	R4	R3	R5	R4	R3
香川県	高松市	95	94	80	12	12	19	107	106	99
	丸亀市	14	19	20	29	17	14	43	36	34
	坂出市	5	15	24	4	12	13	9	27	37
	善通寺市	4	4	2	13	14	5	17	18	7
	観音寺市	0	1	3	13	15	17	13	16	20
	さぬき市	5	5	6	0	1	0	5	6	6
	東かがわ市	1	2	3	0	1	0	1	3	3
	三豊市	2	2	7	28	34	34	30	36	41
	小豆島	2	2	0	1	1	1	3	3	1
	三木町	4	3	6	1	0	1	5	3	7
	直島町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	綾川町	7	7	6	1	1	0	8	8	6
	宇多津町	4	2	7	5	5	7	9	7	14
	多度津町	2	0	0	14	8	9	16	8	9
	まんのう町	3	3	3	7	4	7	10	7	10
	琴平町	0	0	2	1	0	3	1	0	5
岡山県		7	16	9	11	7	6	18	23	15
徳島県		4	4	5	0	3	3	4	7	8
愛媛県		2	1	0	2	1	2	4	2	2
上記以外		4	4	1	2	1	6	6	5	7
合計		165	184	184	144	137	147	309	321	331

三豊・観音寺地区

中学校名	詫間キャンパス		
	R5	R4	R3
詫間	7	10	9
三野津	5	4	10
仁尾	1	4	1
高瀬	7	5	5
豊中	1	2	6
三豊	7	8	3
和光	0	1	0
観音寺	1	1	1
中部	4	7	3
大野原	7	3	7
豊浜	1	4	6
伊吹	0	0	0
計	41	49	51

三豊中は三豊市として集計

令和5年度入学者選抜出願状況

令和5年2月1日（水）

◆令和５年度入学者選抜出願状況・結果　　香川高等専門学校

			機械工学科	電気情報工学科	機械電子工学科	建設環境工学科	通信ネットワーク工学科	電子システム工学科	情報工学科	合計
募集人員（入学定員）			40	40	40	40	40	40	40	280
推薦選抜	志願者数		7	32	13	31	20	33	21	157
	志願倍率		0.35	1.60	0.65	1.55	1.00	1.65	1.05	1.12
	受験者数		7	32	13	31	20	33	21	157
	合格者数		7	21	13	20	20	20	21	122
帰国生特別選抜・学力選抜	定員（学力・帰国生選抜）		33	20	27	20	20	20	20	160
	学力選抜	志願者数(※1)	18	41	22	22	28	38	17	186
		志願倍率	0.55	2.05	0.81	1.10	1.40	1.90	0.85	1.16
		受験者数								
	帰国生特別選抜	志願者数	0	0	0	0	0	0	0	0
		受験者数								
	合格者数									
合格者数計(※2)										

（※1）第1志望学科による集計とする。

推薦選抜で合格とならなかった者のうち学力選抜を受験する者を含む。

（※2）推薦選抜・学力選抜・帰国生特別選抜の合格者数の合計とする。

香川高等専門学校詫間キャンパス後援会会則

制定　平成２１年１０月１日

（名称）

第１条　本会は，香川高等専門学校詫間キャンパス後援会（以下，「本会」という。）と称し，その事務所を同校内に置く。

（目的）

第２条　本会は，香川高等専門学校詫間キャンパス（以下「学校」という。）の発展に寄与し，学生の教育に関し学校に協力するとともに，会員相互の親睦を図ることを目的とする。

（事業内容）

第３条　本会は，前条の目的を達成するため次の事業を行う。

一　学生の福利厚生に関する助成
二　学生の課外活動の援助
三　教員の教育並びに研究活動の助成
四　学生の研究並びに実習，就職等の援助
五　学校の教育目標を達成するために，必要に応じて協議し，学校に協力する。
六　その他本会の目的達成のため必要な事業

２　上記各号に定める事業を行うため，学校に寄付を行うことができる。

（組織）

第４条　本会に前条の事業内容を円滑に実施するため，別表に掲げる支部を置く。

２　支部の運営に関し必要な事項は，別に定める。

（会員）

第５条　本会の会員は，次のとおりとする。

一　正 会 員　学生の保護者（専攻科学生にあっては保証人）
二　賛助会員　本会の趣旨に賛同する者

（役員）

第６条　本会に次の役員を置く。

一	会長	１名
二	副会長	３名（内１名は寮保護者会会長）
三	理事	若干名
四	監事	２名
五	顧問	若干名

（役員の任務）

第７条　役員の任務は，次のとおりとする。

一　会長は，本会を代表し，会務を総括する。
二　副会長は，会長を補佐し，会長に事故あるときは，その職務を代理し，又は欠けたときはその職務を代行する。
三　理事は，会務の運営に当たる。
四　監事は，会計監査をつかさどる。
五　顧問は，会務について会長の諮問に応じる。

（役員の選出）
第８条　会長，副会長，監事は，正会員の中から総会の議を経て選出する。
２　理事は，会長が指名し，総会の承認を得なければならない。
３　顧問は，必要に応じて会長が委嘱する。

（役員の任期）
第９条　役員（顧問を除く。）の任期は，１ヶ年とする。ただし，再任を妨げない。

（事務）
第１０条　本会の事務を処理するため，事務職員を置く。

（総会）
第１１条　総会は，通常総会及び臨時総会とする。
２　通常総会は，毎年１回，年度の当初に会長が招集する。
３　臨時総会は，会長が必要と認めたとき招集する。
４　総会の議長は，会長とする。
５　総会は，次の事項を審議決定する。
一　事業計画並びに予算決算
二　役員の選出
三　会則の改廃
四　その他重要事項

第１２条　総会に出席できない者は，委任状をもって代えることができる。

第１３条　総会は，出席者及び委任状を含めて，正会員の３分の１以上に達しなければ成立しない。
２　総会の議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（役員会）
第１４条　役員会は，役員によって構成し，会務の運営に関し必要な事項について審議する。
２　役員会は，会長が必要と認めたときに随時招集する。
３　役員会の議長は，会長とする。
４　役員会は，出席者及び委任状を含めて，役員の３分の２以上に達しなければ成立しない。
５　役員会の議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
６　緊急を要する場合，役員会は総会に代えて審議決定することができる。この場合は，総会への報告を要するものとする。

（本会の経費）
第１５条　本会の経費は，入会金，会費及び寄附金をもってこれに充てる。

（入会金及び会費）
第１６条　正会員は，入会の際，入会金として８，０００円を納入するものとする。ただし，学校の本科から引き続き専攻科に入学する場合の入会金は，納入を要しないものとする。会費は，一人当たり本科生は年額１９，０００円，専攻科生は１２，０００円とし，年度当初に一括納入又は４月及び１０月に分納するものとする。
２　正会員で会費の納入が困難な者については，別に定める内規に基づき，徴収を免除することができる。
３　賛助会員は，入会の際，応分の金額を納入するものとする。

（予算及び決算）
第１７条　本会の予算は，毎会計年度開始前役員会の議を経て，総会の承認を得なければならない。

第１８条　本会の決算は，毎会計年度終了後役員会の議を経て，総会の承認を得なければならない。

（会計年度）
第１９条　本会の会計年度は，４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。

（雑則）
第２０条　本会の会則改正は，役員会の議決を要する。

附　則
１　本会則は，平成２１年１０月１日から施行する。
２　従前の詫間電波工業高等専門学校後援会会則は，廃止する。
３　この会則の施行の際，従前の詫間電波工業高等専門学校後援会の支部，会員，役員，預貯金等の資産及び第３条の事業を行うための必要な事項は，香川高等専門学校詫間キャンパス後援会へ引き継ぐものとする。

附　則
本会則は，平成２３年５月１５日から施行し，平成２３年４月１日から適用する。

附　則
本会則は，平成２６年５月１１日から施行し，平成２６年４月１日から適用する。

附　則
本会則は，平成２７年５月１０日から施行し，平成２７年４月１日から適用する。

附　則
本会則は，平成３０年５月１３日から施行し，平成３０年４月１日から適用する。

附　則
本会則は，令和２年５月２７日から施行し，令和２年４月１日から適用する。

附　則
本会則は，令和３年５月２７日から施行し，令和３年４月１日から適用する。

別表

支　　部	地　　区
第１支部	三豊市，観音寺市（但し，三豊中学校区のみ）
第２支部	観音寺市（但し，三豊中学校区は，第１支部とする。），愛媛県，高知県
第３支部	善通寺市，多度津町，琴平町，まんのう町，徳島県
第４支部	丸亀市，綾川町
第５支部	坂出市，宇多津町，四国外
第６支部	高松市，三木町，直島町，さぬき市，東かがわ市，土庄町，小豆島町

香川高等専門学校詫間キャンパス後援会支部細則

制定　平成２１年１０月１日

（趣旨）
第１条　香川高等専門学校詫間キャンパス後援会会則第４条第２項の規定に基づき，この細則を定める。
（目的）
第２条　香川高等専門学校詫間キャンパス後援会支部は，次に掲げる事項を行うことを目的とする。
一　支部総会，又は情報交換会を開催し，会員相互の情報交換や親睦を図る。
二　学校関係者と会員との親睦を図る。
三　学校のＰＲ活動に協力する。
（役員）
第３条　支部に次の役員を置く。
一　支部長　　１名
二　副支部長　　１名
（役員の任務）
第４条　役員の任務は次のとおりとする。
一　支部長は，支部を代表し，会務を総括する。
二　副支部長は，支部長を補佐し，支部長に事故があるときは，支部長の任務を代行する。
（役員の選出）
第５条　役員は支部会員の中から後援会長が指名し，総会の承認を得なければならない。
（役員の任期）
第６条　役員の任期は，１年とする。ただし，再任を妨げない。
（会議）
第７条　支部の会議は，支部総会及び支部役員会とする。
第８条　支部総会は，支部長が必要と認めたときに随時招集する。
２　支部総会の議長は，支部長とする。
３　支部総会の議事は，出席者の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
第９条　支部役員会は，支部長が必要と認めたときに随時招集する。
２　支部役員会の議長は，支部長とする。
（会計）
第１０条　支部の経費は，後援会費をもってこれにあてる。
（会計年度）
第１１条　支部の会計年度は，毎年４月１日に始まり翌年の３月３１日に終わる。
（規則の改正）
第１２条　支部細則の改正は，香川高等専門学校詫間キャンパス後援会総会の決議を得なければならない。

附　則
１　この細則は，平成２１年１０月１日から施行する。
２　従前の詫間電波工業高等専門学校後援会支部細則は，廃止する。
３　この細則の施行の際，従前の詫間電波工業高等専門学校後援会支部の役員及び第２条の目的を達するための必要な事項は，香川高等専門学校詫間キャンパス後援会支部へ引き継ぐものとする。

令和４年度

香川高等専門学校外部評価委員会　議事次第

日時：令和５年２月６日(月) 15:00～17:00
場所：香川高等専門学校高松キャンパス
（第一会議室）

○開会

○校長挨拶と趣旨説明

○委員紹介

○委員長選出

○議題
１．香川高等専門学校を取り巻く現状と活動
２．香川高等専門学校自己点検評価

○意見交換

○閉会

令和４年度　香川高等専門学校外部評価委員会　資料一覧

・議事次第
・資料一覧
・出席委員名簿
・座席表
・香川高等専門学校外部評価委員会規程

議題資料①

香川高等専門学校を取り巻く現状と活動

議題資料②

香川高等専門学校自己点検評価

参考資料

・令和４年度　学校要覧
・２０２３　学校案内
・香川高専だより３０号、３１号
・香川高等専門学校産業技術振興会会報 Vol.１４
・香川高等専門学校　年報２０２１

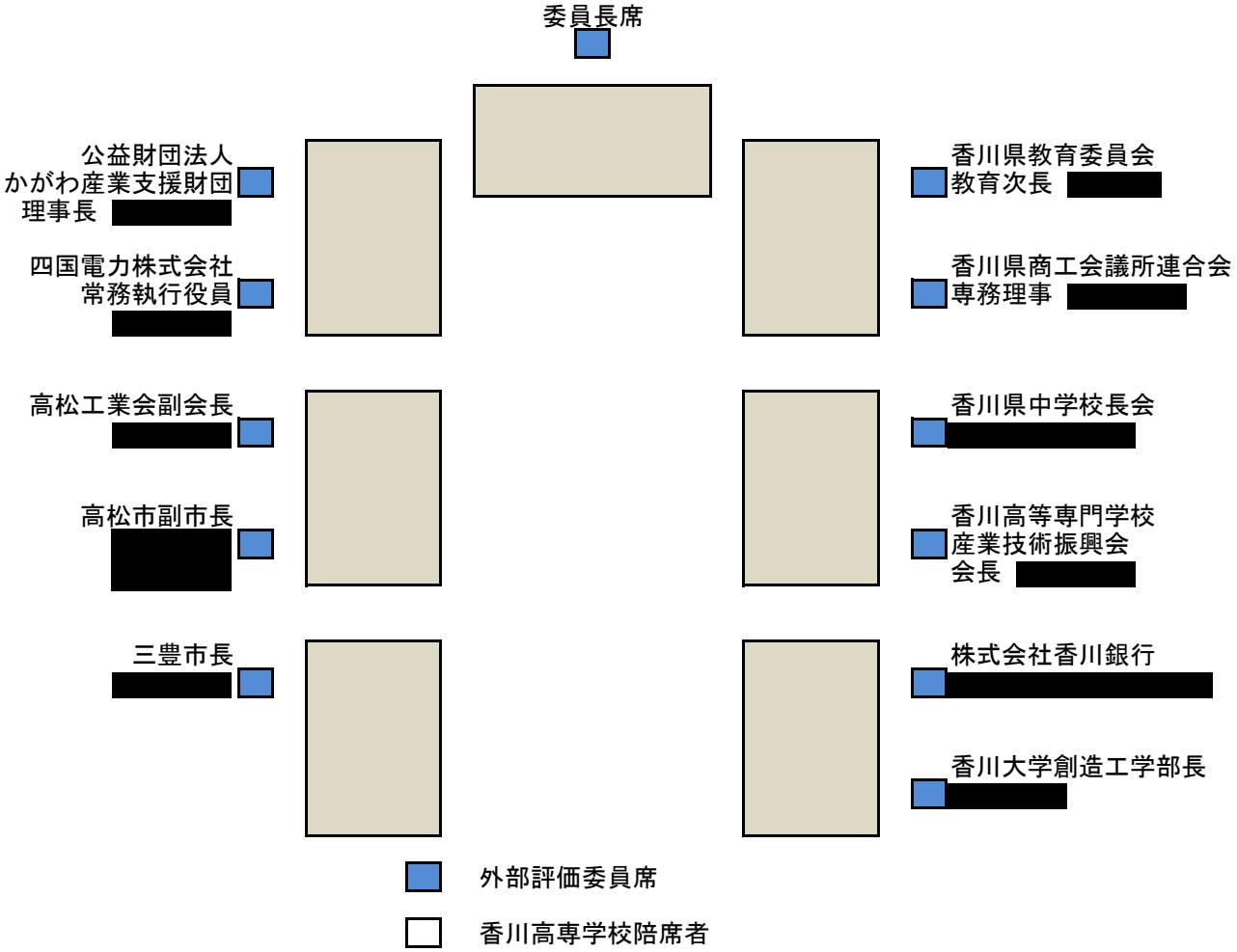
香川高等専門学校　外部評価委員会　名簿

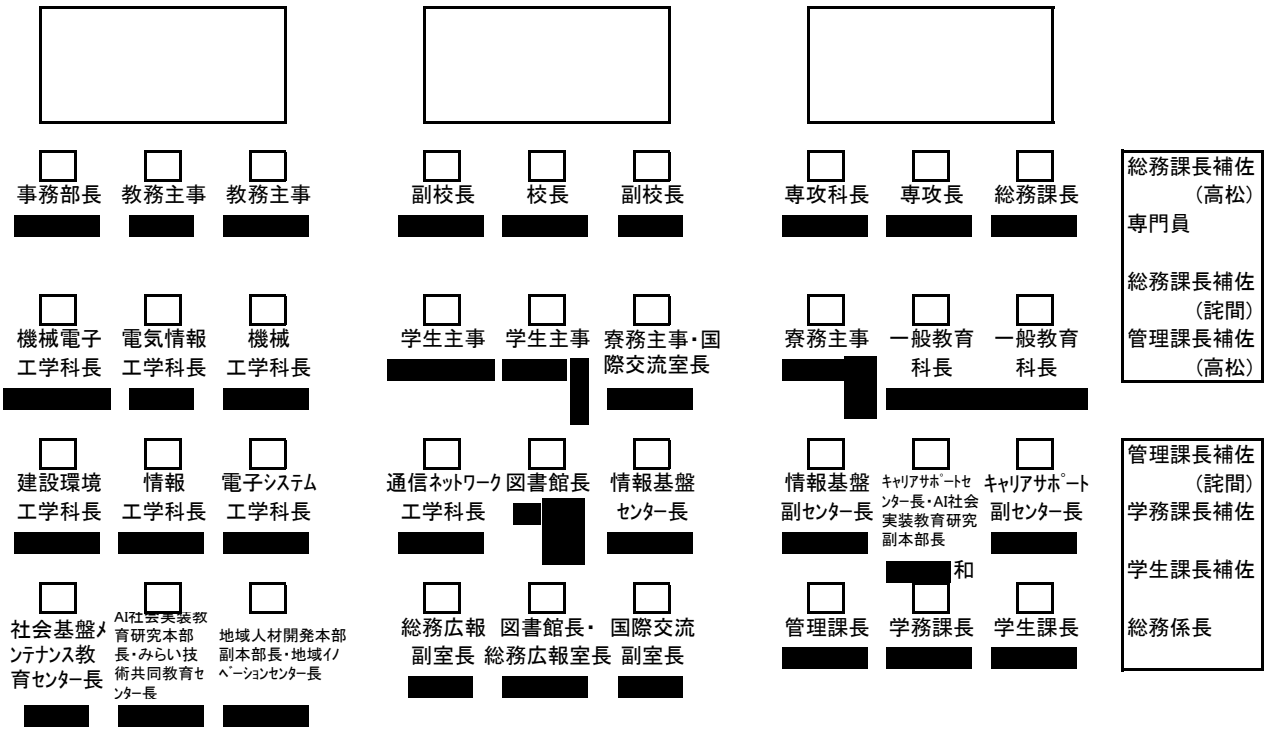
（令和５年２月６日現在）

香川県教育委員会教育次長	[redacted]
香川県商工会議所連合会専務理事	[redacted]
香川県中学校長会会長	[redacted]
香川高等専門学校産業技術振興会会長	[redacted]
香川大学創造工学部長	[redacted]
株式会社香川銀行常務取締役	[redacted]
公益財団法人かがわ産業支援財団理事長	[redacted]
四国電力株式会社常務執行役員	[redacted]
高松工業会副会長	[redacted]
高松市副市長	[redacted]
三豊市長	[redacted]

（所属の五十音順　敬称略）

令和4年度　外部評価委員会座席表





香川高等専門学校外部評価委員会規程

平成 21 年 10 月 1 日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，香川高等専門学校内部組織規則第 22 条第２項の規定に基づき，香川高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。)について定めるものとする。

（審議事項）

第２条　委員会は，香川高等専門学校の点検評価を踏まえ，今後の教育・研究並びに学校運営の一層の発展・充実に資するため，第３条に定める外部評価委員による次の各号に掲げる事項を評価する。

一　教育理念，目的，目標及び方針に関すること。

二　教育活動に関すること。

三　学生支援に関すること。

四　研究及び地域連携に関すること。

五　国際交流に関すること。

六　管理運営及び施設整備に関すること。

七　その他委員会が必要と認める事項

（組織及び任期）

第３条　委員会は，校長が評価項目に関し，十分な評価能力を有すると認められる学外の評価委員をもつて組織する。

２　委員は，校長が委嘱する。

３　委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，委員の互選により選出する。

（代理者の出席）

第５条　第３条の委員は，やむを得ない理由により委員会に出席できないときは，当該評価委員があらかじめ指名した代理者を，委員会に出席させることができる。

（評価実施方法）

第６条　委員会は，資料による調査，本校で実施するヒヤリング及び実施調査等で評価を実施する。

（事務）

第７条　外部評価の実施に関する事務は，総務課総務係において処理する。

（その他）

第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，校長が定める。

附　則

この規程は，平成 21 年 10 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は，平成 28 年 12 月１6 日から施行する。

本校を取り巻く現状と活動



高松キャンパス



詫間キャンパス

香川高等専門学校
R04年度外部評価委員会資料

高専を取り巻く現状

取り巻く環境の変化

1．少子化

16歳人口：(H17生まれ)：110万人(R02.10.1)
（H17：127万人→ R07：106万人）

香川県
16歳人口：(H17生まれ)：
10,194人(H17.10.1)→9,074人(R02.10.1)

2．財政縮小

R02年度：総予算760億円（高専機構）
（H16：838億円→ R05：756億円）

一般管理費は前年度△3%
教育研究及び事業経費は前年度△1%

高専機構

・高専発！「Society5.0型未来技術人財」育成事業【新規】
・高専と大学の連携教育プログラム【継続】
・学生指導支援体制の再整備【継続】

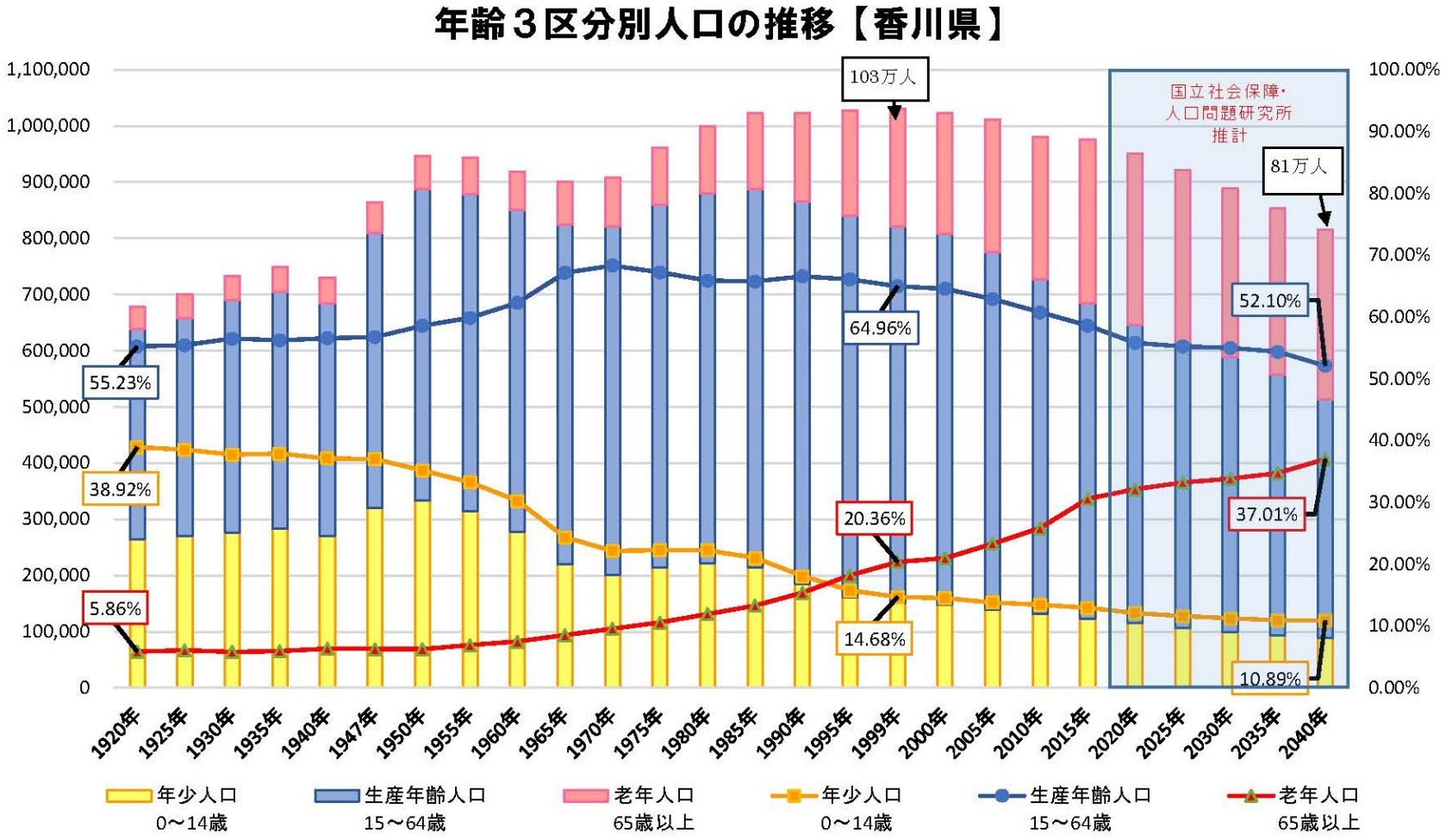
Society5.0

〇GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化
・AIと他分野を融合し課題解決につなげる人財育成体制を構築
・介護・医工、マテリアル【継続】、防災・減災・防疫【新規】

〇COMPASS5.0　次世代基礎技術教育のカリキュラム化
・イノベーション創出に向けた人材輩出のため、
①数理・AI・データサイエンスの基礎教育
②各専門分野で基礎となる技術教育
③AI×専門分野を学ぶ教育
の更なる高度化

8

香川県の人口割合の推移



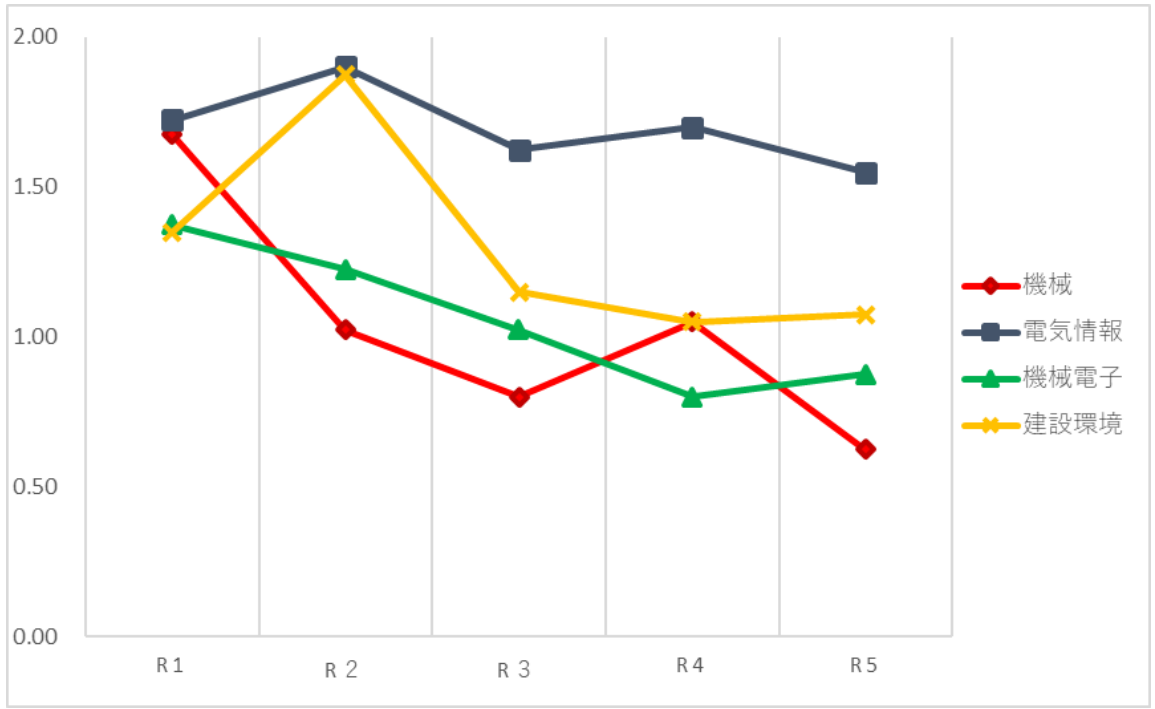
出典：総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

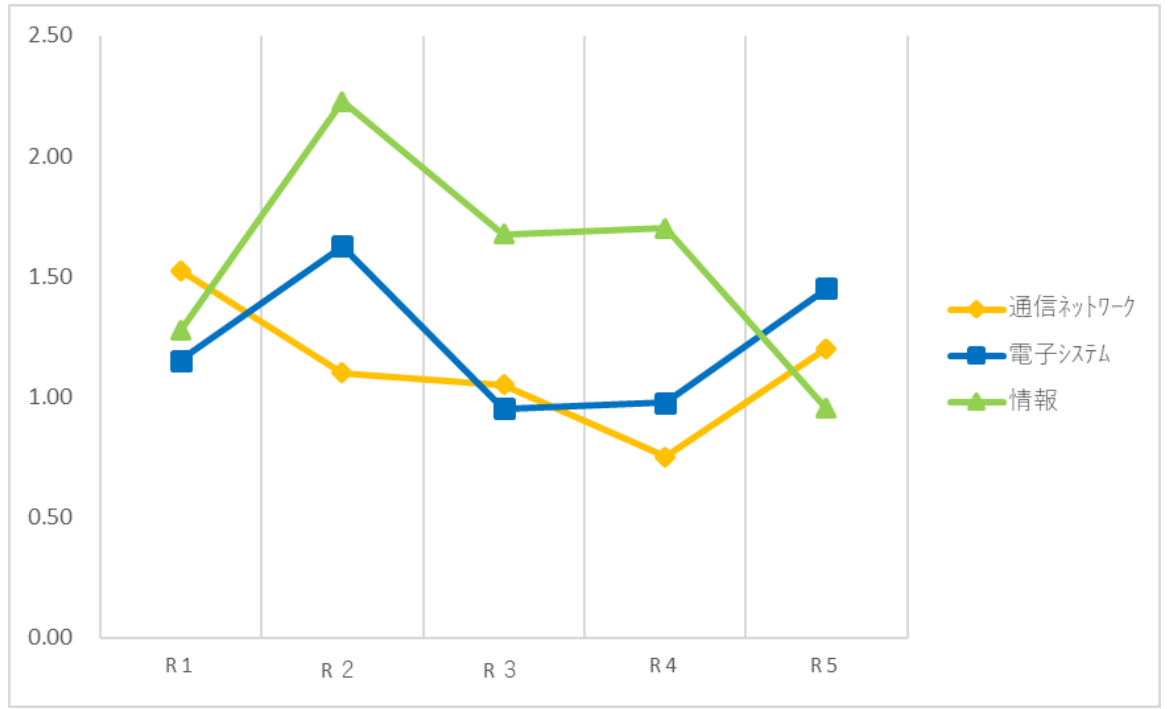
○平成12年から
　人口減少社会に突入
○ピークは、
　H7年国勢調査：1,027,006人
（香川県人口移動調査では、H11年：1,030,388人）
○令和2年国勢調査：950,244人
（香川県人口移動調査R2.10.1現在：951,000人）
○将来予測では、
令和22（2040）年：814,677人
（国立社会保障・人口問題研究所）
○年少人口、生産年齢人口は
　今後も減少、老年人口は維持

（出典　香川県　資料）

本校の入試倍率の推移

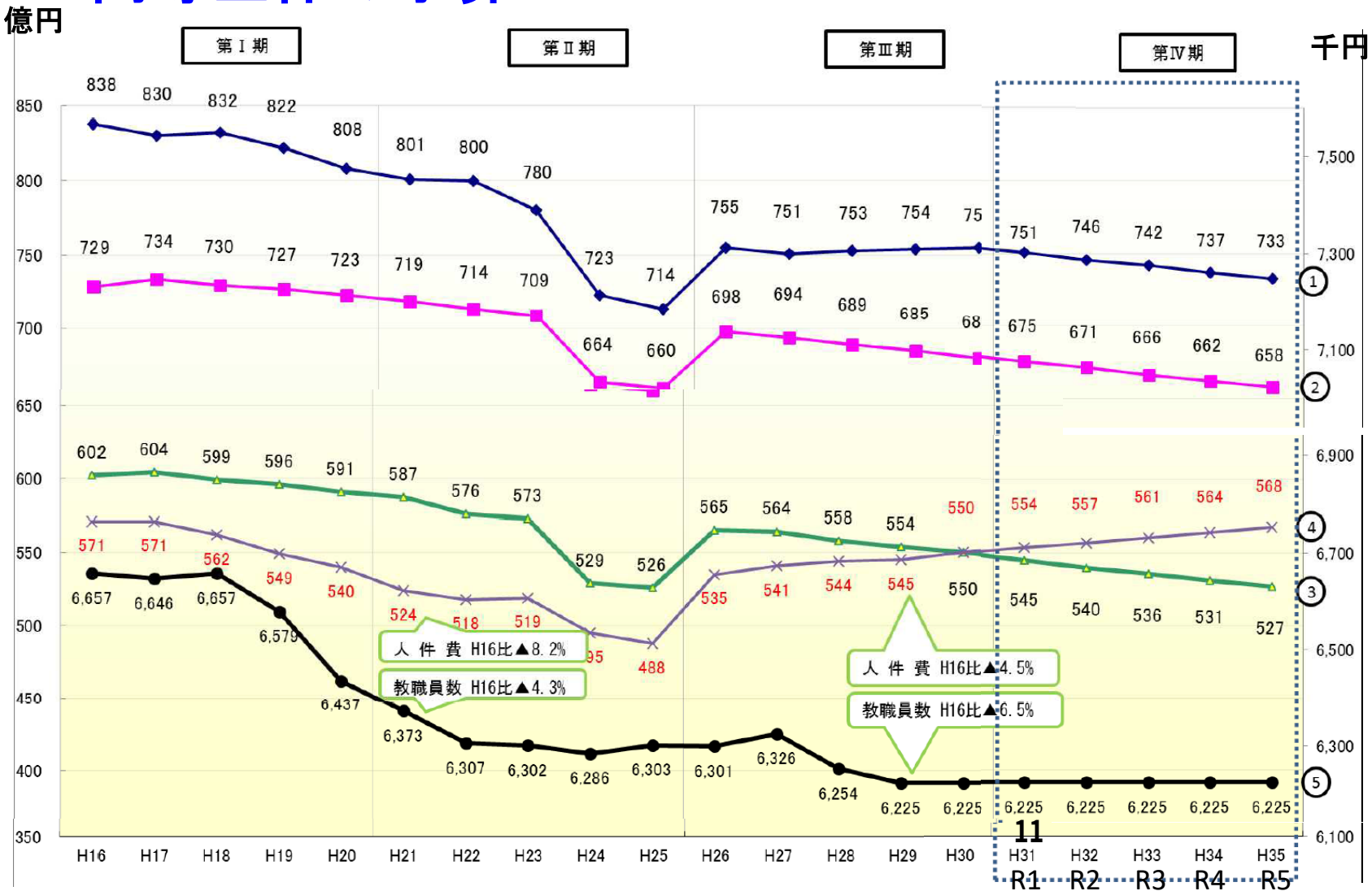
推薦と学力の第１志望の合計





予算

高専全体の予算



（文部科学省　資料　）

本校の予算

H24年度:521，779(千円)
↓
H30年度:387，207(千円)
↓
R2年度　:383，276(千円)
R3年度　:377，829(千円)
R4年度　:384，390(千円)

（香川高専企画運営会議資料:当初予算）

高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業

香川高専

背景・課題

令和4年度第2次補正予算額　60億円

新しい資本主義を実現する上で、日本の経済成長を促し、社会的な課題にアプローチし解決するためのスタートアップ育成が不可欠であり、とりわけ、優れた技術力と柔軟なアイデアを有する若い人材に対して支援することは、スタートアップ育成として有意義。（新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画(令和4年6月7日閣議決定)）

近年、高専生が高専教育で培った「高い技術力」、「社会貢献へのモチベーション」、「自由な発想力」を生かして起業する事例が出てきている。我が国のスタートアップ人材育成を加速するため、スタートアップ人材の育成に優位性がある高専において、高専生が自由にプロダクトを開発するなどの実践的な活動にチャレンジできる環境整備が効果的。

【高専生の起業例】

㈱ IntegrAI（長岡高専）

AIでアナログ・デジタルメーターをデータ化する産業用小型AIカメラシステムの提供

TAKAO AI ㈱（東京高専）

印刷物をスキャナーで読み取り、そのデータをもとに点字に自動変換する機器の提供

事業内容

- 高専をスタートアップの教育拠点として、高専間で連携を図り、各地域から「ものづくり」×「AI」×「課題解決」によるイノベーションを推進。
- アントレプレナーシップ教育に取り組む全ての国公私立高専に対して、高専生が自由な発想で集中して活動にチャレンジできる起業家工房（試作スペース）等の教育環境整備などスタートアップ人材育成に資する各高専の戦略的な取組を支援。
  - 件数・単価：全高専（57校）×約106百万円

［アクティブラーニング設備、試作用装置、材料・活動費など］


起業家工房（イメージ）

【高専で実施する優位性】

- 15歳から「ものづくり」を目指すエンジニアの卵であり、5年一貫の専門的な実験・実習とともに、社会実装教育により社会課題解決に取り組む。
- 教員の教育志向が高く、地域社会との連携を重視した実践的な教育を展開。
- 「手」を動かし、ロボコンなどのコンテストにも積極的に取り組む好奇心があり、高専生の起業に期待。


プログラミングを実践


フィールドでの実験を実施


専門家によるアドバイス

【STEP1】 全ての高専生が将来の選択肢の一つとして「起業」を知る（授業）

技術力を生かしたビジネスチャンス、起業マインドの醸成
- 高専卒の起業家OB・OGによるスタートアップ講義
- ビジネス関連知識の習得などアントレプレナーシップ教育の必修化
- オンデマンド型授業により、自由に学べる環境整備

【STEP2】 高専生が自由な発想でコト作りに挑戦（起業家工房）

（高専間の連携）

起業を含めて色々なことにチャレンジしたい高専生を支援
- 高専生による起業（トライアル）に向けた環境整備（起業家工房（試作スペース）、備品、活動経費等）
- 起業家、専門家による起業支援（コーディネート人件費等）　等
- 高専コンテストを通じた事業創出の経験（例：高専DCON）

【STEP3】 高専生のスタートアップ

ものづくりの強みを活かしつつ、新しい価値創造を牽引する人材を輩出

地域と連携した高専生のスタートアップを拡充
- 地域の産官金と連携し、地域課題解決型のスタートアップを実践
- 全国の各地域にある高専からスタートアップを推進

※高専生がチャレンジできる教育環境整備・取組を早急に支援

地域における人材育成からスタートアップへ

成果・インパクト

✓ 高専生の活動を後押しすることで、起業コンテスト等へのチャレンジ機会の拡大にもに、高専型のスタートアップエコシステム構築を目指す。

✓ 高専生が地域をフィールドに活動し、自らの技術を用いた地域の社会課題解決に取り組み、地域活性化にも貢献。

12

香川大学との連携教育プログラム

特徴

- **香川高専イノベーション創造型連携教育プログラム**
  専攻科，香川大学創造工学部双方に在籍
  香川大学より学位授与



- **機械工学科から機械システムコースへ**
  R3年度2名入学（R4年度卒業予定）

- **編入学との違い**

選考段階で指導教員を選択できるプログラムとしているため、継続的な卒業研究が担保されることや、香川高専の教員も研究指導にあたるため、本科5年で取り組んだ研究テーマを発展させて継続した研究環境を実現することが最大の特徴である。

- **教育プログラムの改善**

R4年度とR5年度の入学者がいないため、授業科目の相互読み替え表について、特に電気系科目を増やした。R6年度の入学者確保を目指す。

13

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度

文部科学省
数理・データサイエンス・AI教育プログラム制度
リテラシーレベル　令和４年８月　に認定されました。



香川高等専門学校　数理・データサイエンス・AI教育プログラム

香川高専では、全学生を対象とした数理・データサイエンス・AI教育プログラムを2020年度から提供しています。
令和5年3月に全7学科の3年生（290人）がプログラムを修了予定。

実施体制

委員会等	役割
校長	運営責任者
教務委員会	プログラムの改善・進化
外部評価委員会	プログラムの自己点検・評価

身につけられる能力

今後のデジタル社会において必要となる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を身につけ、その知識とスキルを自身の専門分野等において活用できる。

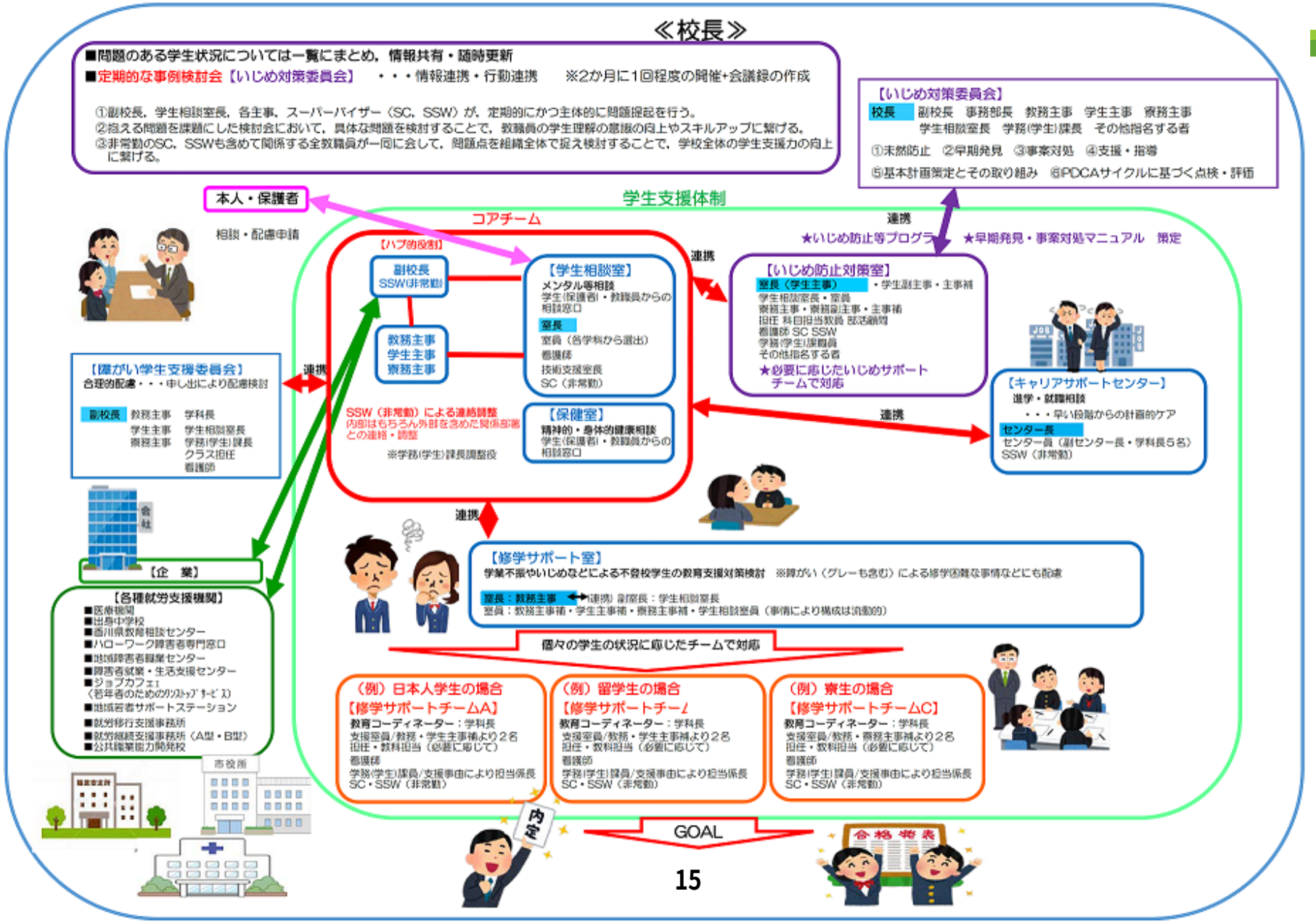
本プログラムを構成する科目（必修科目）

学科	高松キャンパス 機械工学科　電気情報工学科 機械電子工学科　建設環境工学科	詫間キャンパス 情報ネットワーク工学科　電子システム工学科 情報工学科	
1年	工学リテラシー（2）		
2年	社会II（2）	社会II（2）	情報処理I（2）
3年	応用数学I（2）	確率統計（2）	情報処理II（2）

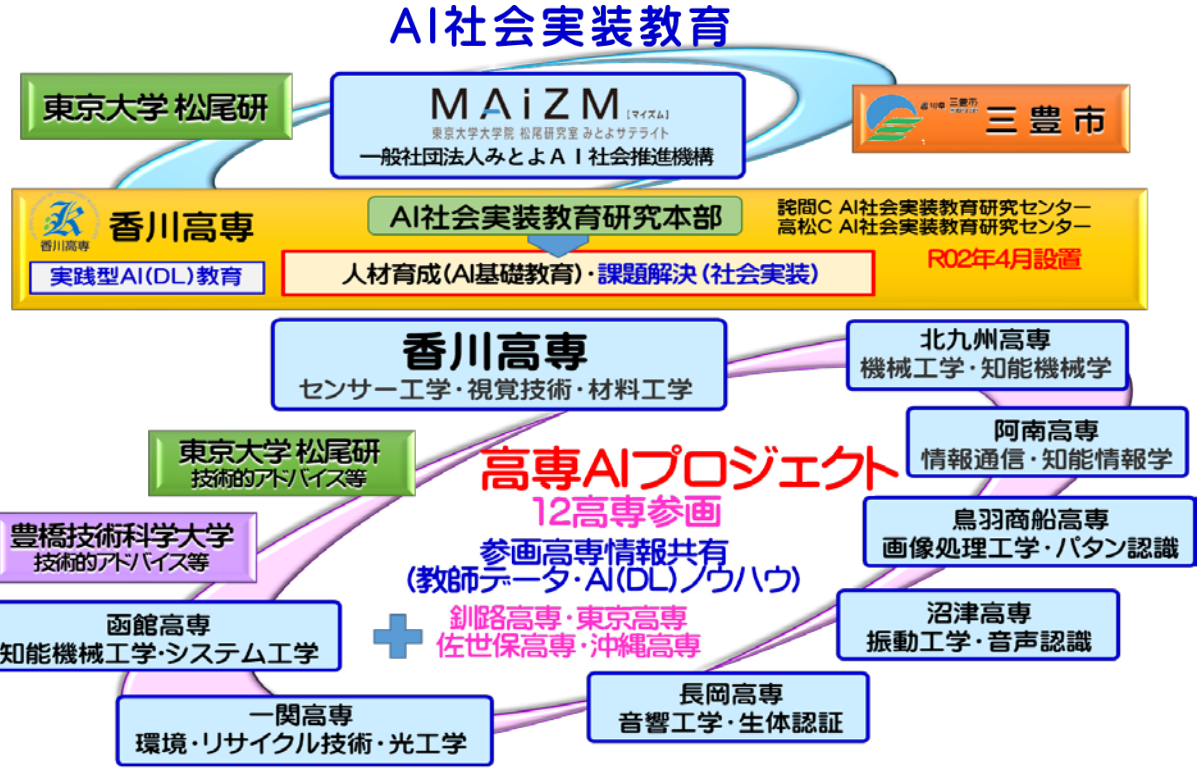
修了要件

本プログラムを構成する科目をすべて修得していること。

学生指導支援　チーム香川高専のイメージ図



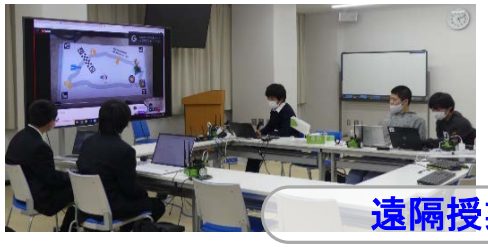
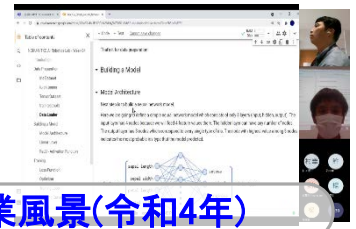
活動状況　–AI社会実装教育研究本部–








遠隔によりMOU締結(令和3年3月)

遠隔授業風景(令和4年)





対面交流(令和4年、國立成功大学)

●MAiZM支援による起業

令和元年12月・・・AI関連学生ベンチャー（Panda(株)）起業（第１号）

令和２年８月・・・学生ベンチャー（(株)三豊AI開発）起業

●AIサマースクール（H30年度～）

令和３年９月　第４回実施、全国高専に配信

香川高専学生35名,教職員10名，その他高専学生教職員等73名　合計118名

令和４年９月　第５回実施、全国高専に配信

香川高専学生44名,教職員5名、その他高専学生教職員等82名　合計131名

●AIによる国際連携教育（R03年度～）

令和3年3月：台湾國立成功大学(台南)（NCKU)とMOU「AIに関する連携協定」締結

画像認識AIとロボティクスに関する初心者向けのオンライン授業

令和３年・・・試行的に連携講義実施

令和４年１０月から令和５年１月（30時間）・・・AI特化コース単位化（１単位）

〇Part1: PyTorchを使った画像認識AIの実装（國立成功大学）

〇Part2: 画像認識AIとJetBotを使ったロボット制御(香川高専)

受講人数:香川高専 学生５名、國立成功大学 学生２５名

対面交流実施（令和４年１２月）・・・國立成功大学

●高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業申請

AIとものづくりを通じたスタートアップ起業家育成

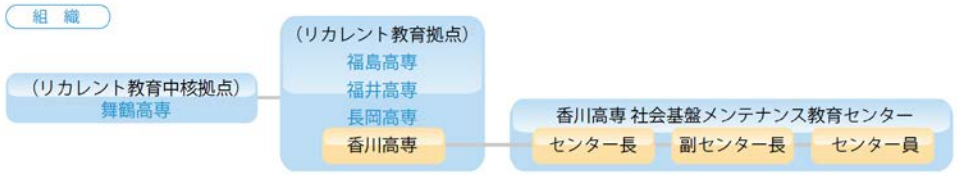
活動状況–社会基盤メンテナンス教育センター設置–

香川高専

【目的】

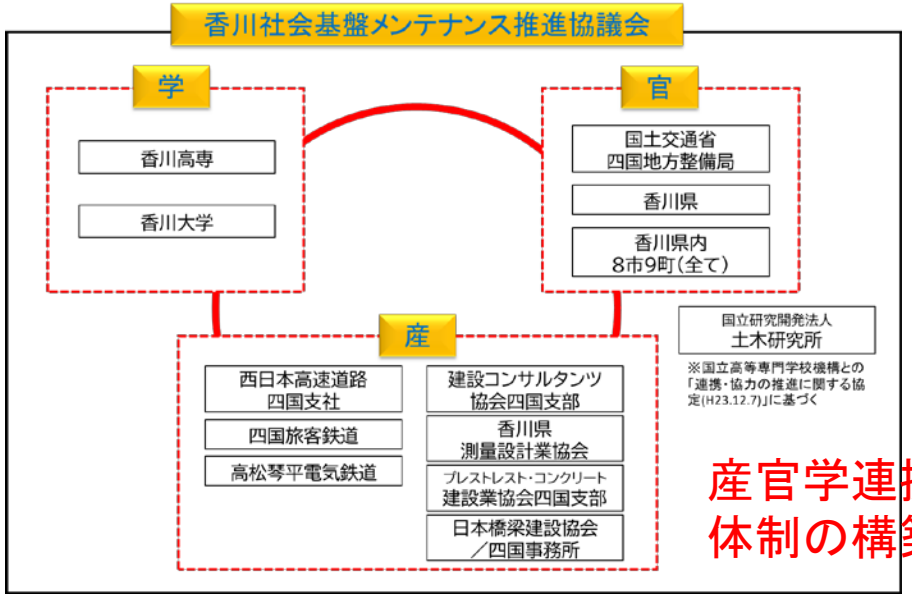
令和2年4月設置

すでに社会で活躍する建設技術者に対して、改めて橋梁メンテナンスの知識や技術を身につけてもらうリカレント教育を実施する。



※センター構成員は学内教員に加え、清水建設(株)とのクロスアポイントメントで実務経験・専門知識を有する教員を雇用

令和3年7月
香川社会基盤メンテナンス推進協議会設立



産官学連携
体制の構築

e＋iMec講習会の実施

令和4年度から開始

eラーニングの事前学習と高専での体験型の対面講習会を組合せた“e＋iMec講習会”は各回の受講人数を10名とし、少人数で密度の濃い学習ができる環境を整えている。

所定の学修を修了し、資格認定試験に合格した方には、橋梁メンテナンスに関する技術資格(高専機構が認定する「准橋梁点検技術者」及び「橋梁点検技術者（国土交通省民間資格登録「品格技資第183号」）」)を認定する。

令和4年度から本格実施し、全5回の講習会全てが10名の定員満員で実施した（第5回目は3月実施）。受講生アンケートからも満足度の高い評価を得た。現在、舞鶴高専を中核とする5高専で、将来の自活化に向けた検討を行っている。



実橋梁での点検講習



非破壊試験装置体験



学内実習フィールドでの講習

活動状況　–大学及び自治体との連携活動–

○大学・地域共創プラットフォーム香川

・高大連携による県内高校からの進学推進
・県内大学等在学生の地域理解・定着意欲換気
・卒業者の地域就職推進に向けたキャリア支援
・地域活性化に係る事業策定のための提案収集
・情報共有及び外部への情報発信のためのデジタル環境の整備

大学コンソーシアム香川は令和3年度で活動終了し、事業内容は大学・地域共創プラットフォーム香川へ引継

（県内大学等）
香川大学，香川県立保健医療大学，四国学院大学，徳島文理大学，高松大学，香川短期大学，高松短期大学，せとうち観光専門職短期大学，香川高等専門学校
（経済団体等）
香川県商工会議所連合会，香川県商工会連合会，香川県中小企業団体中央会，香川経済同友会，香川県中小企業家同友会，香川県農業協同組合中央会，香川県漁業協同組合連合会，香川県銀行協会
（行政機関）
高松市，丸亀市，坂出市，善通寺市，観音寺市，さぬき市，東かがわ市，三豊市，土庄町，小豆島町，三木町，直島町，宇多津町，綾川町，琴平町，多度津町，まんのう町，香川県

○高松市との連携事業

・高松市こども未来館科学体験教室開催業務委託(H27～)
・スマートシティたかまつ推進協議会への参加（H29～）
・平成29年12月22日に高松市と香川高専と(株)ミトラとの連携協力に関する協定書締結（高齢者等見守り機器開発、情報通信技術（ICT）を活用した地域包括ケアシステムの構築推進）
・令和2年12月18日に高松市と一般社団法人みとよAI社会推進機構（MAiZM）と香川高等専門学校との（1）行政サービスの向上、地域課題の解決に向けた連携、（2）人材育成に関する連携のための合意書の締結

○三豊市との連携事業

・受託研究「三豊市・香川高等専門学校連携事業」
理科離れ対策，魅力ある地域づくり
・平成30年8月20日三豊市と東京大学大学院松尾研究室と香川高等専門学校との人工知能（AI）技術による地域活性化のための連携協力に関する合意書の締結（東京大学松尾研究室講師による学生を対象としたサマースクールの開催）

活動状況　–地域との連携–

○体験教室

サイエンス教室
4コマまんがにチャレンジ！
「1コマまんが」をみんなでつないでみよう～
温度で色が変わる魚つりゲームを作ろう
プログラムでロボットを動かそう！
土木わくわく教室
燃料電池車の仕組みについて知ろう！」
満濃池クロニクル★STEAM
NHKロボコン用ロボットの実演とミニロボ操縦体験
おもしろ体験教室「数学」

簡単ロボット教室
初心者ロボット教室
基礎を学びながらおもちゃをつくろう！
発明くふう展作品づくり
チャレコン作品づくり
三豊市少年少女発明クラブチャレンジ創造コンテスト
おもしろ科学実験教室
プログラミング教室
楽しいアイデア工作
からくり教室

○公開講座開催

ハンドル式メダル落としゲーム機を作ろう！対象：小4～中3
身近な土木ぼうさい×STEAM　対象：中学生、小学生
プラスチックの性質を調べよう　対象：中学生
PyTorchによるDeep Learning入門　対象：一般
専門講習会「Android入門講座」　対象：一般
スイム記録会＆スタート練習会in三豊　対象：一般・小中学生
中学生のための高専数学講座　対象：中3
ゲームプログラミング教室　対象：中学生

有限要素法解析入門　対象：一般
組込み技術セミナー（実力養成コース）　対象：一般
500点を目指すTOEIC Listening対策　対象：一般
組込み×AWS開発講座　対象：一般
GEO×STEAM講習会①地盤の強度評価と地域環境　対象：一般
GEO×STEAM講習会②原位置の土壌評価・支持力の推定　対象：一般
電子工作ラボ「やってみようマイコンプログラミング」　対象：小3～中3
脳波信号処理プログラミングセミナー　対象：一般、小中学生

○香川大学との連携事業

香川大学と香川高等専門学校との間における相互単位互換に関する協定
香川大学創造工学部先端工学研究発表会への出展

活動状況　–グローバル化への対応–

○MOU締結校　13大学（大韓民国　東洋未来大学校，ベトナム社会主義共和国 ダナン工科大学，台湾　正修科技大学，大韓民国 ソウル大学工学部，マレーシア マラ工科大学，ニュージーランド クライストチャーチポリテク大学，フランス共和国 カーン大学，タイ王国 ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校，タイ王国 泰日工業大学，フランス共和国 トゥール大学，マレーシア　マレーシア科学大学，中華人民共和国 大連東軟信息学院，台湾 國立成功大学）

○協定校との活動実績の状況　（R04年度）

1．GETプログラム及び海外協定校への学生派遣及び受け入れによる研究促進、研究力の向上

□学生派遣　　MJIC2023(International Conference on Nanoscience, Nanotechnology and Nanoengineering 2023;マレーシア）3～4名予定

□オンライン交流　　國立成功大学と連携しAIとロボテックスに関するオンライン授業（受講学生：高専5名、國立成功大学25名）
2022年10月～2023年1月

□協定校訪問　　國立成功大学訪問
合同授業、キャンパス見学、国際会議（Workshop on Future Computing 2022)聴講
(参加学生4名、教員2名、校長訪問12/13～12/17)

2．海外のインターンシップ 派遣による職業観の醸成

□海外インターンシップ参加人数　　0名（令和3年度）　0名（令和2年度）　2名（令和元年度）　4名（平成30年度）
※令和2、3年度はコロナ感染症のため実施できなかった。 今後再開の準備中。

3．語学力アップのための海外語学演習

□ネイティブ教員によるオンライン英会話教室　全10回　22名　（令和3年度）

4．協定校とのシンポジウム共催

□ MJIC2023(International Conference on Nanoscience, Nanotechnology and Nanoengineering 2/24～26 2023 マレーシア）

5．高専機構主催国際学会、国際交流行事

□JSTS2022（Japan Seminar on Technology for Sustainability 2022）（鹿児島） 9/12～9/16　1名

□ISATE2022（International Symposium on Advances in Technology Education 2022）（シンガポール，オンライン） 9/20～9/23　2名

○国際寮　（R04年度）

□国際交流寄宿舎新営その他工事起工式2022/5/16、竣工予定　2023/3/20

□国際寮で先行する他高専への調査結果に基づく国際寮運営方針策定（入居資格，募集要項，ユニットリーダー，ダイバーシティー，レジリエンス）

□ハラール対応キッチン設置（国際寮一階中央），ジェンダーニュートラルレストルーム計画（国際寮一階西）

□国際交流専有ユニット（国際寮一階西の1ユニットを短期国際交流用に確保）

□津山高専との相互訪問（2022/7/11 校長・寮務主事・国際交流室長が津山高専国際寮訪問，11/23 津山高専寮務主事・役員寮生団が来訪）

活動状況　その他概要

○教育への取組み

・学生による授業評価を全科目に実施．教員へフィードバック
・FD/SD活動
・教育実践事例報告会の実施

○専攻科

・学位授与のための特例適用認定

○香川高等専門学校産業技術振興会との連携事業

・会員企業との共同研究に対する研究費の補助
・シーズ発表会の開催
・合同会社説明会の開催

○香川銀行との連携事業

・本校主催業界説明会への参加企業の募集
・インターンシップの受入及び受入企業紹介
・KNBCニュース(月刊)への教員研究シーズの掲載

○かがわ産業支援財団との連携事業

・「新かがわ中小企業応援ファンド等事業高度産業人材育成事業」の実施
・企業見学及び企業説明会企業先の斡旋
・「知財マッチングin かがわ」への出展協力

○香川高専人財バンク

・同窓会との連携，卒業生の技術・技能を活用した母校の存在感を高めるための地域貢献

研究活動等(参考資料)

現況

香川高専

○科学研究費助成事業

【R4年度】

開発途上国における水・廃棄物問題改善のための包括的都市衛生政策の構築	平成29年～令和4年
ベトナムの農業水利施設へのストックマネジメント導入の可能性について	平成30年～令和4年
Web授業受講者を評価するアフェクティブモニタシステムの開発	平成30年～令和4年
スモールデータ機械学習理論に基づく音響拡張現実感及び音コミュニケーション能力拡張	平成31年～令和4年
水素ラジカルによるポリマー材料の分解・除去における酸素微量添加効果の解明	平成31年～令和4年
希少淡水魚アユモドキの水田水域への産卵遡上に適する魚道構造の研究	平成31年～令和4年
一人で操作できる文楽ロボットの開発	平成31年～令和4年
生物・凝集処理を同時に行う染料廃水の省エネ・ゼロエミッション型廃水処理装置の開発	平成31年～令和4年
ソフトウェア開発データ特有の欠損メカニズム特定に関する研究	平成31年～令和5年
豪雨および地震に対する老朽化した土構造物の高耐久化補強技術の開発	令和2年～令和4年
高生産性と安全性を両立したフレキシブル生産システムのための人協働ロボットの開発	令和2年～令和4年
中小都市における検索履歴データを用いた動学的バス需要予測手法の開発	令和2年～令和4年
戦時言論統制下における小説表現の創出についての研究―太宰治を中心に―	令和2年～令和4年
浅海域の貧栄養化解消を目的とした海底耕耘の定量的効果検証	令和2年～令和5年
CIMと交通事故特性からみた子どものモビリティのあり方の検討	令和2年～令和5年
けい酸塩系表面含浸材の汎用的利用に向けた実験的検討	令和2年～令和5年
超小型衛星の学士課程教育への適用とその評価法開発に関する包括的研究	令和2年～令和5年
表現のモジュライとその周辺（４）	令和2年～令和5年
熱に不安定なCo化合物の緻密化を可能にするHHP焼結技術の確立と熱電材料への応用	令和2年～令和5年
モンジュ・アンペール方程式の概複素幾何への一般化と新たな応用可能性の開拓	令和3年～令和4年
鉗子把持状態の“良悪”を識別する生体適合型構造色式センサの開発	令和3年～令和4年
遡上津波波圧による沿岸域構造物群の破壊過程に関する研究	令和3年～令和5年
Blockchainと分散学習による群ロボットの高信頼型協調動作に関する研究	令和3年～令和5年
自律走行車いすをより自由に制御できるBMI操作画面に関する研究	令和3年～令和5年
大規模なテンソル和の任意の特異値計算	令和3年～令和5年
漢文資料を通じて見る『般若灯論』の成立と伝承－漢訳のテキスト校訂と再評価の試み－	令和3年～令和7年
皮膚に触れない付け爪型ウェアラブルセンサ：連続血圧計測を実現する基盤技術の構築	令和4年～令和6年
大気圧低温プラズマを用いたポリマーブレンド膜表面へのダブルラフネス構造の形成	令和4年～令和6年
熟練技能伝承を目的とした技能データの圧縮化とスマート加工システムへの応用	令和4年～令和6年
サケ・マス類が利用可能な可搬魚道システムの開発	令和4年～令和6年
過疎化・高齢化に対応した指定避難所のあり方評価	令和4年～令和6年
理科室で構築したナノテクプラットフォームで実現する半導体デバイスファウンドリ	令和4年～令和6年
有機半導体を用いた放射線方向検知センサの開発	令和4年～令和6年
気づきの機会を創出するインタビュー対話システムの研究	令和4年～令和6年
高専外国人留学生の適応実態調査及び修学サポート教育プログラム構築に関する実証研究	令和4年～令和6年
パルスアーク放電を用いたITO透明導電性基板のリサイクル方法に関する基礎研究	令和4年～令和6年
独立性と振幅位相モデルに基づく音源分離の数理的深化及びマルチモーダル補聴器開発	令和4年～令和7年
高校生から始める汎用衛星モデルによる実践的衛星開発カリキュラム実現に向けた研究	令和4年～令和7年
分子動力学による多体量子トンネル現象と天体核融合反応への新しいアプローチ	令和4年～令和7年
ペア風車とトリオ風車の相互作用を活用した小形垂直軸風車クラスターの最適配置の探求	令和4年～令和7年
天体での核融合反応率の微視的原子核模型による評価	令和4年～令和7年
工学系数学のデータ駆動型教育によるディープ・アクティブラーニング型授業設計の開発	令和4年～令和8年
ESP32マイコンを用いた学習進捗確認システムの開発	令和4年

受入総額　50,036,000円

○受託研究

三豊市・香川高等専門学校連携事業	令和4年4月
サケ・カラフトマスの移動環境構築を目的とした可搬魚道の設置試験	令和4年5月
通信困難地域でのLTE-Mを使用した通信検証	令和4年8月

受入総額　2,129,400円

22

研究活動等(参考資料)

香川高専

○共同研究

堆積岩の特性と地層内バイオメタン生産技術開発に関する研究	平成30年7月
高機能鉛蓄電池の開発	令和1年9月
被覆配線など廃プラスティックの処理技術の開発	令和2年4月
大気圧プラズマによる微細構造の形成と撥油・撥水効果の検討	令和2年5月
サイバーセキュリティ対策のための研究開発及び情報共有	令和3年4月
サイフォン式小規模ため池の利水・減災(水位低下)簡易装置の開発	令和3年8月
NLB(New Lead Battery)の開発	令和3年10月
NLB(New Lead Battery)に適用したシステムの開発	令和3年10月
ゼオライトを用いた多自然型コンクリートブロックの研究	令和3年10月
AIを用いた各種センサの高精度化に関する研究	令和3年11月
深層学習を活用した画像処理技術に関する研究	令和3年12月
フッ素処理技術に関する研究	令和3年12月
地域共創型スマートな移動手段（スマートモビリティ）への転換に関する研究	令和4年3月
ＦＢＧのセンサ応用に関する研究	令和4年4月
実空間演奏信号に適用可能な混合音解析・分解技術	令和4年4月
センサシステムを用いた生体信号取得技術に関する研究	令和4年4月
920MHz帯RFIDアンテナの開発	令和4年4月
可動部用ケーブルの導体・シールド寿命予測の研究	令和4年5月
火力発電所における画像分類アルゴリズムによる異常検知に関する研究	令和4年5月
無線式モニタリングシステムに関する研究	令和4年6月
廃水溶性加工油のDHS法を用いたメタン発酵実験	令和4年7月
AIを用いたバスケットボールのシュートフォーム改善のシステム構築	令和4年7月
ため池の損傷による下流域への影響評価のために必要な条件の適性に関する研究	令和4年7月
AIカメラを使った高齢者の状態検出とアバター表示に関する研究	令和4年7月
子どもの移動自由性を評価するための数理統計モデルの開発	令和4年7月
便覧準拠型と改良型によるPcaボラード基礎の衝撃力緩和性能に関する研究	令和4年7月
漏洩磁束法に関する研究	令和4年7月
AIを使用したアナログデータの数値化	令和4年11月
被覆配線など廃プラスチックの処理技術の開発	令和4年12月

受入総額　4,961,000円

23

○その他競争的資金・助成金　【R4年度】

皮膚に触れないウェアラブルセンサ　爪の微小ひずみに基づく新たな生体計測原理に適したセンサ素子の確立	令和2年11月
最寄り鉄道駅までのアクセス性を考慮した鉄道利用実態に関する基礎的研究	令和2年11月
ため池堤防に近接した戸建て住宅のAI防災対策の可視化	令和2年11月
落差構造物に適用可能なポータブル魚道システムの開発	令和3年3月
H2/O2混合ガスを用いた環境に優しいポリマー分解技術のケミカルリサイクルへの応用	令和3年11月
任意の角度に設置可能なコンクリート表面吸水試験の実用化	令和3年12月
ポータブル魚道による希少淡水魚アユモドキの遡上環境構築	令和4年4月
施設園芸における高収益栽培体系を実現するための技術開発	令和4年4月
衝突力を受ける車止めPca基礎の動的特性に関する研究	令和4年4月
機械学習を用いた漏洩磁束法によるコンクリート中の鋼材破断検知手法の開発	令和4年6月
遠隔勤務者のストレス高精度早期検出のためのマルチモーダル感情推定技術の開発	令和4年10月
AIを用いたフレイル検出の調査研究	令和4年11月
PWMインバータの制御遅れを考慮した離散状態フィードバックに基づくACサーボシステムの広帯域化	令和4年12月

受入総額　15,235,235円

令和4年度　香川高等専門学校自己点検評価

分析結果:
5 特に優れている　4 優れている　3 水準に達している　2 改善の余地がある　1 改善を要する

評価項目	評価基準	観　　点	分析	現状
1　教育の内部質保証システム	1－1　教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第１項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。	1－1－①　教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。	3	学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めている。実施体制に点検評価委員会を整備し、自己点検評価委員会規程に基づき、自己点検評価実施要項に評価基準を設定している。
		1－1－②　内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	2	根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積している。 点検評価はHPにて公表しているが、3から4年ごとには実施できていない。
		1－1－③　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	3	自己点検・評価の実施に際して、学校の構成員及び学外関係者の意見を反映するようになっている。在学生と卒業性（修了生）からの意見聴取及び外部有識者の検証を踏まえている。
		1－1－④　自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。	3	自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されている。前回の機関別認証評価において「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしている。自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っている。
	1－2　準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。	1－2－①　準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	3	ガイドライン等を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを学科ごとに定めている。「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的と整合性を有している。学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力並びに養成しようとする人材像との内容を明確に示している。
		1－2－②　準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	3	ガイドライン等を踏まえ、カリキュラム・ポリシーを学科ごとに定めている。ディプロマ・ポリシーとの整合性を有している。カリキュラム・ポリシーは、教育課程の編成、教育内容・方法の実施学習成果の評価の内容を示している。
		1－2－③　準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	3	ガイドライン等を踏まえ、アドミッション・ポリシーを準学士課程全体として定めている。学校の目的や学科の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて策定している。アドミッション・「入学者選抜の基本方針」「求める学生像」を明示し、受け入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれている。
		1－2－④　専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	3	ガイドライン等を踏まえ　専攻・コースごとにディプロマ・ポリシーを定めている。「何ができるようになるか」に力点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的と整合性を有している。ディプロマ・ポリシーの中で学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示している。
		1－2－⑤　専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	3	ガイドライン等を踏まえ、専攻・コースごとにカリキュラム・ポリシーを定めている。カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの整合性を有している。カリキュラム・ポリシーは、教育課程の編成、教育内容・方法の実施学習成果の評価の内容を示している。
		1－2－⑥　専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	3	ガイドライン等を踏まえ、アドミッション・ポリシーを定めている。アドミッション・ポリシーは、学校の目的や専攻科課程の目的ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて策定している。アドミッション・ポリシーには、「入学者選抜の基本方針」を明示している。アドミッション・ポリシーには、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示している。受け入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれている。
	1－3　学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	1－3－①　学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	2	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっており、点検し、改定している。

2　教育組織及び教員・教育支援者等	２－１　学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。	２－１－①　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	3	学科の構成が学校の目的及び卒業の認定に関する方針（学科ごとのディプロマ・ポリシー）と整合性がとれている。
		２－１－②　専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	3	専攻の構成が学校の目的及び修了の認定に関する方針（専攻ごとのディプロマ・ポリシー）と整合性がとれている。
		２－１－③　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。	3	教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しており、必要な活動を行っている。
	２－２　教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	２－２－①　学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	3	一般科目担当の専任教員、専門科目担当の専任教員、専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保している。適切な専門分野の教員が授業科目を担当している。適切な教員配置について専門分野以外に、博士の学位、ネイティブスピーカー、技術資格、実務経験、海外経験を配慮している。
		２－２－②　学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。	3	専攻科の授業科目担当教員を適切に確保している。 適切な専門分野の教員が授業科目を担当している。 適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当している。
		２－２－③　学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。	3	教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう、教育経歴、実務経験、男女比などを配慮している。在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために、任期制、教員表彰制度を導入し、校長裁量経費等の予算配分や他の機関等との人事交流措置している。
	２－３　全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。	２－３－①　全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。	3	全教員（非常勤教員を除く。）に対して校長、副校長による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分への反映の見直し等の適切な取組を行う体制を整備している。その評価結果を基に、給与における措置、研究費配分における措置、表彰を行っている。非常勤教員に対しても教員評価を実施している。
		２－３－②　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。	3	教員（非常勤教員を除く。）の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めており、教育上の能力等を模擬授業の実施、教育歴と実務経験と海外経験と国際的な活動実績などを確認する仕組みにとなっている。 その基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行っている。 非常勤教員の選考基準等を定めている。
	２－４　教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	２－４－①　授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。	3	学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにFDを実施する体制を整備しており、定期的に実施している。そのFDを実施した結果が、改善に結びついている。
		２－４－②　学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	3	教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員等。）を法令に従い適切に配置している。 図書館に司書等の専門的職員を法令に従い適切に配置している。
		２－４－③　教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	3	教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員等。）に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っている。
	３－１　学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。 また、ＩＣＴ環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必	３－１－①　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	3	校地面積・校舎面積を法令に従い適切に確保している。 運動場を設けている。 高松キャンパスには実習工場を整備している。 教育研究環境の充実を図るため、厚生施設を設けている。
		３－１－②　教育内容、方法や学生のニーズに対応したＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	3	ICT環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しており、有効に活用している。 サイバーセキュリティ管理規程、サイバーセキュリティ推進規程、サイバーセキュリティ教職員規程、情報セキュリティ利用者規程等整備されている。

	要な資料が系統的に収集、整理されていること。	３－１－③　図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	3	両キャンパス図書館の設備を備え、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上の必要な書類を系統的に収集・整理している。資料は有効的に活用されている。有効に活用されるための取り組みとしてブックハンティング、図書館便りの発行、長期休業中の長期貸し出しを行っている。
３　学習環境及び学生支援等	３－２　教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	３－２－①　履修等に関するガイダンスを実施しているか。	3	教育を実施する上でのガイダンスを実施している。
		３－２－②　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	3	学生の自主的学習を進める上で、担任制・指導教員制、外国への留学に関する支援体制、修学サポート室を整備している。
		３－２－③　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。	3	留学生や障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備し、必要に応じて支援を行っている。修学サポート室を整備している。
		３－２－④　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	3	学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制が整備されている。学生相談室を設置し、相談員やカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置している。ハラスメント等の相談体制、いじめ防止・早期発見・対処等の体制も整備されている。奨学金や授業料免除、緊急時の貸与等の制度も整備されている。指導・相談・助言等の活動が実際に学生に利用されている。健康診断及び健康相談・保健指導を定期的に実施している。
		３－２－⑤　就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。	3	キャリア教育支援の中で企業説明会，就職活動支援、インターンシップはキャリアサポートセンターを整備し，キャリアサポートセンター委員会で運営方針を決定している。講演会・保護者懇談会・インターンシップや資格取得の単位認定などは教務委員会が主管となり、担任等が協力して実施している。
		３－２－⑥　学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	3	学生の課外活動に対する支援体制を整備し、責任の所在が明確になっている。支援体制は機能している。
		３－２－⑦　学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	3	両キャンパスに学生寮を整備している。浴室、食堂、補食室、洗濯場など、生活に必要な施設・設備を備えている。 国際寮が令和4年度に竣工し、令和5年度から開寮する。
４　財務基盤及び管理運営	４－１　学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	４－１－①　学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	3	過去5年間の貸借対照表等による財務状況は適切な状況となっている。校地・校舎等の資産を保有している。過去5年間におびて運営費交付金、授業料収入、入学料、授業料等の経常的な収入を確保している。過去5年間の収支状況において支出超過となっていない。
		４－１－②　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	3	収支に係る方針、計画等を企画運営会議で審議し策定している。関係者（教職員）に明示されている。
		４－１－③　学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	3	学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っている。高専機構の当初予算配分（通知）を受け、予算計画・予算配分方針（案）及び学内当初予算配分（案）を策定し、策定された案を企画運営会議で審議し、承認を得た後に予算配分通知により学内に周知しており、資源配分は収支に係る方針、計画と整合性がある。
		４－１－④　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	3	高専機構が財務諸表等の公表を行っている。独立行政法人国立高等専門学校機構内部監査規則、高専相互会計内部監査を適正に行っている。
		４－２－①　管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	3	管理運営体制として企画運営会議規程を整備している。内部組織規則を整備し、委員会等の体制を整備している。校長、主事等の役割分担が明確になっている。事務組織等に関する規程を整備している。校務分担表を作成し、教員と事務職員等とが適切な役割分担の下、必要な連携体制を確保している。体制の下、効果的な活動を行っている。

3

	４－２　学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	４－２－②　危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	3	危機管理規則を制定し、危機管理体制を整備している。また、危機管理マニュアルを整備し、危機に備えている。 防災訓練を行い、危機に備えた活動も行っている。
		４－２－③　外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	3	国立高等専門学校機構における公的研究費等の取扱いに関する規則、公的研究費等の適正な運営・管理について整備されている。
		４－２－④　外部の教育資源を積極的に活用しているか。	3	香川高専人財バンクを整備し、卒業生等の登録者が香川高専の人材育成の支援、地元企業の技術相談、香川高専地域人材開発本部の活動支援を行っている。
		４－２－⑤　管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。	3	全教職員対象に、毎年夏FD・SD研修会を実施している。「現代学生の理解と関わり方」「公費不正防止に関するコンプライアンス」などの研修を行った。
	４－３　学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	４－３－①　学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第172条の２に規定される事項を含む。）が公表されているか。	3	学校の使命・教育目的、組織、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は終了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況、校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境など教育情報を法令に従い、ホームページや学校要覧にて適切に公表している。
５　準学士課程の教育課程・教育方法	５－１　準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	５－１－①　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	3	カリキュラムポリシーが学科ごとにある。進級に関する規程を整備している。1年間の授業を行う期間を定期試験期間等の期間を含め、35週確保している。特別活動を90単位以上実施している。
		５－１－②　教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。	3	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮として、インターンシップによる単位認定、最先端の技術に関する教育を行っている。
		５－１－③　創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	3	創造力・実践力を育む教育方法の工夫を行っている。
	５－２　準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	５－２－①　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	3	カリキュラムポリシーが学科ごとにある。授業形態のバランスが適切であり、教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされている。
		５－２－②　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	2	カリキュラムポリシーが学科ごとにある。教員及び学生のシラバスの活用状況について把握する仕組みを作る必要がある。設置基準第17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しており、1単位時間50分で規定、45分で運用している。1単位の履修時間は授業時間以外の学修等と合わせて45時間であることを明示している。
	５－３　準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	５－３－①　成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	3	成績評価や単位認定に関する基準を、学科ごとのカリキュラムポリシーに基づき策定している。基準に基づき、各授業科目の認定を行っている。1単位の履修時間が授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握している。成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知してる。定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）も成績評価に加えている。成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会がある。成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置として答案を返却している。
		５－３－②　卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。	3	学則で修業年限を5年と定めている。卒業認定に関するディプロマ・ポリシーに基づき、卒業認定基準を定めており、卒業認定している。卒業認定基準を学生に周知している。

6　準学士課程の学生の受入れ	6－1　入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。	6－1－①　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	3	入学者選抜検査実施要領に基づき、推薦選抜・学力選抜ごとにアドミッション・ポリシーを反映した選抜を行っている。 準学士課程1年次への入学者選抜は、推薦と学力による選抜を実施している。 〈推薦による選抜〉 中学校長から提出された推薦書、調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合して選抜を行っている。 アドミッション・ポリシーについては、受検者の志望学科における面接においてアドミッション・ポリシーに関する各々の項目について口頭質問を行い評価している。また、中学校の学級担任等が評価、中学校長が確認したアドミッション・ポリシー確認票の提出を求めており、その内容を確認している。 〈学力による選抜〉 学力検査と、中学校長から提出された書類を総合して選抜を行っている。学力検査は、国立高等専門学校機構が作成する全国統一の試験問題により、国語、社会、数学、理科及び英語の5教科で実施している。アドミッション・ポリシーについては、本校が掲げるアドミッション・ポリシーに沿った中学生を受け入れるために、中学校の学級担任等が評価、中学校長が確認したアドミッション・ポリシー確認票の提出を求め、その内容を確認している。準学士課程4年次への編入学者選抜は、学力による選抜のみ実施している。学力検査の成績及び面接の結果を総合して合否を決定している。アドミッション・ポリシーについては、受検者の志望学科における面接で、アドミッション・ポリシーに関する各々の項目について口頭質問を行い、評価している。
		6－1－②　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	3	アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているか検証したり、検証結果を改善に役立てるための全学的な組織として、入学試験委員会を設置し、高松、詫間両キャンパスには入学試験小委員会を設置している。これらは入学者選抜に関することや入学者選抜の実施、そのた必要な事項に関して協議すること主目的として、情報収集及び改善を行っている。 準学士課程では入学直後に行う基礎学力試験等、進級学生・原級学生等の動向調査、出身中学校別の成績分布による追跡調査、入学選抜における成績と入学後の成績の追跡調査により、専攻科課程では退学者数と学位取得者数の追跡調査により、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入について検証を行っている。毎年、新入学生には入学後に、中学校における基礎学力を調査するため数学・英語に関して実力試験を行い入学者の学力の把握に努めている。また、毎年度の進級・原級・退学の状況を調査し、概ねアドミッション・ポリシーに適合する学生が入学していると考えられる。また、推薦基準や選抜方法による効果を検討するため、入学者の出身中学校別の成績分布を作成し、入学後の成績について追跡調査を実施している。毎年度末に、入学者獲得対策委員会において調査結果を基に、次年度の入学者選抜の改善について検討している。
		6－1－③　実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	3	学生定員を学科ごとに1学級当たり40人を標準として、学則で定めている。 学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備している。 過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正である。
		7－1－①　成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	3	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備していない。 学生の卒業認定の状況ならびに各学年における進級・原級・退学の状況から、各学年と卒業時において学生が身に付ける学力や資質・能力の達成状況を評価している。各種資格取得状況について、技術者資格、TOEIC、検定試験などの外部試験で好成績を修めており、教育の成果や効果が認められる。 準学士課程の卒業研究では、発表会での口頭発表と研究論文の作成を課している。 英語力について、高松キャンパスでは専攻科1年生に TOEIC IP、本科3年生にTOEIC Bridge、詫間キャンパスでは専攻科1年生と本科4年生に TOEIC IP、本科3年生に GTEC の受験を義務づけており、近年の GTEC、TOEIC IP においてスコアの向上が見られる。 学生の進級・卒業・修了の割合、資格取得状況、研究成果発表と表彰の実績、TOEIC IP テスト等による英語力評価などから、各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が認められる。

７　準学士課程の学習・教育の成果	７－１　卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。	７－１－②　達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	3	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備していない。 学生が卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況を把握するため、「学習達成度の自己点検に関するアンケート」を、卒業時に5段階評定により実施している。その分析結果から、準学士課程の7学科全てにおいて、卒業時に身につけるべき学力や資質・能力に対する各項目の評価は、全ての項目においてほぼ3以上の数値を示している。 学生が在学時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成状況について、主な就職先企業へのアンケートを実施することにより確認している。調査結果から、科学技術の基礎知識と応用力（知識）や課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）について、本科卒業生の約 50%の者が十分、ほぼ十分であると回答している。また、本校における専門技術に関する教育について、大部分の者が高い評価をしている。 就職先企業が卒業生（修了生）に求めるレベルに対して、約8割の企業から高い評価を得ている。以上のことから、卒業生や進路先関係者から、卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しており、また、その結果から判断して、教育の成果はおおむね上がっている。近年、数学の基礎学力が不足している学生が入学していること、低学年での原級者等が減少しないことに鑑み、平成27年度に新たな検証として、学力選抜で入学した学生について、進級した学生と原級・退学した学生に対し学力試験の成績と内申点についてそれぞれの平均点の差の有意性を調査した。
		７－１－③　就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	3	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められる。 学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっている。 卒業生、修了生の企業での配属先は、各専門学科で修得した技術が生かせるよう、製造・生産部門が35%と最も多く、次いで設備の維持管理、設計、研究開発となっている。 準学士課程における過去5年間の進路状況は、進学と就職は、ほぼ同率の50%、就職率は、ほぼ100%を達成している。専攻科の就職率についても、準学士課程と同様、ほぼ100%を達成している。 就職先は、製造業、エンジニアリング関連企業及び公務員などの工学系に分類され、進学においても、多くの卒業生が国立大学の工学系へ進学している。

8　専攻科課程の教育活動の状況	8－1　専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	8－1－①　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	3	カリキュラム・ポリシーに基づき、授業科目を適切に配置し、教育課程を体系的に編成している。
		8－1－②　準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。	3	準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっている。
		8－1－③　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	3	カリキュラム・ポリシーに基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態を採用している。それぞれの教育内容に応じて、教材の工夫、少人数教育、フィールド型授業、情報機器の活用等学習指導上の工夫をしている。
		8－1－④　教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	3	学生への教養教育や研究指導を、適切に行っている。
		8－1－⑤　成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	3	成績評価や単位認定に関する基準を、カリキュラム・ポリシーに基づき策定し、単位認定を行っている。1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置し、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として授業評価アンケートにより把握している。 学生には成績評価や単位認定に関する基準を学生便覧に記載、配布等により周知している。学生の認知状況を学校としては把握していない。 定期試験以外の試験（追試、再試、追認試験等）の成績評価方法を定めている。 定期試験ごとに評価に対する学生からの申し立てができるように答案返却期間を設けている。 また、成績評価の客観性・厳格性を担保するため、答案の返却、複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック、試験問題のレベルが適切であることのチェック等、組織的に行っている。
		8－1－⑥　修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	3	学則に修業年限2年と定め、ディプロマポリシーに基づき修了認定基準を定め、修了認定している。学生へは修了認定基準を学生便覧等の配布により周知している。
	8－2　専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。	8－2－①　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	3	アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等）となっている。
		8－2－②　入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	3	アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れられているかの検証及び検証結果を改善に役立てる体制として専攻科委員会が組織され、専攻科委員会規程が整備されている。検証が行われ、改善に役立てている。
		8－2－③　実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	3	学生定員を専攻科毎に学則で定め、専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備している。
	8－3　修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。	8－3－①　成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	3	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備している。（修了認定会議、ポートフォリオ）学習・教育・研究の成果を把握・評価している。
		8－3－②　達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	2	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備している。修了時、修了生に対するアンケートにより、学習・教育・研究の成果の把握・評価を行う予定である。
		8－3－③　就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	3	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められる。学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっている。

		８－３－④　修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	3	過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められる。
９　正規課程の学生以外に対する教育サービスに関する事項	９－１　高等専門学校の目的に照らして，正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ，成果を上げていること。 （一般市民を対象とした公開講座） （地域小中高生へのSTEAM教育） （学外行事・催物への支援を通した地域社会への貢献）	９－１－①　本校が主体的に行う教育サービスとして、専門技術講座、一般教養講座などの公開講座の開講を通して、地域住民に生涯学習も含めて学習の機会を提供しているか。	4	専門技術講座、一般教養講座などの公開講座を計画的に開講している。募集はホームページお知らせで行い、実施後ホームページTOPICSに掲載している。また、公開講座実施後はアンケートをとり、意見を反映している。受講者の満足度は、ほぼ100%の評価である。 科目等履修生規程を定め、学習機会が提供している。 図書館は本校以外の者も利用できる。
		９－１－②　小中高校への出前授業や地域の行事・催物における科学技術体験教室を通して、科学技術の本質や科学の発展に従事する研究者・技術者の姿に触れる機会を与え、我が国の時代を担う次世代の育成を図っているか。	4	県内小学校からの依頼により出前授業を実施している。 高松市との連携事業により科学体験教室を開講している。令和3年度は9回、令和4年度は19回実施を計画しており、今後も継続予定である。 三豊市少年少女発明クラブや小中学生向け高専公開講座と両キャンパスそれぞれ開講し、小中学生を対象として次世代の育成を図っている。
		９－１－③　地域産業界等、学外からの依頼に応じ、行事・催物に参加し、理工系分野の啓蒙活動を図るとともに地域社会への貢献を果たしているか。	4	地域支援団体、自治体等から依頼を受け、学生が中心となって子供向け催事への協力を行っている。 AI社会実装教育研究本部を設置し、サマースクールなどAI人材育成教育を行っている。 社会基盤メンテナンス教育センターを設置し、人材育成講座を開講している。 香川高専ホームページにて公開講座・出前講座の募集や報告を行っている。適宜プレスリリースを発信し社会への情報提供を行っている。
１０　国際交流に関する事項	１０－１　国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され，機能していること。	１０－１－①　国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され、機能しているか。	3	タイにおける「KOSEN」の導入支援として、専門学科教員１名を令和3年度より派遣している。 高専機構タイ高専教員派遣要請に応え２名を推薦した。 高松キャンパスでは令和5年4月に70名定員の国際寮が竣工し、海外からの留学生受け入れ体制の整備を行った。 海外渡航する学生には海外旅行保険に加入するよう指導している。「海外渡航届」を新型コロナウィルス対応の様式に改定した。 ISATE2022にて教員の研究発表（2名）を行った。 台湾國立成功大学と合同授業を行い、12/13～17の間大学を学生4名、教員3名で訪問し合同授業や国際会議を聴講した。 JASSO派遣ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの申請を行い、年度末のUiTMとの国際ワークショップにてJASSOの学生派遣の支援を行う。 国際学会の教員の参加・発表（5名（オンライン2名含む））や、11/1以降の海外渡航の条件の緩和により、教員および学生の国際学会、セミナーの参加は予定されている。 英語版学校要覧を作成し協定校に配布した。国際交流室のTOPICS記事の英語版を作成しホームページに掲載している。 １年次からの留学生の受け入れについては検討を継続している。 国際交流を推進するための実施・支援体制が整備され、機能している。
	１０－２　国際交流活動を適切に実施し，成果が上げられていること。	１０－２－①　国際交流活動を適切に実施し、成果が上げられているか。	3	協定校との単位互換制度の検討は継続している。 本校の方針は、感染症危険情報レベル１以上の国・地域への渡航不可であったが１１月１日より、感染症危険情報レベル1、危険情報レベル1については、十分に注意を行うことで派遣が可能になったため、年度末に開催するUiTMとの国際ワークショップへの学生派遣の準備中である。 「アクティビティ研修」や研究レベルの研修を行う「グローバルエンジニア研修プログラム」等の研修プログラムについて、国際交流室が中心となって企画、実施等行っている。 台湾國立成功大学と連携し、10月よりAIとロボティクスに関するオンライン授業を実施している。受講学生数は、香川高専5名、国立成功大学25名。 本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育を行っている。 英語ネイティブ教員による英会話教室を春休みに実施予定である。 Teamsにて国際交流室関係の報告会、募集周知などがいつでも閲覧できるように整備した。 新型コロナウィルスのため停滞ししていたが、可能な範囲で国際交流活動を適切に実施し、成果が上げている。

令和４年度香川高等専門学校外部評価委員会　委員発言要旨】

議題１．香川高等専門学校を取り巻く現状と活動

○委員長　　只今の説明につきまして、ご質問ご意見等ございましたらご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

○委員　　活動の中で、今後行政もそうなのですが、一般社会の中でデータサイエンティストの養成が必要となると思います。この部分を担っていただけるのが高専生だと感じております。データサイエンティストというのは、基本的にプログラミングの世界だけではなく、例えば、建築や工学の根本にもなるため、おそらく、今後急激に需要が広がっていくと思います。市の行政としても、データサイエンティストは必要だと感じているため、今後一緒にやっていけたらと思っております。

もう一点、スタートアップも重要なのですが、地元の企業から人材が足りなくても困っているという話を聞きます。地元に通う学生が、地元の企業の業務内容を知らないため、例えば、インターンシップを長めにしていただくとか共同研究を行うといった活動をしていただきたいです。

最後に、マスコミ等をうまく使って、発信力を上げていただきたいと感じておりますので、ご検討願います。

○[redacted]校長　　貴重な意見をありがとうございます。データサイエンティストの件は、非常に大切であると本校も思っております。基礎的な素養につきましては、全学生に習得してほしいため必修科目により学習プログラムを組んでおります。その先のレベルになりますと、従来の基盤技術に興味を持つ者、新しいデジタルに興味を持つ者等分かれてくると思いますので、今後どのようなオプションとして学生に選択肢を提供できるのかということについて、検討していかなければと思っております。

次に、産業界への人材供給についてですが、スタートアップは必ずしも独立して起業することだけではないと考えております。各企業で新しいプロジェクトを立ち上げる等ということもある意味でのスタートアップと同じようなプロセスではないかと思っております。そのプロジェクトに何が必要かを計画し、実施することは、自分自身がビジネスを起こすことと共通的することだと理解しております。このスタートアッププログラムは、産業界への人材育成にも貢献できるのではないかと思っているところであります。

それから、発信力につきましては、非常に耳の痛いところであります。本校にも広報を担当する部署がありますが、どうやって情報を発信していくかという戦略的な取り組みができていないのは大きな課題であると思っております。次年度には何かしらの検討、対応をしたいと思っております。

○委員　　普段仕事は、四国新聞でデジタル部門の現場責任者をしておりますので、広報について意見させていただきます。自分が母校だということで高専のニュースを注意していますが、やっている割にはリリースが少ないという印象を持っております。また、たまにリリースされても、マスコミ受けしない書き方だと感じております。

もう一点、昨年、オンライン企業説明の司会をし、１４０社ほどの企業説明を聞くことになったのですが、改めて聞きますと、自分の知らない会社も出てきますし、香川県内でもある分野に関してはシェアを持っている会社がたくさんあります。高専生は、昨今進学が多いですけれども、就職の学生もいると思います。この就職の学生に対する産学の連携は、改めて必要ではないかと

思いました。
再び広報の話に戻りますが、保護者向けのパンフレットといった広報戦略も必要と感じました。今日ちょうど中学校校長会会長も来られているということで、中学校の方でも中学生に対して高専がどういうところなのかというアナウンスが弱いという印象を持っております。入口戦略、出口戦略ともに広報を大事にしなければいけないということで、トータル香川県全体として香川県という土俵の中でどうやって今後の日本を背負っていくエンジニアを育てていくかということを、産学、経済界、オール香川で高専という土俵を使って盛り上げていく必要があると思っております。
ちなみにこの話、前回代理として数年前にこちらに来た際も全く同じ話をさせていただきましたが、あまり進んでないというふうに感じました。以上です。

[redacted]校長　　ありがとうございます。貴重な意見をいただきながら、活用できておらず申し訳ありません。広報については、それが誰に向けて何を知ってもらいたいのかということを示す必要があると感じております。技術分野と距離のある方々にその技術の重要性と役割、すばらしさを分かっていただくような、そのところで本校が何をしているのかということの観点を考えていかなければいけないところでございます。それをどうインプリメントするかは、次年度戦略的に考えたいと思っております。
県内には素晴らしい企業がたくさんあるということを、十分に認知できていないところがあり、学生はさらに認知できていない、知る機会が少ないというところを、先ほどスタートアップのキーワードでありましたように、産業界の方々から実社会の問題を頂戴して、それを通じて何を行うのかということを考えていく過程を、県内企業の素晴らしさに触れる機会として提供したいと考えております。
オール香川という言葉を頂戴いたしましたけれども、我々は香川の土地で高等教育機関として60 年を迎えさせていただきまして、[redacted]委員のように OB であり、今産業界でご活躍の方々とのパイプをもっと太くして、連携させていただきたいと考えております。今後とも、広報の目利きの部分につきましては、また個別でご指導いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

議題２．香川高等専門学校自己点検評価

○委員長　　只今の説明につきまして、ご質問ご意見等ございましたらご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

○委員　　この優れた点として挙げておられます、項目９番、８ページのところですが、特に少年少女発明クラブや、小中学生向けの公開講座について、今後、科学に興味をもって香川高専を目指す可能性のある子どもたちへのプログラムの提供は非常にすばらしいことだと思っております。香川産業支援財団でも発明協会の事務局をしており、こういう形で香川高専の講座などを受けられた子供たちが、発明くふう展などに応募くださっており、こういう活動を継続的に盛り上げていくことが、理系人材の掘り起こしや、学校の繁栄にもつながると思いますので、地道な活動ではございますが、ぜひ今後ともさらに力を入れていただきたいと思っております。

○[redacted]校長　　ありがとうございます。義務教育年齢の生徒さんたちに、理系の社会とのつながりを知っていただく機会がなかなかないため、我々高等教育機関ではございますが、大学よりも近い距離間で生徒さんたちに体験等してもらえる機会を大切にしたいと思っております。ただ、

担当教員各々は熱心に実施しておりますが、学校として組織的にどうやっていくのかというところは、工夫が必要だと感じております。参加いただいた方には非常に好評いただいているところですが、例えば、１つの教室に５０人集めることは難しく、実際に一緒にものづくりをするためには１０人程度が精一杯です。そうなったときに、その１０という数をどうやって次のステージに繋げるのかということについて、先ほどの広報にも関係してきますが、新しい観点も考えなければいけないのではないかと個人的には思っております。皆様のご指摘・ご期待に沿えるように努めていきたいと思います。

○委員　　基本的なことでお伺いしたいのですが、この評価項目・基準などは、何において定められているのでしょうか。

○[redacted]校長　　これは自己点検ですので、「認証評価」の項目だけを我々は満足すればいいという立場ではなく、他高専と違って本校はこういうところに力を入れている、特徴を持って活動しているという部分を追加しております。

○委員　　基本的に学校経営をしていく中でのプロセスを記載していると思いますが、本当に求めたいのは、例えば入試のときの倍率がある程度高いということであれば、地元の人が来たいというわけですし、出口という意味で言うと、前の会の時もオンラインでお話しましたけれど、地元企業にどれだけ就職していただけるのかということが私からすると大事な数値です。地元への就職率を把握されていますかと前にもお尋ねしましたが、それを高めていただくことが、地元経済界としては最も大事です。それをするたもの途中のプロセスがこれでよいのかという気がします。自由に項目を追加できるのであれば、そういう項目を設けてほしいというのが希望です。
　この項目を前提に考えたとして、一番気になったのが、上から２つ目の項目で、「公表されているか」というところで「３～４年ごとにはできています。」ということで２となっていますが、正直改善の余地があるレベルではなく、これは改善を要するべきではないでしょうか。これは、自己評価だからこういう評価になるのかなとおもったので、中身を自分で見ているだけで本当にいいのでしょうかというのが気になります。厳しい意見ですが、以上です。

○校長　　ありがとうございます。もちろん地元の産業界・経済界からは、地元との結びつきが一番のポイントになるということは、まことにご指摘のとおりだと思います。ただ、就職先につきましては、学校としては、地元の産業界・経済界の情報を学生側に提供することはできますが、決めることはできません。我々としては、地元の産業界・経済界の情報をいかに学生に触れてもらう機会を作るとことに努力をするということになるのかと思っております。結果論としての数値がすべてだとは十分理解できることではありますが、数値目標的な観点で活動することは非常に難しいことご容赦いただきたく存じます。ただ、先ほどもご指摘があったなかで、地域の方々と接する機会を増やすということが、とりもなおさずご期待に添える機会を増やしていく土壌になると思います。これまでも務めてきたつもりではありますが、それがなかなかご指摘のような数値となって見えてきていないということは、我々ももう少し考えないといけないとは思っています。
　また、上から２番目の項目が２という評価なのは甘すぎるのではないかという指摘につきましては、そうではありますが、ただ「公表している」が、なぜ２かと言いますと、公表していないわけではなく、頻度が低いため、２とつけたわけですけれども、改善を要することには間違いないです。これについては、今後情報の開示ということで、もっと活動していかないといけないと思っております。

○委員　　先ほどの質問にも関連してくるのですが、外部による客観的な評価があるのでしょうかというのが１つ、水準や比較対象の明確なものがあるのでしょうかというのが２つ目です。
以上、２点について、ご教授いたければと思います。

○[redacted]校長　　ありがとうございます。先ほどのご質問でもありましたように、学校としては国立の学校として受けるべき「認証評価」があります。これは必ず７年おきに受けるということが義務付けられています。ただ、すべての項目がこれと同じではないため、我々独自にやっている部分につきましては、本校はどういうレベルで活動したいのかということについて、それについて観点を抽象的な表現ではありますが設定しているところであります。企業でされているような数値目標を立てて、その数値を達成したかどうかという形にはなっておりませんが、他と比べて本校が特徴としてやりたいところを本校として設定しております。共通に満たさなければいけない箇所については、「認証評価」を行う外部機関の観点と、設置機関であります国立高等専門学校機構としての観点があります。十分な答えになっていないかもしれませんが、いったんこれで回答とさせていただきたいと思います。

○委員　　承知しました。ありがとうございます。

○委員長　　ありがとうございます。議題２につきましては、質疑応答は以上にしたいと思うのですが、この後、議題１・２含めてご質問、ご意見、ご指摘を含めてこの後意見交換に移りたいと思いますので、お気づきの点等ございましたら、忌憚のないご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

意見交換

○委員　　自己点検評価を見てみますと、ほとんど３となっていますが、４や５は付けにくいのでしょうか。

○[redacted]校長　　たぶん国立の学校、大学もそうだと思いますが、文科省が評価の大枠を作っておりますので、その中で標準に達しているというような言い方をしていますけれども、それを優れているとするためには、標準以上の大きなものがないといけないわけです。大学ですとＳ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄで評価されて、基本的にオールＢというのが普通のレベルの大学で、Ａをいくつ自分たちで付けてもＢになって戻ってくるというような格好で、Ｓというのはよっぽどのことがない限り付けない点になっていると理解しています。委員長、間違っていましたらご指摘ください。

○委員長　　おっしゃるとおりです。大学も同じような立場です。

○[redacted]校長　　そのため、先ほど申し上げましたように、認証評価のものをベースに、我々なりにアレンジしているということから、やはり基本、３：達成できている、かどうかということがベースの評価の付け方になっています。

○委員　　４がある分、２でバランスをとって、総合計が３でないといけないのですか。

○[redacted]校長　　そういうわけではないです。結果として今年度実施できていなかったということがあり、私たちにとって２があるということは大きな課題であります。

○委員　　こういう自己評定というのは実は我々金融機関も金融検査マニュアルというのが元々ありまして、情報プロセスに関する自己評定というものを同じような水準で、５段階でつけていました。今は金融検査マニュアルはなくなったのですが、継続的に自己評価ということで続けており、金融庁に検査が入るたびにこの評定を提出していたため、真ん中に寄るということがよく分かります。その後、金融庁に提出しなくなってからどういう状況になったかといいますと、バラつきがでて、２は２、５は５とそれぞれの意見が反映されるようになりました。ただ、外部に提出し、監督される立場にある方が見るのであれば、このようになると思うのですが、例えば、就学率が５０％で、就職先からの評価も良いという報告があったと思いますが、４に近いような表現をされていますが３となっている項目もあると思いますので、もう少しバラつかせ、できているものは４、逆にできていないものは２をつけたほうが良いと思いました。

○[redacted]校長　　ありがとうございます。先ほど申しましたように、多くの項目に「認証評価」に関わるところを含めておりますので、どうしてもこういった形になってしまっているというのは反省点かと思います。自己点検の中でも地域との関わり、国際化という点につきましては、力を入れたいというのがございます。その意味で、項目９のところは我々としても自負を持って４としているところでありますが、残念ながら、国際のところにつきましては、活動しづらい状況が続いております。指定されている項目はミニマムで行ったうえに、自分たちの特徴をどれだけ付けられるのかという観点での自己点検評価ということになっています。広報の部分で、何を売りにしていくのかということとの絡みを詰めていくことが今後必要なのではないかと、今ご指摘をいただきながら思った次第であります。

○委員長　　他いかがでしょうか。

○委員　　私が入学したのが 30 年以上前になるのですが、そのときは、非常に就職がいいという触れ込みで高専に来ました。ですが、今では、高専をどういった基準で選んでいるかといいますと、違っていたらご指摘いただきたいですけれども、普通科の進学校に行くよりも高専に行った方が理数系大学に比較的入りやすいということで、理数系大学への進学校的なポジショニングになっています。過去に目を向けましても、少子化時代で非常に公立高校も入学定員が厳しくなっており、県外から何%とろうとか、某私立高校でも専願が７割を超えています。高専も高専を選ぶという観点で言いますと、そういった競争の中でさらされているのだろうと思っております。

○[redacted]校長　　進学について、時代とともに変わってきていることは間違いありません。ご指摘いただいた、高専が理数系大学への進学という観点は、巷の受験産業的には表に出ているところであります。ただ、高専が社会から何を期待していただいているのかということとのバランスから考えますと、あまり真っ当ではないのではないかと思っております。ですけれども、そういう判断で来ていただく学生を排除するわけではありません。

倍率というのは、数字で表れてくる一番の疑問でございまして、香川県は中学生から高校生への進学にあたって、行きたいと言って手を挙げ、来てくださいと言われたら来てくださるというある種の文化が維持されているのではないかと思っております。その中で言いますと、一般的に言われる倍率というのは、なかなか維持しにくいところであります。1.5 倍になってきますと、どこまで実際に入っていただけるのかと考えたときには、なかなか難しいものがあります。高専機構本部は２倍を維持、と言っておりますが、倍率が高ければ良いというわけではないと思っております。しかしながら１倍をきるということはクリティカルな状況でございます。このデータは、第一希望の集計としております。例えば、機械工学科の倍率が低いところで位置していますけれ

ども、第二希望等で機械工学科に来ていただける方を含めますと、今のところ定員充足に支障がある状態にはなっていませんが、それで良しとするかはまた別問題です。やはり、入りたいと思って入った学科ですと、いろんなことがあっても、自分の希望どおりに来たというモチベーションがありますが、別の学科になった場合、何かつまづくと、行きたい学科に行けなかったからということで、どうしてもメンタルな影響が出てきてまいります。その辺を考えますと、第一志望で来ていただけるようにありたいのが事実です。こうしてみますと、特に高松キャンパスは、機械と機械電子と一般の方には区別がつきにくいところの２学科ございます。それに対して、電気情報というのは、情報というキーワードとの絡みもあるのかもしれませんが、安定して高いところで位置しています。詫間キャンパスは、情報工学科はそれなりに安定していたのですが、今回は数値を下げておりまして、これが何故なのかを考えなければいけません。ただ、先ほどのご質問にもありましたように、デジタル化の技術というのは、すべての職種で情報系の技術を要求されるようになってきています。幸いなことに、香川高専は、情報系の学科を持っておりますので、それと従来の基盤工学とをいかに連携させて学ぶ機会を学生に持ってもらうのかということに力を入れていかないと本校の特徴は出てこないです。従来の基盤というところの重要性は変わらないにせよ、新しい人たちは参入しづらいと思っておりますので、それをどうやって広報していくのかということを考える必要があると思っております。現在は、学科名だけで判断されていることが多いと思いますが、実際にやっていることを知ってもらえるような広報が必要であると感じております。

○委員長　　他いかがでしょうか。

○委員　　自己点検評価についてお聞きしたいのですが、５段階評価で評価されていますが、各項目の表現は決められたものなのでしょうか。例えば、２でしたら改善の余地があると書いてありますが、これは統一的に決められたものなのでしょうか。

○[redacted]校長　　この表記自体は、先ほども出てきております「認証評価」のところの評価がこういう評語になってございます。

○委員　　非常に評価しにくいなと感じております。例えば、改善の余地があるとなっていますが、３の水準に達していても余地はありますので、評価しにくい印象があります。例えば、２でしたら水準に達していないとか、１は水準から大幅に乖離しているとかですと評価しやすいというのが率直な感想です。

また、細かく項目を評価しておられますが、学校としての全体の評価みたいなものはあるのでしょうか。ほとんどが３で一部４と２という結果なのですが、全体として評価をどう捉えておりますでしょうか。言い換えると、学校としてどういったものを目指しているのか、例えば、すべてを３以上にして、４が何％くらいという目安はお持ちでしょうか。その辺をお聞きしたいと思いました。

○[redacted]校長　　ありがとうございます。評点の評語については、既存のものを使用していますので、[redacted]委員からご指摘いただきましたように、２がついているのはある意味で達していないと判断したため２としています。何を目指すのかといわれますと、こういう評語の世界で言いますと、少なくとも３以下は基本的にはあってはいけないものであります。そのうえで、本校の強みが見えるような形の評価ができるようになれば、それが自分たちのブランディングに繋がってくれるのではないかと考えているところでございます。

○委員長　　他いかがでしょうか。

○委員　　まずお礼ということで、香川高専から中学校へ学校説明会に来ていただき、本当にありがたく思っております。
今回素晴らしい活動内容があることを初めて知りました。中学校の現場の先生も教育学部の者がほとんどですので、こういう専門的なことをほとんど知りません。先ほど出前授業の報告がありましたが、チャンスがあれば中学生にも聞かせていただきたいなと感じました。
学校案内は中学生も見ると思いますが、子ども目線の言葉で書いていただければありがたいなと思いました。例えば、機械工学科はこんな人にオススメということが一番下に書いてありますが、こういった部分をクローズアップすると生徒が興味を持つと感じました。
それからもし可能でありましたら、教員も世代交代の時代ですので、中学校長会等で教員に向けて高専についてお伝えいただければといいのかなと思いました。
また、県内の中学生が県外へという動向も多少出てきているのですが、高専は県外から入ってくる学生はおられますでしょうか。ご教示願います。

○[redacted]校長　　非常に貴重なご意見ありがとうございました。ご指摘いただいたように、学校案内はたしかに誰が見ることを前提にしているのかを検討したいと思いました。
生徒さん、保護者にはそれなりの機会を頂戴して説明を行っておりますが、先生方への説明をさせていただくとなると、別にその時間を設定していただかないといけないというところもあり、実施できていないのが現状であります。その中で、校長会でそのような活動をされているとお伺いしましたので、ぜひ相談させてください。先生のおっしゃる言葉は重みがありますので、先生にご理解いただくのは非常に重要なことだと感じております。
かつて、高専は比較的県のボーダーが低かったのですが、最近どうも地元思考が強くなっており、県を超えるということが少なくなってきました。ですけれども、本校の場合、学科にもよりますけれども、県外から５～10%くらいであります。それができるのは、寮という制度を持っているからだと感じております。寮があるのは多くの高校と違うところでありますので、寮生活を通じて一緒に勉強をしながら一緒に生活するというところも高専の特徴として活用していきたいです。先ほど副校長から説明で国際寮という名前を紹介させていただきましたけれども、国際寮というのは、留学生用の寮という意味ではございません。今国際寮と呼ぶものは、留学生と日本人学生が一緒に住む混住型で、一個一個の部屋ではなく、いわゆるシェアハウス型で留学生と日本人学生が一緒に生活をするというスタイルを推進しようとした取り組みです。寮で生活をして高専で勉強していただくということは、高校にはないスタイルを経験していただける機会ですので、この辺につきましても、皆様に知っていただけるようこれからも努力していかなければいけないと思った次第であります。色々とありがとうございました。

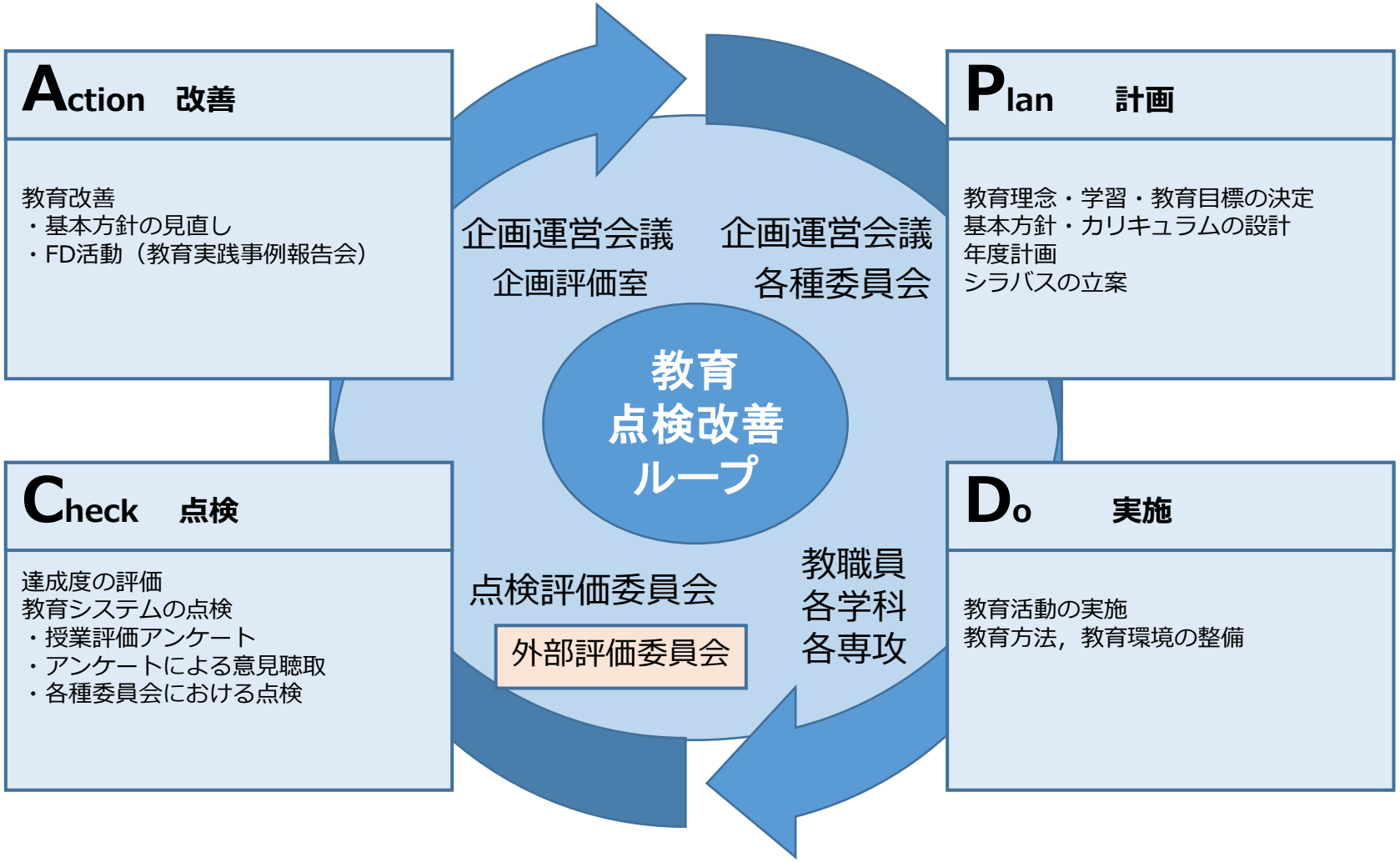
○委員長　　よろしいでしょうか。それでは委員の皆様からのご意見は出尽くしたようですので、以上を持ちまして終了させていただきます。ありがとうございました。

○[redacted]校長　　長時間に渡りまして、非常にたくさんのご意見をいただきありがとうございました。中には以前に既にお伝えいただいたことについて、ご指摘を再度うけることもあり、誠に申し訳なく思っております。各担当できちんとやっていくような形に改革していきたいと思っております。年に一度のこういう機会で、皆さんにお集りいただいておりますけれども、折に触れて個別にまた色々とご指導いただきにあがらせていただければと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

資料名　教育点検改善ループ（PDCAサイクル）

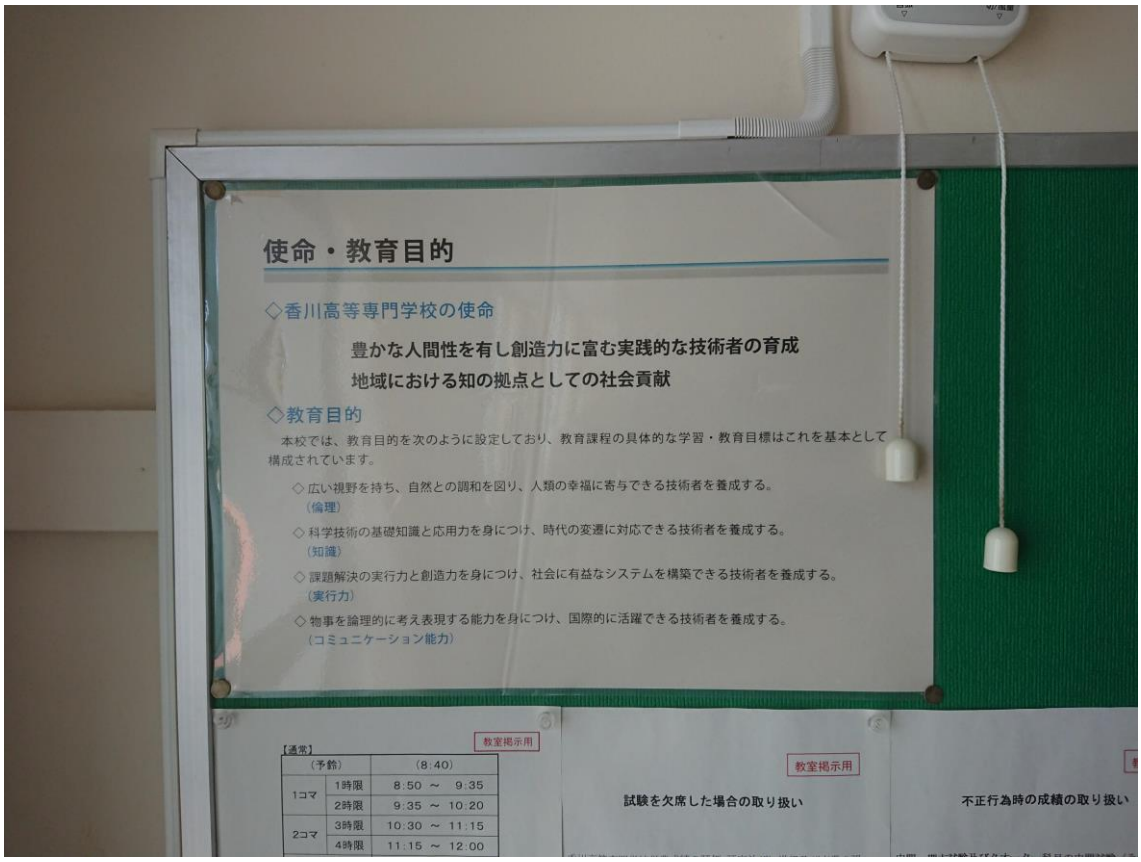
資料1-1-④-1

教育点検改善ループ



資料名　使命・教育目的の教室掲示

資料1-1-④-2



入学案内

アドミッション・ポリシー

■本科

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めています。

〈求める学生像〉

- 技術や科学に関心のある人
- 数学や理科への興味，勉学意欲のある人
- 自主性と協調性，積極性のある人
- 人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

■専攻科

本校専攻科では，次のような人を求めています。

〈求める学生像〉

創造工学専攻

1　倫理観と責任感を備え論理的思考力を身に付けた人
2　高度な技術と工学を学ぶために必要な基礎を修得した人
3　勉学・研究意欲が高く，自ら創意工夫して行動する人
4　英語を含めたコミュニケーション能力の基礎を身につけた人
5　さらに各コースでは，次のような人を求めています。
・機械工学コース
得意分野を有する機械技術者になる意欲があり，機械工学の基礎知識を持った人
・電気情報工学コース
電気電子情報分野の幅広い専門知識とともに課題発見・解決能力を修得する意欲を持った人
・機械電子工学コース
「モノづくり」を担う実践的技術者になる意欲があり，機械・電子工学の基礎知識を持った人
・建設環境工学コース
土木技術者になる意欲があり，土木工学の基礎知識を持った人

電子情報通信工学専攻

1　技術者を目指す者としての倫理観と責任感がある人
2　電子情報通信分野の基礎を修得した人
3　研究や開発に主体的に取り組む意欲がある人
4　国際コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけた人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校専攻科の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を選抜することを目的とし，推薦による選抜，学力検査による選抜及び社会人特別選抜を行います。

推薦による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書により総合的に評価します。ただし，提出された出願書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。

学力検査による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，学力検査と調査書，志望理由書及び面接により総合的に評価します。

社会人特別選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書，小論文及び専門科目に関する口頭試問を含む面接により総合的に評価します。

学校案内

ダウンロードはこちら

ダウンロードはこちら

募集要項の種類

出願の際は，必ず募集要項（冊子）を入手のうえ，出願してください。

・(本科)学生募集要項
・帰国生特別選抜募集要項
・編入学生募集要項
・専攻科学生募集要項

募集要項請求方法

募集要項は，高松キャンパス学務課入試係及び詫間キャンパス学生課教務係で配布します。
郵送を希望する場合は，郵便番号，住所，氏名を明記し，250円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 240mm×332mm)又はレターパックライト(370円)を同封のうえ請求してください。請求する封筒の表に「〇〇募集要項請求」と朱書きで記載してください。（〇〇には募集要項の種類を記載してください。）

●請求先
【高松キャンパス】
〒761-8058　香川県高松市勅使町355
香川高等専門学校　学務課入試係

【詫間キャンパス】
〒769-1192　香川県三豊市詫間町香田551
香川高等専門学校　学生課教務係

※学校でまとめて請求される場合は，下記問い合わせ先までご連絡ください。

入試に関するお問い合わせ

高松キャンパス

学務課入試係

☎087-869-3866

詫間キャンパス

学生課教務係

☎0875-83-8516

【詫間キャンパス】令和５年度新入学生用ノートパソコンについて

詫間キャンパスでは令和３年度入学生から，全ての新入学生にノートパソコン（以下ノートPC）を用意してもらっています。
令和５年度入学者向けノートPCの標準仕様については，令和５年３月４日に開催する入学者説明会でご案内いたします。

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

学生
いじ
ハラ
学生
女子
障が
免除
学生
高専
意見
新型
【高
高専
プロ
デザ
高専
高専

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

平成 30 年度
香川高等専門学校専攻科
学生募集要項・入学案内

選抜区分	出願期間	選抜期日	合格発表日
推薦による選抜	平成 29 年 4 月 17 日(月)～ 4 月 21 日(金)	5 月 13 日(土)	5 月 18 日(木)
学力検査による選抜	平成 29 年 5 月 29 日(月)～ 6 月 2 日(金)	6 月 17 日(土)	6 月 22 日(木)
社会人特別選抜	平成 29 年 10 月 30 日(月)～11 月 2 日(木)	11 月 11 日(土)	11 月 16 日(木)

独立行政法人　国立高等専門学校機構
香 川 高 等 専 門 学 校
ホームページ http://www.kagawa-nct.ac.jp/
高松キャンパス
〒761-8058 香川県高松市勅使町 355 番地
TEL (087)869-3866(学務課入試係直通)
FAX (087)869-3839(学務課)
詫間キャンパス
〒769-1192 香川県三豊市詫間町香田 551 番地
TEL (0875)83-8516(学生課教務係直通)
FAX (0875)83-7743(学生課)

目　　次

Ⅰ．入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)　・・・・・・・・・・・・・　1
Ⅱ．募集人員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
Ⅲ．推薦による選抜　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
Ⅳ．学力検査による選抜　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
Ⅴ．社会人特別選抜　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
Ⅵ．障がい等のある入学志願者との事前相談について　・・・・・・・・・・・　１２
Ⅶ．入学手続　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
Ⅷ．入試情報の開示　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
Ⅸ．個人情報の使用目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
Ⅹ．その他　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
入学案内　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

※添付出願書類等

○入学願書(全選抜共通)
○受検票･写真票(全選抜共通)
○調査書(全選抜共通)
○推薦書(推薦選抜用)
○推薦書(社会人特別選抜用)
○志望理由書(全選抜共通)
○学力検査(英語)免除申請書(学力検査選抜用)
○検定料振込金証明書貼付用紙(全選抜共通)
○検定料振込用紙(全選抜共通)
○返信用封筒(全選抜共通)

Ⅰ．入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

香川高等専門学校専攻科は，科学技術創造立国を目指す我が国において，分析・解析能力，創造的課題解決能力及び研究開発能力を身に付け，様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者を社会に送り出すとともに，共同研究等をとおして地元産業，地域社会への積極的な貢献を行うことを目的としています。

この目的を達成するために，本専攻科では，高松キャンパスに創造工学専攻，詫間キャンパスに電子情報通信工学専攻を置いています。各専攻では，次のような人を求めています。

求める学生像

創造工学専攻

1．倫理観と責任感を備えた指導的技術者を目指す人
2．高度な技術と工学を学ぶために必要な基礎を修得した人
3．勉学・研究意欲が高く，自ら創意工夫して行動する人
4．英語を含めたコミュニケーション能力の基礎を身につけた人
5．さらに各コースでは，次のような人を求めています。

・機械工学コース
　機械工学の幅広い知識とともに得意分野を持った機械技術者を目指す人
・電気情報工学コース
　論理的な思考力と実行力を身につけ，コミュニケーション力の高い技術者を目指す人
・機械電子工学コース
　高度な機械システムの開発，設計および製作「モノづくり」を担う実践的な技術者を目指す人
・建設環境工学コース
　設計，計画，防災，環境などの専門知識をもった問題解決型建設技術者を目指す人

電子情報通信工学専攻

1．国際的視野のもとで，電子情報技術を通して社会に貢献したい人
2．専門分野のより高度な学問を修めたい人
3．目標に向かって努力できる人

「求める学生像」に基づき，その能力・適性において本校専攻科の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を選抜することを目的とし，推薦による選抜，学力検査による選抜及び社会人特別選抜を行います。

推薦による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書及び専門科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，学力検査と調査書，志望理由書及び面接を総合評価します。

社会人特別選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書，小論文及び専門科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

Ⅱ．募集人員

創造工学専攻（高松キャンパス）	24 名
電子情報通信工学専攻（詫間キャンパス）	18 名

本科・専攻科の基本方針

高松キャンパス



（本科）

機械工学科

電気情報工学科

機械電子工学科

建設環境工学科

（専攻科）

機械工学コース

電気情報工学コース

機械電子工学コース

建設環境工学コース

詫間キャンパス



（本科）

通信ネットワーク工学科

電子システム工学科

情報工学科

（専攻科）

電子情報工学専攻

創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

プロ
デザ
高専
高専

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

機械工学科

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈本校の求める学生像〉

・技術や科学に関心のある人

・数学や理科への興味，勉学意欲のある人

・自主性と協調性，積極性のある人

・人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。
推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。
学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

機械工学科では，ディプロマ・ポリシーにて掲げた各能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.機械分野の基礎科目群：機械設計・力学・熱流体・工作・材料に関する科目

2.電気・情報分野の基礎科目群：電気電子・コンピュータ・数値計算に関する科目

3.技術修得のための実験・演習科目群：実験・実習に関する科目

4.総合的能力育成のための科目群：実験・卒業研究に関する科目

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとします。
実験・実習の実技系科目群はレポート等の評価結果により認定します。
卒業研究は日常の取組み，論文，中間発表会および卒業研究発表審査会の評価結果に基づいて認定します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・準学位授与の方針）

機械工学科では，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1.技術者としての社会に対する責任や倫理観について考えることができる。

2.数学，物理学などの自然科学や機械工学に関する学習を継続的に行うことができる。

3.技術的問題の解決に自主的，継続的に取り組むことができる。

4.記述，説明，発表，あるいは討論のため，論理的に考えることができる。

5.自分の考えを効果的にプレゼンテーションすることができる。

意見箱
学内向け情報

キャンパスマップ
アクセスマップ
学校広報誌

学力検査問題
入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

電気情報工学科

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈本校の求める学生像〉

・技術や科学に関心のある人

・数学や理科への興味，勉学意欲のある人

・自主性と協調性，積極性のある人

・人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。
推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。
学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

電気情報工学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.電気・電子工学の基礎専門科目群：電気回路Ⅰ・同演習，電磁気学Ⅰ・同演習，電子回路Ⅰ・同演習，電子工学基礎など

2.情報通信工学の基礎専門科目群：情報処理基礎Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ，論理回路，オペレーティングシステム，情報通信ネットワークなど

3.電子情報工学の実験・実習科目群：電子情報創造工学実験実習Ⅰ,Ⅱ，電子情報工学実験Ⅰ,Ⅱなど

4.総合的能力育成のための科目群：電子情報工学応用実験，特別実習，回路設計，卒業研究など

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが，実験，実習等の科目はレポート等の評価結果により認定します。
また，卒業研究は実施状況，実施報告書，卒業論文，中間発表および卒業研究発表会のプレゼンテーションに基づいて認定します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・準学位授与の方針）

電気情報工学科では，以下のような能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して，卒業を認定します。

1.技術者としての責任感，倫理観を有し，技術の発展が社会や自然に及ぼす影響を判断できる。

2.数学，物理等の工学分野の基礎知識と電気情報分野の基礎知識に基づいた専門応用能力を身につけ，急速な技術の発展に対応できる。

3.自主的に課題に取り組む姿勢と生涯学習能力を身につけ，互いに協力して課題に取り組むことができる。

4.レポートやプレゼンテーションの作成において，論理的な記述・表現ができる。

学校広報誌

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

機械電子工学科

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈本校の求める学生像〉

・技術や科学に関心のある人

・数学や理科への興味，勉学意欲のある人

・自主性と協調性，積極性のある人

・人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。
推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。
学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

機械電子工学科では，ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，以下の科目群を基礎科目として用意しています。

1.一般教養と技術者倫理：国語，社会，人文科学，社会科学，技術者倫理を扱う専門科目など

2.理数系基礎：基礎数学，微分積分，機械電子数学，物理，基礎物理学，化学など

メカトロニクス：機械分野（製図，機械設計工学，材料力学，熱流体工学，加工学基礎，機械材料学など）

電気電子分野（電気回路，電子回路など）

制御・情報分野（制御工学，情報処理など）

3.課題解決能力育成：基礎実験実習，機械電子工学実験，卒業研究など

4.コミュニケーション：技術科学表現，機械電子工学実験，英語，保健・体育など

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・準学位授与の方針）

機械電子工学科では，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1.社会や文化に関する教養を身につけ，機械システムが社会や自然に及ぼす影響を考えることができる。

2.メカトロニクス技術を利用し，高機能な機械システムの開発・生産に携わることができる。

3.メカトロニクス分野の知識を基に，与えられた課題に対し，創造性を発揮して問題解決することができる。

4.論理的な説明能力と簡単な英語でのコミュニケーション能力を持ち，社会性・協調性を発揮し行動できる。

意見箱
学内向け情報

キャンパスマップ
アクセスマップ
学校広報誌

学力検査問題
入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

建設環境工学科

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈本校の求める学生像〉

・技術や科学に関心のある人

・数学や理科への興味，勉学意欲のある人

・自主性と協調性，積極性のある人

・人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。
推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。
学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

建設環境工学科は，ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.人文社会科学及び語学と環境に関わる科目：社会，国語，英語，環境

2.工学の基礎科目：数学，物理，化学

3.土木工学の専門科目：測量，材料，構造，地盤，水理，環境，計画，施工・法規，情報処理，製図

4.技術習得のための実験・演習科目：実験実習，設計製図，工学演習

5.総合的能力育成のための科目：創成工学，卒業研究

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが，科目によっては，報告書作成や発表等の評価結果により認定します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・準学位授与の方針）

建設環境工学科は，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1.建設技術者としての責任感と倫理観を有し，建設技術が社会や自然に及ぼす影響を判断できる。

2.自然科学の基礎知識と土木工学の専門知識を身につけ，技術の発展に対応できる。

3.自主的に課題に取り組む姿勢を身につけ，互いに協力して課題解決に取り組むことができる。

4.報告書作成や発表において，論理的な記述・表現ができる。

学校広報誌

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

通信ネットワーク工学科

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈本校の求める学生像〉

・技術や科学に関心のある人

・数学や理科への興味，勉学意欲のある人

・自主性と協調性，積極性のある人

・人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。
推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。
学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

通信ネットワーク工学科では，ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。また，卒業時に第一級陸上特殊無線技士の国家資格が取得できるよう科目を配置しています。

1.電気・電子工学の基礎専門科目：電気磁気学，電気回路，電子回路など

2.通信技術関連の専門科目：無線通信工学，電気通信システム，電波伝送学など

3.ネットワーク技術関連の専門科目：コンピュータネットワーク，ネットワークプログラミング，情報セキュリティなど

4.技術修得のための実験・演習科目：創造実験・実習，基礎工学実験・実習など

5.総合的能力育成のための科目：工学実験，通信工学セミナー，卒業研究など

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが，科目によっては，レポートやプレゼンテーション等の評価結果により認定する。
また，卒業研究は実施状況，実施報告書，卒業論文，中間発表および卒業研究発表会のプレゼンテーションに基づいて認定します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・準学位授与の方針）

通信ネットワーク工学科では，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1.技術者としての倫理観と責任感を有し，社会の発展に寄与できる。

2.コンピュータ，ネットワーク，エレクトロニクスに関する基礎知識と応用能力を身につけ，技術の変化に対応できる。

3.無線・有線通信に関する資格の取得を目指し自主的・継続的に学習できる。

4.既成概念にとらわれず，工学技術の創意工夫と向上に努力し，共同作業ができる。

5.情報機器を用い，情報収集，文書作成およびプレゼンテーションができる。

個人情報保護方針
お問い合わせ
意見箱
学内向け情報

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

JABEE・認証評価・自己評価
中期計画・年度計画等
キャンパスマップ
アクセスマップ
学校広報誌

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

学生募集要項
帰国生特別選抜
学力検査問題
入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

学生
学生
学生
クラ
高等
学生
いじ
ハラ
学生
女子
障が
免除
学生
高専
意見
新型
【高
高専
プロ
デザ
高専
高専

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

電子システム工学科

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈本校の求める学生像〉

・技術や科学に関心のある人

・数学や理科への興味，勉学意欲のある人

・自主性と協調性，積極性のある人

・人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。
推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。
学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

電子システム工学科では，ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.電気・電子工学の基礎専門科目：電気磁気学，電気回路，電子回路など

2.ロボット技術関連の専門科目:制御工学，ロボット工学など

3.デバイス技術関連の専門科目:半導体工学，半導体デバイス工学など

4.技術修得のための実験・演習科目：創造実験・実習，基礎工学実験・実習など

5.総合的能力育成のための科目：工学実験，電子システムセミナー，卒業研究など

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが，科目によっては，レポートやプレゼンテーション等の評価結果により認定する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・準学位授与の方針）

電子システム工学科では，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1.回路，半導体，コンピュータなどの専門科目を基礎とした，デバイスやロボットに関する実践的な専門技術

2.広い視野を持ち，設計，製作，問題発見，問題解決ができる能力

3.計画を立案し，継続して課題に取り組むことができる能力

4.物事を論理的に考え，文章や口頭で発表できる能力

学内向け情報

アクセスマップ
学校広報誌

入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

情報工学科

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈本校の求める学生像〉

・技術や科学に関心のある人

・数学や理科への興味，勉学意欲のある人

・自主性と協調性，積極性のある人

・人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。
推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。
学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

情報工学科では，ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.情報工学の基礎専門科目：情報処理Ⅰ，基礎情報工学，情報構造論など

2.コンピュータ技術関連の専門科目：計算機アーキテクチャ，システムソフトウェア，画像工学など

3.ネットワーク技術関連の専門科目：コンピュータネットワーク，情報セキュリティ，データベースなど

4.技術修得のための実験・演習科目：創造実験・実習，基礎工学実験・実習など

5.総合的能力育成のための科目：工学実験，情報工学セミナー，卒業研究など

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが，科目によっては，レポートやプレゼンテーション等の評価結果により認定する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・準学位授与の方針）

情報工学科では，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1.幅広い知識と教養を身につけ，社会の発展に寄与できる。

2.情報工学に関する基礎から応用までの知識を有し，時代の変遷に対応できる。

3.情報科学における新たな問題を提議でき，それを解決するためのシステムを構築できる。

4.物事を論理的に思考でき，それを表現して伝えるコミュニケーション能力を有する。

学内向け情報

アクセスマップ
学校広報誌

入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

創造工学専攻　機械工学コース

アドミッション・ポリシー

香川高等専門学校専攻科は，科学技術創造立国を目指す我が国において，分析・解析能力，創造的課題解決能力及び研究開発能力を身に付け，様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者を社会に送り出すとともに，共同研究等をとおして地元産業，地域社会への積極的な貢献を行うことを目的としています。

そのために，機械工学コースでは次のような人材を求めています。

1.倫理観と責任感を備え論理的思考力を身に付けた人

2.高度な技術と工学を学ぶために必要な基礎を修得した人

3.勉学・研究意欲が高く，自ら創意工夫して行動する人

4.英語を含めたコミュニケーション能力の基礎を身につけた人

5.得意分野を有する機械技術者になる意欲があり，機械工学の基礎知識を持った人

「求める学生像」に基づき，その能力・適性において本校専攻科の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を選抜することを目的とし，推薦による選抜，学力検査による選抜及び社会人特別選抜を行います。
推薦による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書により総合的に評価します。ただし，提出された出願書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。
学力検査による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，学力検査と調査書，志望理由書及び面接により総合的に評価します。
社会人特別選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書，小論文及び専門科目に関する口頭試問を含む面接により総合的に評価します。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.国語に関する教養科目および社会に関する工学基礎科目

2.自然科学に関する工学基礎科目および力学，熱流体，材料，情報処理，などの機械工学に関する科目

3.特別研究，実験・実習の実技系科目およびインターンシップ

4.特別研究，実験・実習の実技系科目および英語に関する教養科目

これら科目群に関わる単位修得は，定期試験とレポート等の評価結果により認定します。
実験・実習の実技系科目は，レポート等の評価結果に基づき認定します。
特別研究は，日常の取組み，発表審査会及び特別研究論文の審査結果に基づいて認定します。

ディプロマ・ポリシー

機械工学コースは，機械工学の知識をベースに，社会性，経済性及び安全性に配慮し，既存の考え方だけでなく工夫考案したアイデアを設計指針に取り入れ，目的に合致した「モノづくり」を行うための幅広い思考力と独創性に身に付けた技術者を育成するため，以下のような能力を身に付けたことを所定の単位を修得した学生に対して認め，修了を認定します。

1.技術者としての社会に対する責任や倫理観や社会を構成する経済や文化について考えることができる。

2.数学，物理学などの自然科学や機械工学に関する基礎知識を組み合せて応用できる。

3.技術的課題対して，自主的，継続的に創意工夫し，取り組むことができる。

4.日本語で論理的な記述，説明，発表及び討論ができる。英語で基礎的な記述・表現ができる。

在学生・保護者のみなさんへ
地域・企業のみなさんへ
卒業生のみなさんへ
サイトマップ
個人情報保護方針
お問い合わせ
意見箱
学内向け情報

基本方針
本科・専攻科の基本方針
校章・校歌
沿革
JABEE・認証評価・自己評価
中期計画・年度計画等
キャンパスマップ
アクセスマップ
学校広報誌

アドミッションポリシー
オープンキャンパス
募集要項請求・問い合わせ
【中学生のみなさんへ】
学生募集要項
帰国生特別選抜
学力検査問題
入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

創造工学専攻　電気情報工学コース

アドミッション・ポリシー

香川高等専門学校専攻科は，科学技術創造立国を目指す我が国において，分析・解析能力，創造的課題解決能力及び研究開発能力を身に付け，様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者を社会に送り出すとともに，共同研究等をとおして地元産業，地域社会への積極的な貢献を行うことを目的としています。

そのために，電気情報工学コースでは次のような人材を求めています。

1.倫理観と責任感を備え論理的思考力を身に付けた人

2.高度な技術と工学を学ぶために必要な基礎を修得した人

3.勉学・研究意欲が高く，自ら創意工夫して行動する人

4.英語を含めたコミュニケーション能力の基礎を身につけた人

5.電気電子情報分野の幅広い専門知識とともに課題発見・解決能力を修得する意欲を持った人

「求める学生像」に基づき，その能力・適性において本校専攻科の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を選抜することを目的とし，推薦による選抜，学力検査による選抜及び社会人特別選抜を行います。
推薦による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書により総合的に評価します。ただし，提出された出願書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。
学力検査による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，学力検査と調査書，志望理由書及び面接により総合的に評価します。
社会人特別選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書，小論文及び専門科目に関する口頭試問を含む面接により総合的に評価します。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.教養科目および特別研究，輪講

2.自然科学系の科目，専門科目（電気電子工学・情報工学），工学実験・実習

3.特別研究，輪講，工学実験・実習およびインターンシップ

4.英語科目，特別研究，輪講，工学実験・実習およびインターンシップ

これら科目群に関わる単位修得は，定期試験とレポート等の評価結果により認定します。
実験・実習の実技系科目は，レポート等の評価結果に基づき認定します。
特別研究は，日常の取組み，発表審査会及び特別研究論文の審査結果に基づいて認定します。

ディプロマ・ポリシー

電気情報工学コースは，本科で修得した電気回路や情報処理等の電気電子・情報通信分野における工学基礎と専門工学基礎を礎とし，より高度な専門的知識や技術を修得するため，本校に在籍し，以下の能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して，修了を認定します。

1.人類，世界，文化に広く関心を持ち，技術の産物が社会や自然に及ぼす影響を判断できる。

2.自然科学と専門技術の基礎を身につけ，それを具体的に問題に応用できる。

3.自ら課題を発見して，自主的に取り組むことができる。また，互いに協力して課題に取り組むことができる。

4.物事を論理的に考えて，それを文章と口頭で明確に表現できる。英語による基本的な記述，表現ができる。

地域・企業のみなさんへ
卒業生のみなさんへ
サイトマップ
個人情報保護方針
お問い合わせ
意見箱
学内向け情報

本科・専攻科の基本方針
校章・校歌
沿革
JABEE・認証評価・自己評価
中期計画・年度計画等
キャンパスマップ
アクセスマップ
学校広報誌

オープンキャンパス
募集要項請求・問い合わせ
【中学生のみなさんへ】
学生募集要項
帰国生特別選抜
学力検査問題
入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

創造工学専攻　機械電子工学コース

アドミッション・ポリシー

香川高等専門学校専攻科は，科学技術創造立国を目指す我が国において，分析・解析能力，創造的課題解決能力及び研究開発能力を身に付け，様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者を社会に送り出すとともに，共同研究等をとおして地元産業，地域社会への積極的な貢献を行うことを目的としています。

そのために，機械電子工学コースでは次のような人材を求めています。

1.倫理観と責任感を備え論理的思考力を身に付けた人

2.高度な技術と工学を学ぶために必要な基礎を修得した人

3.勉学・研究意欲が高く，自ら創意工夫して行動する人

4.英語を含めたコミュニケーション能力の基礎を身につけた人

5.「モノづくり」を担う実践的技術者になる意欲があり，機械・電子工学の基礎知識を持った人

「求める学生像」に基づき，その能力・適性において本校専攻科の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を選抜することを目的とし，推薦による選抜，学力検査による選抜及び社会人特別選抜を行います。
推薦による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書により総合的に評価します。ただし，提出された出願書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。
学力検査による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，学力検査と調査書，志望理由書及び面接により総合的に評価します。
社会人特別選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書，小論文及び専門科目に関する口頭試問を含む面接により総合的に評価します。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.教養科目及び技術者倫理などの工学基礎科目

2.自然科学系科目，メカトロニクス分野の専門科目

3.特別研究，輪講，実験・実習の実技系科目，およびインターンシップ

4.特別研究，輪講，実験・実習の実技系科目，および英語科目

これら科目群に関わる単位修得は，定期試験とレポート等の評価結果により認定します。
実験・実習の実技系科目は，レポート等の評価結果に基づき認定します。
特別研究は，日常の取組み，発表審査会及び特別研究論文の審査結果に基づいて認定します。

ディプロマ・ポリシー

機械電子工学コースは，本科で修得したメカトロニクス分野の知識と技術を基礎にして，より高度な専門的知識と技術を修得するため，以下の能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して，修了を認定します。

1.現代社会を支える技術の実態と技術者の役割を認識する倫理感を身につけ，事例を通じてそれらを説明することができる。

2.自然科学とメカトロニクス分野の知識を組み合わせ，高機能な機械システムの開発・生産に適用することができる。

3.メカトロニクス分野の知識を基に，課題に対して背景や目的・問題点を理解し，適切に計画を立て，相互に協力・工夫することで問題を解決することができる。

4.学習成果を報告書として論理的にまとめることができ，発表資料と口頭により明確に表現できる。また，学習成果の要約を平易な技術英文により記述することができる。

受験生のみなさんへ
在学生・保護者のみなさんへ
地域・企業のみなさんへ
卒業生のみなさんへ
サイトマップ
個人情報保護方針
お問い合わせ
意見箱
学内向け情報

校長挨拶
基本方針
本科・専攻科の基本方針
校章・校歌
沿革
JABEE・認証評価・自己評価
中期計画・年度計画等
キャンパスマップ
アクセスマップ
学校広報誌

学校案内
アドミッションポリシー
オープンキャンパス
募集要項請求・問い合わせ
【中学生のみなさんへ】
学生募集要項
帰国生特別選抜
学力検査問題
入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

創造工学専攻　建設環境工学コース

アドミッション・ポリシー

香川高等専門学校専攻科は，科学技術創造立国を目指す我が国において，分析・解析能力，創造的課題解決能力及び研究開発能力を身に付け，様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者を社会に送り出すとともに，共同研究等をとおして地元産業，地域社会への積極的な貢献を行うことを目的としています。

そのために，建設環境工学コースでは次のような人材を求めています。

1.倫理観と責任感を備え論理的思考力を身に付けた人

2.高度な技術と工学を学ぶために必要な基礎を修得した人

3.勉学・研究意欲が高く，自ら創意工夫して行動する人

4.英語を含めたコミュニケーション能力の基礎を身につけた人

5.土木技術者になる意欲があり，土木工学の基礎知識を持った人

「求める学生像」に基づき，その能力・適性において本校専攻科の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を選抜することを目的とし，推薦による選抜，学力検査による選抜及び社会人特別選抜を行います。
推薦による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書により総合的に評価します。ただし，提出された出願書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。
学力検査による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，学力検査と調査書，志望理由書及び面接により総合的に評価します。
社会人特別選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書，小論文及び専門科目に関する口頭試問を含む面接により総合的に評価します。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.教養科目および技術者倫理などの工学基礎科目

2.自然科学系の科目，土木工学の基礎的な専門科目，構造・防災・計画及び情報処理の総合的設計に関わる専門科目

3.特別研究，実験・実習の実技系科目，演習科目及びインターンシップ

4.特別研究，実験・実習の実技系科目及び英語科目

これら科目群に関わる単位修得は，定期試験とレポート等の評価結果により認定します。
実験・実習の実技系科目は，レポート等の評価結果に基づき認定します。
特別研究は，日常の取組み，発表審査会及び特別研究論文の審査結果に基づいて認定します。

ディプロマ・ポリシー

建設環境工学コースは，本科で修得した建設環境工学分野の知識と技術を基礎にして，より高度な専門的知識と技術を修得するため，以下の能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して，修了を認定します。

1.建設技術者としての責任感と倫理観を有し，建設技術が社会や自然に及ぼす影響を説明できる。

2.自然科学と土木工学の基礎を身につけ，社会基盤を設計できる。

3.課題に対して自発的に，また互いに協力し合って取り組み，創意工夫ができる。

4.報告書作成や発表において論理的な記述・表現ができる。英語で基本的な記述・表現ができる。

地域・企業のみなさんへ
卒業生のみなさんへ
サイトマップ
個人情報保護方針
お問い合わせ
意見箱
学内向け情報

本科・専攻科の基本方針
校章・校歌
沿革
JABEE・認証評価・自己評価
中期計画・年度計画等
キャンパスマップ
アクセスマップ
学校広報誌

オープンキャンパス
募集要項請求・問い合わせ
【中学生のみなさんへ】
学生募集要項
帰国生特別選抜
学力検査問題
入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

学科・専攻科

【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報

企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

研究・地域連携

研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内

みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

情報公開

情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

電子情報通信工学専攻

アドミッション・ポリシー

香川高等専門学校専攻科は，科学技術創造立国を目指す我が国において，分析・解析能力，創造的課題解決能力及び研究開発能力を身に付け，様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者を社会に送り出すとともに，共同研究等をとおして地元産業，地域社会への積極的な貢献を行うことを目的としています。
そのために，電子情報通信工学専攻では次のような人材を求めています。

1.技術者を目指す者としての倫理観と責任感がある人

2.電子情報通信分野の基礎を修得した人

3.研究や開発に主体的に取り組む意欲がある人

4.国際コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけた人

「求める学生像」に基づき，その能力・適性において本校専攻科の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を選抜することを目的とし，推薦による選抜，学力検査による選抜及び社会人特別選抜を行います。
推薦による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書により総合的に評価します。ただし，提出された出願書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。
学力検査による選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，学力検査と調査書，志望理由書及び面接により総合的に評価します。
社会人特別選抜では，本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため，推薦書，調査書，志望理由書，小論文及び専門科目に関する口頭試問を含む面接により総合的に評価します。

カリキュラム・ポリシー

電子情報通信工学専攻では，ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

1.教養科目及び技術者倫理などの工学基礎科目

2.自然科学系の科目，電気電子工学，通信工学，情報工学の基礎となる科目及び電気電子・通信・計算機システムに関する科目

3.特別研究，特別実験・演習IIにおけるエンジニアリング・デザイン教育など電気電子工学，通信工学，情報工学に関する演習・実験・実習科目，及び周辺技術等に関する科目

4.コミュニケーション英語，工業英語などの語学やインターンシップ，特別研究などの電気電子工学，通信工学，情報工学に関する演習・実験・実習科目

これら科目群に関わる単位修得は，定期試験とレポート等の評価結果により認定します。実験・実習の実技系科目は，レポート等の評価結果に基づき認定します。特別研究は，日常の取組み，発表審査会及び特別研究論文の審査結果に基づいて認定します。

ディプロマ・ポリシー

電子情報通信分野の高度な知識・素養を身につけ複合領域にも対応できる幅広い視野を持ち，高い問題設定・解決能力を涵養するため，以下の能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して，修了を認定します。

1.技術者としての責任を自覚し，倫理観を身につけ，人類の福祉に貢献できる能力

2.技術者としての基礎知識を身につけ，高度な関連技術を修得し，広い視野を持って技術の発展に対応できる能力

3.与えられた課題を達成する手段を設計し，粘り強く問題解決に取り組むことができる能力

4.情報機器を活用して情報収集や情報分析，文章作成，口頭発表ができる能力，日本語及び英語により，それらの共同作業を行うことができる能力

卒業生のみなさんへ
サイトマップ
個人情報保護方針
お問い合わせ
意見箱
学内向け情報

校章・校歌
沿革
JABEE・認証評価・自己評価
中期計画・年度計画等
キャンパスマップ
アクセスマップ
学校広報誌

募集要項請求・問い合わせ
【中学生のみなさんへ】
学生募集要項
帰国生特別選抜
学力検査問題
入学者選抜出願状況・結果
【高校生のみなさんへ】
編入学生募集要項
編入学者選抜出願状況・結果
【高専生・社会人のみなさんへ】
専攻科学生募集要項
専攻科入学者選抜出願状況・結果

学科・専攻科
【学科】
機械工学科
電気情報工学科
機械電子工学科
建設環境工学科
通信ネットワーク工学科
電子システム工学科
情報工学科
一般教育
【専攻科】
創造工学専攻
電子情報通信工学専攻

就職・進学情報
企業の皆様へ
卒業・修了者の進路状況

研究・地域連携
研究・技術シーズ
産業技術振興会
国際交流室
技術教育支援センター
情報基盤センター
公開講座
サイエンスフェスタ
出前授業
研究生・科目等履修生・聴講生

施設案内
みらい技術共同教育センター
地域イノベーションセンター
情報基盤センター
AI社会実装教育研究本部
社会基盤メンテナンス教育センター
図書館
学生寮
開放施設

情報公開
情報公開・個人情報の取扱い
教育研究活動等の状況
研究不正に対する取組
危機管理
契約情報
調達情報
工事情報
香川高等専門学校規則集
情報公開システム(国立高専機構)
後援会
校章およびロゴマーク・名義使用について
教職員採用情報
リンク

このサイトについて

Copyright © 2019 National Institute of Technology, Kagawa College All Rights Reserved.

香川高等専門学校企画運営会議規程

平成21年10月１日制定

（趣旨）

第１条 この規程は，香川高等専門学校内部組織規則第22条第２項の規定に基づき，香川高等専門学校企画運営会議（以下「企画運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（審議事項）

第２条 企画運営会議は，校長の諮問に応じ，香川高等専門学校の運営に係る重要事項を審議する。

（組織）

第３条 企画運営会議は，次の各号に掲げる者をもつて組織する。

一 校長

二 副校長

三 各主事

四 各校長補佐

五 専攻科長

六 各専攻長

七 各学科長

八 図書館長，情報基盤センター長及び副センター長，キャリアサポートセンター長及び副センター長，地域人材開発本部副本部長，みらい技術共同教育センター長，地域イノベーションセンター長，AI社会実装教育研究本部長及び副本部長，社会基盤メンテナンス教育センター長，技術教育支援センター長及び副センター長，総務・広報室長及び副室長並びに国際交流室長及び副室長

九 事務部長

十 その他校長が必要と認めた者

２ 前項第八号に規定する者の出席は必須ではない。ただし，校長は，審議事項の内容により出席を求めることができる。

（運営）

第４条 企画運営会議は，校長が招集し，議長となる。

２ 校長に事故あるときは，あらかじめ校長の指名する者が議長の職務を代行する。

（組織以外の者の出席等）

第５条 校長が必要と認めたときは，組織以外の者を企画運営会議に出席させ，説明又は意見を聴くことができる。

（幹事）

第６条 企画運営会議に幹事を置き，総務課長，管理課長，学務課長及び学生課長を

もつて充てる。

（事務）

第７条 企画運営会議の事務は，総務課において処理する。

附 則

この規程は，平成21年10月１日から施行する。

附 則

この規程は，平成24年４月１日から施行する。

附 則

この規程は，平成28年５月１日から施行する。

附 則

この規程は，平成29年４月１日から施行する。

附 則

この規程は，平成 29 年 10 月１日から施行する。

附 則

この規程は，平成 31 年４月１日から施行する。

附 則

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

香川高等専門学校教務委員会規程

平成 21 年 10 月 1 日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，香川高等専門学校内部組織規則第 22 条第２項の規定に基づき，香川高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（目的）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　教育課程の編成及び改廃に関すること。

二　授業時間の編成に関すること。

三　学生の履修に関すること。

四　学業成績の評価等に関すること。

五　教務に係る学校行事に関すること。

六　教育の改善に関すること。

七　その他教務に関すること。

（組織）

第３条　委員会は，高松キャンパス及び詫間キャンパス（以下「各キャンパス」という。）の次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

一　教務主事

二　教務副主事

三　一般教育科長及び各学科長

四　学務課長，学生課長

五　その他，委員長が必要と認めた教員

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，校長が指名する前条第１号の委員をもつて充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，議長となる。

３　委員長に事故あるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（教務小委員会）

第５条　各キャンパスに教務小委員会を置く。

２　教務小委員会は，本科における次の各号に掲げる事項について協議し，実施する。

一　教育課程の編成及び改廃に関すること。

二　授業時間の編成に関すること。

三　学生の履修に関すること。

四　学業成績の評価等に関すること。

五　教務に係る学校行事に関すること。

六　教育の改善に関すること。

七　その他教務に関すること。

３　教務小委員会は，各キャンパスの次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　教務主事

二　教務副主事

三　教務主事補

四　一般教育科長及び各学科長

五　学務課長，学生課長

４　教務小委員会に委員長を置き，各キャンパスの教務主事をもって充てる。

５　教務小委員会は，必要に応じその協議，実施した内容を委員会に報告するものとする。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員長は，必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。

（事務）

第７条　委員会の事務は，委員長が所属するキャンパスの学務課又は学生課において処理する。

（その他）

第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員長が定める。

２　この規程に定めるもののほか，教務小委員会の運営に関し必要な事項は，各キャンパスの教務主事が定める。

附　則

この規程は，平成 21 年 10 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は，平成 25 年 10 月 15 日から施行し，平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

香川高等専門学校専攻科委員会規程

平成21年10月１日制定

（趣旨）

第１条　この規程は，香川高等専門学校内部組織規程第22条第２項の規定に基づき，香川高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　委員会は，香川高等専門学校専攻科（以下「専攻科」という。）に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

一　専攻科教育課程の編成・実施に関すること。

二　専攻科学生の履修に関すること。

三　専攻科学生の修了に関すること。

四　専攻科入学者選抜に関すること。

五　その他専攻科教育に関する必要な事項

（構成）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもつて構成する。

一　専攻科長

二　専攻長

三　教務主事

四　各キャンパス各学科から選出された各１名の特別研究Ⅱの指導教員（学位規則第６条第１項の規定に基づく学士の学位の授与に係る特例に関する規則第６条第３号に規定する指導教員）及び一般教育科から選出された各１名の教員

五　学務課長，学生課長

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き，前条第１号の委員をもつて充てる。

２　委員長は，委員会を招集し，議長となる。

３　委員長に事故あるときは，専攻長がその職務を代行する。

（専攻委員会）

第５条　委員会に，必要に応じ各キャンパスに専攻委員会を置くことができる。

２　専攻委員会は，必要に応じその協議実施した内容を委員会に報告するものとする。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員長は，必要があるときは，委員以外の者を出席させることができる。

（事務）

第７条　委員会の事務は，専攻科長が所属するキャンパスにおいて処理する。

附　則

この規程は，平成21年10月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成22年８月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成22年９月22日から施行する。

附　則

この規程は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成28年５月１日から施行する。

資料1-3-①-4

第９回教務小委員会議事録

日時：令和５年１月１０日（火）16:15～17:05

場所：第１会議室

出席：[redacted]

欠席：

記録：

１．原級生特別対応科目一覧（資料１）

資料１を確認しておくこと。

２．R5 年度高専間提供科目の提出について（資料２）

ＣＶ以外の学科が望ましい。

ＥＣとＧ科からは提供科目無し。

1 科目提供で予定している。

他高専から履修登録は多いが実履修者数はほぼゼロになる（途中挫折)。

次年度前期分はＭＥ・ＥＣ・ＭＳの提供科目から決定する。

３．他の高等専門学校における授業科目の履修等に関する規定について

詫間との合意が難しく規定策定に至っていない。

詫間は自由科目として認めればよいのでは？（卒業単位に認めず）との意見があるが高松は自由科目の設定がないため両キャンパスでの調整が必要になる。

（自由科目として単位修得できた科目は成績証明に記載されるのみ，大学編入の単位に使用できる可能性あり）

確定するまでは現履修者の単位認定は教務委員会で決定する。

４．知的財産概論，科学技術史概論の開設準備進捗状況について

知的財産概論：前期オンデマンド実施予定，配信は慣れるまで常勤の教員が発信，ＣＳセンターのブースで定期的に事前収録・配信，トラブル対応時は常勤教員が対応した方が早い，学生からの質問は受付可→後日回答で対応

科学技術史概論：エクセルファイルを担当教員に送付済み，回収は１月末迄予定

５．学校ＤＰの策定について（資料３）

本科全体のＤＰが無い状態。専攻科に検討してもらった上で新ＤＰ案を策定する。

「3.創造的かつ（赤字）・・・」

→この表現より，より良い案があれば随時意見募集。

認証評価には間に合わないがこれを決定することにより，各科で新しいカリキュラムを再検討していきPDCAのサイクルをまわしていく方向で検討。

６．新入生関係予定表について（資料４）

資料4を確認しておく。

７．次年度の教室配置について（資料５）

新カリの効率的な授業実施に向けて4・5年の教室が隣接された案になっている。

4・5年を繋ぎたいという要望に応じて対応していく。

カメラを繋げる準備等が必要になる。

８．Ｒ５年度前期時間割について（資料６）

4・5年の一般の選択科目が全部網羅されていない。

科学概論I→5年も履修できるようにする必要あり。

語学特講III→5年も履修できるようにする必要あり。

木曜4ｺﾏはキャリア概論系にあてることが多いので埋めてしまってよいものか？

語学特講の非常勤講師火・水の4ｺﾏ希望している。

2学科ずつ分けての対応も要検討（例：火曜4ｺﾏでＣＶとＭＳ/水曜4ｺﾏはＭＥ・ＥＣ）。

4年での修得をめざし，5年は単位未修得学生のみにする。

→木曜4ｺﾏは科学特論Iを入れる。

語学特講IIIは各専門で要検討して空きｺﾏを作る。

９．その他

特になし

以上

令和４年度第１１回教務小委員会議事要録

日　時　令和５年２月２日（木）　１５：３０　～　１７：００
場　所　管理棟４階　第二会議室
出席者　[redacted]
　　[redacted]委員
欠席者　[redacted]
陪席者　[redacted]教務係長（記）

議題１　非常勤講師計画の追加について
　委員長から，資料１に基づき説明があり，審議の結果，原案のとおり了承された。有馬委員から，日本語の予算及びシラバス作成の担当について質問があり，委員長から，一般教育科の予算やシラバス担当ではないとの回答があった。

議題２　転科について
　委員長から，資料２に基づき説明があり，転科希望学生について，選考を進めるよう依頼があった。

議題３　令和５年度高専間提供科目について
　委員長から，資料３に基づき説明があり，詫間キャンパス提供科目は情報工学科「システムプログラミング」で了承された。他高専提供科目の履修については，教務主事が選考し，学科長が確認の上，卒業認定科目として学生に周知することで了承された。

議題４　ディプロマポリシー(案)について
　委員長から，資料４に基づき説明があり，審議の結果，詫間キャンパスの意見として次の意見があり，高松キャンパスと検討していくこととなった。
・キーワードを削除
・２　・・・社会的課題の解決に応用することができる。
　　↓
２　・・・社会的課題の解決に取り組むことができる。

議題５　業界説明会について
　委員長から，資料５基づき説明があり原案のとおり了承された。

議題６　ＣＢＴ作問体制の変更について
　委員長から，資料６に基づき説明及び協力依頼があった。

議題７　前期公開授業実施について

委員長から，第７回教務小委員会で意見のあった公開授業の前期実施について，資料７に基づき説明があり，審議の結果，原案の日程で前期公開授業を実施すること及び前期・後期の公開授業のどちらでも参観可で了承された。

議題８　教室開放時間について

委員長から，資料８について説明があり，審議の結果，原案のとおり，教室開放時間は１７時までとし，１７時以降使用する場合は使用願を提出することで了承された。

議題９　卒研発表時の出席停止学生の対応について

委員長から，卒研発表時の出席停止の学生の対応について，遠隔での卒研発表実施案の説明があった。審議の結果，該当学生の遠隔での発表及び体調不良で当日発表できない場合は，体調回復後の発表を認めることが了承された。

対応については，高松キャンパスと調整し，校長の承認を得ることとなった。

議題１０　令和５年度選択科目の抽選について

委員長から，選択科目の抽選については，全ての選択科目の抽選に漏れる学生がないよう配慮して実施すると発言があった。

その他

卒業時アンケートの内容に変更がないことが委員長より報告された。なお、アンケート結果に対する回答については、担当者を精選し、結果を報告するよう要請があり了承された。

令和 4 年度第 6 回専攻科委員会議事概要

日　時　　令和 4 年 11 月 18 日(金)　16:15～17:00,17:15～17:50
出席者　[redacted]
欠席者
陪　席
記　録
場　所　　高松キャンパス第 2 会議室、詫間キャンパス第 2 会議室
議題：
議事録確認　第 5 回専攻科委員会議事概要
協議事項
（1）専攻科学力検査問題にかかるインシデント予防対策について　【資料 1】
・ガイドラインは実施要領に入れる。
・(2)検査問題作成者間の情報共有について、原則としてサイボウズ上・・・・。
（2）連携教育プログラムに関する改善案について　【資料 2】
・(1)　大学と確認中
（3）令和 6 年度専攻科入試募集要項について　【資料 3】
・2 月上旬に HP アップ
・3 月に冊子作成
・次回専攻科委員会で日程も含めて最終決定
（4）３つのポリシーについて　【資料 4】
・学校として 1 つの DP。本科は教務小まで了承。本科は各科の DP も作成予定。
今年度中に。創造工学専攻の DP を全体の DP に使用。各コース及び電子情報通信工学専攻の DP を新たに作成。教務主事から評価も考えて作成依頼。
（5）その他
無
報告事項
（1）機関別認証評価について
・各専攻は 1 月までに作成。専攻長同志で 1 つにまとめる。
・アンケートを取る場合は、両専攻共通が良い場合も有り。
（2）その他
・次回は 12/8 あたりに開催

会議資料
【資料 1】専攻科学力検査問題にかかるインシデント予防対策について
【資料 2】香川大学との連携教育プログラムに関する改善案について
【資料 3】令和 6 年度専攻科入試募集要項
【資料 4】ディプロマ・ポリシー

平成２８年度第１０回教務委員会議事要録

開催日：　平成２９年３月１６日（木）　１５：００～１５：２０
場　所：　高松キャンパス：第１会議室（ＴＶ会議）
　　詫間キャンパス：第２会議室（ＴＶ会議）
出席者：　[redacted]
欠席者：　[redacted]
陪席者：　[redacted]

議　題：　１ 転科について

両教務主事から，資料１に基づき，キャンパス内の転科希望学生について，各教務小委員会の審議結果報告があり，詫間キャンパスの学生１名を除いて合格とすることが了承された。

なお，[redacted]教務主事から，高松キャンパス（電気情報工学科）から詫間キャンパス（電子システム工学科）に転科希望の学生について，辞退の旨説明があった。また，当該学生に対しては，辞退のため結果通知をしないことの報告があった。

合否結果については，別添のとおり。

２ 三つの方針について

[redacted]教務主事から，資料２に基づき，高松キャンパスの三つの方針案の変更点について説明があった。また,同日開催した高松キャンパス教務小委員会での結果報告として，下記のとおり資料２の一部を変更する旨説明があった。

〇機械工学科の「学科の教育目標」の記載順序を次のとおり変更する。

１→２，２→３，３→１

〇電気情報工学科の「学科の教育目標」の記載順序を次のとおり変更する。

１→２，２→１

以上の変更を踏まえて審議した結果，香川高専７学科の三つの方針について，了承された。

なお，了承された三つの方針については，校長決裁で承認された後，３月末までに香川高専ホームページに掲載することが確認された。

３ その他

特になし

資料２

「三つの方針」（案）

【機械工学科】

学校の教育目的

１　広い視野を持ち，自然との調和を図り，人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。
（倫理）

２　科学技術の基礎知識と応用力を身につけ，時代の変遷に対応できる技術者を養成する。
（知識）

３　課題解決の実行力と創造力を身につけ，社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。
（実行力）

４　物事を論理的に考え表現する能力を身につけ，国際的に活躍できる技術者を養成する。
（コミュニケーション能力）

学科の教育目標

１　数学，物理学などの自然科学や機械工学に関連する基礎知識を身につける。
２　問題解決に取り組み，自主的，継続的に技術的問題に取り組む力を身につける。
３　技術者としての社会に対する責任や倫理観について考える力を身につける。
４　記述，説明，発表，あるいは討論できる論理的な思考力やプレゼンテーション能力を身につける。

ディプロマ・ポリシー

機械工学科では，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

１　技術者としての社会に対する責任や倫理観について考えることができる。
２　数学，物理学などの自然科学や機械工学に関する学習を継続的に行うことができる。
３　技術的問題の解決に自主的，継続的に取り組むことができる。
４　記述，説明，発表，あるいは討論のため，論理的に考えることができる。
５　自分の考えを効果的にプレゼンテーションすることができる。

カリキュラム・ポリシー

機械工学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

１　機械分野の基礎科目群：機械設計・力学・熱流体・工作・材料に関する科目
２　電気・情報分野の基礎科目群：電気電子・コンピュータ・数値計算に関する科目
３　技術修得のための実験・演習科目群：実験・実習に関する科目
４　総合的能力育成のための科目群：実験・卒業研究に関する科目

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとする．実験・実習の実技系科目群はレポート等の評価結果により認定する．卒業研究は日常の取組み，論文，中間発表会および卒業研究発表審査会の評価結果に基づいて認定する．

アドミッションポリシー

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈求める学生像〉

- 技術や科学に関心のある人
- 数学や理科への興味，勉学意欲のある人
- 自主性と協調性，積極性のある人
- 人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

「三つの方針」（案）

【電気情報工学科】

学校の教育目的

１　広い視野を持ち，自然との調和を図り，人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。
（倫理）

２　科学技術の基礎知識と応用力を身につけ，時代の変遷に対応できる技術者を養成する。
（知識）

３　課題解決の実行力と創造力を身につけ，社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。
（実行力）

４　物事を論理的に考え表現する能力を身につけ，国際的に活躍できる技術者を養成する。
（コミュニケーション能力）

学科の教育目標

１　数学，物理等の基礎学理と専門基礎工学を十分に習得し，専門応用分野の急速な技術の進展に追従でき，生涯にわたる学習能力を有する。

２　技術の産物が社会や自然に及ぼす影響を判断できる力と責任感，倫理観を持つ。

３　自主的に課題に取り組む姿勢と能力を身につけ，互いに協力して課題に取り組める。

４　論理的な記述・表現ができる。

ディプロマ・ポリシー

電気情報工学科では，以下のような能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して，卒業を認定する。

１　技術者としての責任感，倫理観を有し，技術の発展が社会や自然に及ぼす影響を判断できる。

２　数学，物理等の工学分野の基礎知識と電気情報分野の基礎知識に基づいた専門応用能力を身につけ，急速な技術の発展に対応できる。

３　自主的に課題に取り組む姿勢と生涯学習能力を身につけ，互いに協力して課題に取り組むことができる。

４　レポートやプレゼンテーションの作成において，論理的な記述・表現ができる。

カリキュラム・ポリシー

電気情報工学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

１　電気・電子工学の基礎専門科目群：電気回路Ⅰ・同演習，電磁気学Ⅰ・同演習，電子回路Ⅰ・同演習，電子工学基礎など

２　情報通信工学の基礎専門科目群：情報処理基礎Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ，論理回路，オペレーティングシステム，情報通信ネットワークなど

３　電子情報工学の実験・実習科目群：電子情報創造工学実験実習Ⅰ,Ⅱ，電子情報工学実験Ⅰ,Ⅱな

ど

４　総合的能力育成のための科目群：電子情報工学応用実験，特別実習，回路設計，卒業研究など

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが，実験，実習等の科目はレポート等の評価結果により認定する。また，卒業研究は実施状況，実施報告書，卒業論文，中間発表および卒業研究発表会のプレゼンテーションに基づいて認定する。

アドミッションポリシー

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈求める学生像〉

- 技術や科学に関心のある人
- 数学や理科への興味，勉学意欲のある人
- 自主性と協調性，積極性のある人
- 人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

「三つの方針」（案）

【機械電子工学科】

学校の教育目的

１　広い視野を持ち，自然との調和を図り，人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。
（倫理）

２　科学技術の基礎知識と応用力を身につけ，時代の変遷に対応できる技術者を養成する。
（知識）

３　課題解決の実行力と創造力を身につけ，社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。
（実行力）

４　物事を論理的に考え表現する能力を身につけ，国際的に活躍できる技術者を養成する。
（コミュニケーション能力）

学科の教育目標

１　社会や文化に関する教養を身につけ，機械システムが社会や自然に及ぼす影響を考える能力を身につける。

２　メカトロニクス技術を利用し，高機能な機械システムの開発・生産に携わる能力を身につける。

３　メカトロニクスの知識を基に，与えられた課題に対し，創造性を発揮して問題解決する能力を身につける。

４　論理的な説明能力と簡単な英語でのコミュニケーション能力を持ち，社会性・協調性を発揮し行動する能力を身につける。

ディプロマ・ポリシー

機械電子工学科では，以下のような能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

１　社会や文化に関する教養を身につけ，機械システムが社会や自然に及ぼす影響を考えることができる。

２　メカトロニクス技術を利用し，高機能な機械システムの開発・生産に携わることができる。

３　メカトロニクスの知識を基に，与えられた課題に対し，創造性を発揮して問題解決することができる。

４　論理的な説明能力と簡単な英語でのコミュニケーション能力を持ち，社会性・協調性を発揮し行動できる。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために，以下の科目群を基本科目として用意している。

１　一般教養と技術者倫理：国語，社会，人文科学，社会科学，技術者倫理を扱う専門科目など

２　理数系基礎：基礎数学，微分積分，機械電子数学，物理，基礎物理学，化学など

メカトロニクス：械分野（製図，機械設計工学，材料力学，熱流体工学，加工学基礎，機械材料学など）

電気電子分野（電気回路，電子回路など），制御・情報分野（制御工学，情報処理など）

３　課題解決能力育成：基礎実験実習，機械電子工学実験，卒業研究など

４　コミュニケーション：技術科学表現，機械電子工学実験，英語，保健・体育など

アドミッションポリシー

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈求める学生像〉

- 技術や科学に関心のある人
- 数学や理科への興味，勉学意欲のある人
- 自主性と協調性，積極性のある人
- 人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

「三つの方針」（案）

【建設環境工学科】

学校の教育目的

１　広い視野を持ち，自然との調和を図り，人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。
（倫理）

２　科学技術の基礎知識と応用力を身につけ，時代の変遷に対応できる技術者を養成する。
（知識）

３　課題解決の実行力と創造力を身につけ，社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。
（実行力）

４　物事を論理的に考え表現する能力を身につけ，国際的に活躍できる技術者を養成する。
（コミュニケーション能力）

学科の教育目標

１　広い視野を持ち，環境問題やエネルギー問題などを認識し，技術者としての倫理観を高める。

２　数学物理などの自然科学に関する基礎知識を持ち，それを土台として専門基礎技術を習得する

３　各種実験・実習，設計製図やデザイン系科目などの学習により，実践力や創造力を涵養する。

４　多くの様々な報告書作成やその発表を通してコミュニケーション能力を高める。

ディプロマ・ポリシー

建設環境工学科は，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

１　建設技術者としての責任感と倫理観を有し，建設技術が社会や自然に及ぼす影響を判断できる。

２　自然科学の基礎知識と土木工学の専門知識を身につけ，技術の発展に対応できる。

３　自主的に課題に取り組む姿勢を身につけ，互いに協力して課題解決に取り組むことができる。

４　報告書作成や発表において，論理的な記述・表現ができる。

カリキュラム・ポリシー

建設環境工学科は，ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために，以下の科目群を用意しています.

１　人文社会科学及び語学と環境に関わる科目：社会，国語，英語，環境

２　工学の基礎科目：数学，物理，化学

３　土木工学の専門科目：測量，材料，構造，地盤，水理，環境，計画，施工・法規，情報処理，製図

４　技術習得のための実験・演習科目：実験実習，設計製図，工学演習

５　総合的能力育成のための科目：創成工学，卒業研究

これらの科目に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては報告書作成や発表等の評価結果により認定する。

アドミッションポリシー

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈求める学生像〉

- 技術や科学に関心のある人
- 数学や理科への興味，勉学意欲のある人
- 自主性と協調性，積極性のある人
- 人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

「三つの方針」（案）

【通信ネットワーク工学科】

◇学校の教育目的

1　広い視野を持ち，自然との調和を図り，人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。（倫理）
2　科学技術の基礎知識と応用力を身につけ，時代の変遷に対応できる技術者を養成する。（知識）
3　課題解決の実行力と創造力を身につけ，社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。（実行力）
4　物事を論理的に考え表現する能力を身につけ，国際的に活躍できる技術者を養成する。（コミュニケーション能力）

◇学科の教育目標

1　情報通信分野の技術に必要なコンピュータ，ネットワーク，エレクトロニクスの知識を身につけ技術者倫理を有する。
2　無線・有線通信に関する資格を取得するとともに，技術の変化に対応できる。
3　既成概念にとらわれず，工学技術の創意工夫と向上に努力し，共同作業ができる。
4　情報機器を用い，情報収集，文書作成および発表ができる。

《ディプロマ・ポリシー》

通信ネットワーク工学科では，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1　技術者としての倫理観と責任感を有し，社会の発展に寄与できる。
2　コンピュータ，ネットワーク，エレクトロニクスに関する基礎知識と応用能力を身につけ，技術の変化に対応できる。
3　無線・有線通信に関する資格の取得を目指し自主的・継続的に学習できる。
4　既成概念にとらわれず，工学技術の創意工夫と向上に努力し，共同作業ができる。
5　情報機器を用い，情報収集，文書作成およびプレゼンテーションができる。

《カリキュラム・ポリシー》

通信ネットワーク工学科では，ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。また，卒業時に第一級陸上特殊無線技士の国家資格が取得できるよう科目を配置しています。

1　電気・電子工学の基礎専門科目：電気磁気学，電気回路，電子回路など
2　通信技術関連の専門科目：無線通信工学，電気通信システム，電波伝送学など
3　ネットワーク技術関連の専門科目：コンピュータネットワーク，ネットワークプログラミング，情報セキュリティなど
4　技術修得のための実験・演習科目：創造実験・実習，基礎工学実験・実習など
5　総合的能力育成のための科目：工学実験，通信工学セミナー，卒業研究など

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが，科目によっては，レポートやプレゼンテーション等の評価結果により認定する。

《アドミッション・ポリシー》

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈求める学生像〉

- 技術や科学に関心のある人
- 数学や理科への興味，勉学意欲のある人
- 自主性と協調性，積極性のある人
- 人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

「三つの方針」（案）

【電子システム工学科】

◇学校の教育目的

１　広い視野を持ち，自然との調和を図り，人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。（倫理）

２　科学技術の基礎知識と応用力を身につけ，時代の変遷に対応できる技術者を養成する。（知識）

３　課題解決の実行力と創造力を身につけ，社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。（実行力）

４　物事を論理的に考え表現する能力を身につけ，国際的に活躍できる技術者を養成する。（コミュニケーション能力）

◇学科の教育目標

１　回路，半導体，コンピュータなどの専門科目を基礎として，デバイスやロボットに関する実践的な専門技術を身につける。

２　広い視野を持ち，設計，製作，問題発見，問題解決ができる。

３　計画を立案し，継続して課題に取り組むことができる。

４　物事を論理的に考え，文章や口頭で発表できる。

《ディプロマ・ポリシー》

電子システム工学科では，以下のような能力を身に付け，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

修得する能力

１　回路，半導体，コンピュータなどの専門科目を基礎とした，デバイスやロボットに関する実践的な専門技術

２　広い視野を持ち，設計，製作，問題発見，問題解決ができる能力

３　計画を立案し，継続して課題に取り組むことができる能力

４　物事を論理的に考え，文章や口頭で発表できる能力

《カリキュラム・ポリシー》

電子システム工学科では，ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

１　電気・電子工学の基礎専門科目：電気磁気学，電気回路，電子回路など

２　ロボット技術関連の専門科目：制御工学，ロボット工学など

３　デバイス技術関連の専門科目：半導体工学，半導体デバイス工学など

４　技術修得のための実験・演習科目：創造実験・実習，基礎工学実験・実習など
５　総合的能力育成のための科目：工学実験，電子システムセミナー，卒業研究など
これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが，科目によっては，レポートやプレゼンテーション等の評価結果により認定する。

《アドミッション・ポリシー》

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈求める学生像〉

- 技術や科学に関心のある人
- 数学や理科への興味，勉学意欲のある人
- 自主性と協調性，積極性のある人
- 人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。

「三つの方針」（案）

【情報工学科】

◇学校の教育目的

１　広い視野を持ち，自然との調和を図り，人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。（倫理）

２　科学技術の基礎知識と応用力を身につけ，時代の変遷に対応できる技術者を養成する。（知識）

３　課題解決の実行力と創造力を身につけ，社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。（実行力）

４　物事を論理的に考え表現する能力を身につけ，国際的に活躍できる技術者を養成する。（コミュニケーション能力）

◇学科の教育目標

１　広い視野を持ち，社会の要求する情報システムを設計・構築できる。

２　コンピュータの基礎から応用まで体系的に理解し，コンピュータを活用できる。

３　主体的に問題を提起し，継続して課題に取り組み，解決できる。

４　文章能力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を有する。

《ディプロマ・ポリシー》

情報工学科では，以下の能力を身につけ，所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

１　幅広い知識と教養を身につけ，社会の発展に寄与できる。

２　情報工学に関する基礎から応用までの知識を有し，時代の変遷に対応できる。

３　情報科学における新たな問題を提議でき，それを解決するためのシステムを構築できる。

４　物事を論理的に思考でき，それを表現して伝えるコミュニケーション能力を有する。

《カリキュラム・ポリシー》

情報工学科では，ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために，以下の科目群を用意しています。

１　情報工学の基礎専門科目：情報処理Ⅰ，基礎情報工学，情報構造論など

２　コンピュータ技術関連の専門科目：計算機アーキテクチャ，システムソフトウェア，画像工学など

３　ネットワーク技術関連の専門科目：コンピュータネットワーク，情報セキュリティ，データベースなど
４　技術修得のための実験・演習科目：創造実験・実習，基礎工学実験・実習など
５　総合的能力育成のための科目：工学実験，情報工学セミナー，卒業研究など

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが，科目によっては，レポートやプレゼンテーション等の評価結果により認定する。

《アドミッション・ポリシー》

本校の教育目的を達成することができるように，中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し，技術者を志す次のような人を求めます。

〈求める学生像〉

- 技術や科学に関心のある人
- 数学や理科への興味，勉学意欲のある人
- 自主性と協調性，積極性のある人
- 人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき，その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし，推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため，推薦書，調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では，本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため，学力検査と調査書を総合評価します。